

## No.24 >>> Contents

### ●提携支援センターから

- 「蚕糸・絹業提携グループ全国連絡協議会」が発足  
 ..... 蚕糸・絹業提携支援センター ..... ①
- 熊本で純国産絹製品展を開催 ..... 社団法人 日本絹業協会 ..... ⑦
- 地元群馬の繭を使った絹洋装品で国内外に発信  
 ..... 群馬絹文化研究会 (有)ミラノリブ代表 笹口晴美さんに聞く ..... ⑪
- 平成 23 年度第 6 次分の純国産絹マーク使用許諾状況  
 ..... 社団法人 日本絹業協会 ..... ⑮
- 提携支援センター活動日誌 No. 24 ..... ⑰

### ●今月の話題

- 時代の要請に応える西陣織会館『マルチ染織会館』に変容  
 ..... 西陣織工業組合 専務理事 碓山俊光 ..... ⑱

### ●国内情報

- シルク遺産を訪ねて④ 我孫子市の山一林組生糸工場跡  
 ..... 東京産業考古学会 副会長 平井 東幸 ..... ⑳

### ●トピックス

- 国内産地情報、海外情報 (中国) ..... ㉔

### ●横浜開港とシルク貿易

- 横浜市内の蚕糸施設 ..... シルク博物館 元部長 小泉 勝夫 ..... ㉙

### ●イベント情報

### ●純国産絹マーク使用許諾者及び主な絹製品名一覧

### ●蚕糸関係博物館一覧

### ●蚕糸関係団体ホームページ一覧

### ●統計資料

(統計資料の詳細は統計資料目次をご覧ください。)



## 「蚕糸・絹業提携グループ全国連絡協議会」が発足

### 蚕糸・絹業提携支援センター

去る4月10日、「蚕糸・絹業提携グループ全国連絡協議会」の設立総会が東京有楽町「蚕糸会館」で開催された。

ご高承のとおり、平成20年2月から、国産繭、生糸の希少性を活かした高品質な純国産絹製品づくりを通じて、蚕糸絹業の再生と持続的発展を図ることを目的に、蚕糸絹業の各業態を含めたグループづくりを進めることを目的とした蚕糸・絹業提携支援緊急対策事業が始められたが、その結果、全国で57の蚕糸・絹業提携グループが誕生し、日本の養蚕農家が生産する繭については、その全量がグループ内に取り込まれることとなった。

しかしながら、当初のグループが誕生して4年が経過した今日、引き続き中国等からの輸入圧力に加え、ヨーロッパの経済危機に端を発した世界的な不況の長期化、更に昨年3月の東日本大震災の経済界、市民生活に及ぼした多大な影響等により、これらグループの純国産絹製品の販売環境は厳しい状況に立ち至っている。

このような状況を打破するため、57提携グループの責任企業がグループ間の横の連携を密にし、純国産絹製品を一般消費者へアピールするためのPR活動の充実、又そのための展示会の開催等を目的として、連絡協議会が立ち上げられたのである。



設立総会の開催

## 蚕糸・絹業提携グループ全国連絡協議会設立趣意書

絹産業の分野において、いわゆる川上と言われる蚕糸業（養蚕業、製糸業等）と、川中・川下と言われる絹業（絹織物業、絹織物問屋・小売業等の流通業等）が連携し、国産繭・生糸の希少性を活かした高品質な純国産絹製品づくりを通じて、蚕糸業の再生と持続的発展を図ることを目的として、蚕糸・絹業提携支援緊急対策事業（以下「緊急対策事業」という。）が平成20年2月から始まりました。

農林水産省・経済産業省の肝いりで始められたこの事業に対し、私達は、近年の中国等からの絹織物、更には絹二次製品の輸入の増加により悪戦苦闘している日本の絹産業において、絹製品の原料である国産繭を一定量確保し、この繭を使った生糸で純国産絹製品を作っていくことは日本の絹文化に寄与することであり、このことは消費者の絹に対する理解につながり、ひいては絹産業全体の維持・発展を図っていく上で有効ではないかと考え、緊急対策事業の推進母体である、財団法人大日本蚕糸会蚕糸・絹業提携支援センター（以下「支援センター」という。）と連携して、これまで蚕糸・絹業提携グループ（以下「提携グループ」という。）の構築に取り組んできたところです。その結果、現在、緊急対策事業の確立事業を終了した提携グループを含めて全国で57の提携グループが活動しており、日本の養蚕農家が生産する繭については、その全量を提携グループが利用する状況になっています。

この提携グループの責任企業となっている私達にとって、提携グループの事業活動を継続・発展させていくことが、日本の養蚕農家の維持を図り、ひいては今後の日本の蚕糸・絹業の発展に直接結びついていくことになると考えており、その役割の重要性について再認識しているところであります。

以上のような経過を経て、最初の提携グループが発足して以降4年が経過しようとしているところですが、緊急対策事業が進むにつれ、支援センターへは、提携グループからの本事業に関する様々な問合せが多くなっているとこのことであり、また、昨今の厳しい販売状況を打破するため、各提携グループが取り組んでいる純国産絹製品を消費者にアピールする展示会等を、提携グループが連携して実施してはどうかの声も出ているようであります。

このような状況を踏まえ、支援センターの支援も得て、支援センターとの間はもとより、提携グループ間の連絡・調整の窓口になるとともに、提携グループが主体的に取り組む展示会等を支援し、更には自らも実行することにより、提携グループの発展はもとより、絹業界全体の維持・発展を図り、ひいては日本の絹文化に寄与することを目的として、「蚕糸・絹業提携グループ全国連絡協議会」を設立します。

平成24年4月10日

蚕糸・絹業提携グループ全国連絡協議会設立準備会

当日の出席者は全57グループのうち、委任状出席者を含め全員出席で、1つのグループの漏れもなかった。

冒頭、連絡協議会の代表幹事になられた、株式会社マルシバの木下幸太郎社長からは、「厳しい環境下ではあるが、純国産絹製品を扱っていく以上は、高品質の繭で、質の高い絹製品を消費者に提供していかなくてはならない。各グループのみなさんが、思い違いのないよう共通のコンセンサスの

もとで事業を進めていきたい。要は、養蚕、製糸、絹産業のいずれもが、スムーズに活動していけるような連絡協議会でありたい。」との挨拶があった。

次いで、蚕糸・絹業提携支援センターの高木賢センター長からは、

「設立準備会を経て、本日の設立総会開催の運びとなった。57の各グループと提携支援センターとは、タテの関係で密に連絡を取り合ってきたが、このたびはグルー

プ間を横に繋ぐ横断的組織を作り上げられたわけで、純国産グループ同士お互いに競争もあろうが、一方で共通の目的のために協調されていくことも大事だと思う。本日の設立にこぎ着けるまでの関係者のご努力に敬意を表したい。

今後とも多々困難はあろうが、互いに協調性をもって、共通の課題のもと、目的実現のために前進させていってほしい。」

との挨拶があった。

総会の議事に入り、1号議案の「蚕糸・絹業提携グループ全国連絡協議会設立趣意

書」を初め、「蚕糸・絹業提携グループ全国連絡協議会規約」が全員一致で可決採択され、次いで役員を選出が行われ別表のとおり選任された。

さらに参加グループの年会費、初年度の事業計画及び同収支予算等全ての議案が可決決定された。

なお、総会の最後に同全国連絡協議会の事務局を株式会社マルシバ（東京・日本橋人形町）内に設けること、更に事務局員として大石 明（元三越呉服仕入担当部長）氏が紹介された。

### 蚕糸・絹業提携グループ全国連絡協議会役員名簿

#### 代表幹事

株式会社マルシバ（白繭細1号プロジェクト開発チーム他2グループ）  
代表取締役社長 木下幸太郎

#### 幹 事

上田蚕種株式会社（上田蚕種の会）  
代表取締役社長 手塚本衛

碓氷製糸農業協同組合（碓氷製糸シルク工房の会他1グループ）  
代表理事組合長 高村育也

西陣織工業組合（西陣純国産絹振興会）  
理事長 渡邊隆夫

株式会社伊と幸（純日本の絹文化協会「松岡姫」グループ）  
代表取締役社長 伊藤公一

西川産業株式会社（ふくしまみらいシルクの会）  
代表取締役社長 西川康行

有限会社ミラノリブ（群馬絹文化研究会）  
代表取締役社長 笹口晴美

株式会社丸上（日本絹文化振興会）  
代表取締役社長 上達征次

#### 監 事

株式会社千總友仙工場（千總純国産絹製品販売・商品開発グループ）  
代表取締役社長 俵 武司

西尾呉服店（絹の会ぐんま200プロジェクト）  
代表取締役社長 西尾仁志

（敬称略）

## 蚕糸・絹業提携グループ全国連絡協議会規約

### (名称)

第1条 この協議会は、蚕糸・絹業提携グループ全国連絡協議会（以下「協議会」という。）という。

### (目的)

第2条 協議会は、蚕糸・絹業提携支援緊急対策事業（以下「緊急対策事業」という。）により構築した蚕糸・絹業提携グループ（以下「提携グループ」という。）及び財団法人大日本蚕糸会蚕糸・絹業提携支援センター（以下「支援センター」という。）との連絡・調整、提携グループが行う純国産絹製品展示会等の取組への支援、全国的規模の純国産絹製品展示会等の実施、純国産絹製品に関する宣伝手法の開発等により、緊急対策事業の円滑な推進に寄与することを目的とする。

### (協議会の活動)

第3条 協議会は、目的達成のため次の活動を行う。

- (1) 協議会に参加する各提携グループ及び支援センターとの連絡・調整
- (2) 純国産絹製品に関する情報の収集・加工・提供及び宣伝並びにそれらの手法の開発
- (3) 協議会及び協議会に参加する提携グループが行う純国産絹製品の展示会等の開催
- (4) 前各号に掲げるもののほか、協議会の目的を達成するために必要な事業

### (会員)

第4条 協議会の会員は、協議会に参加する意思を有する提携グループとし、当該グループの代表者が提携グループを代表する。

### (オブザーバー)

第5条 協議会に、必要に応じて、オブザーバーを置くことができる。

### (役員及び選任)

第6条 協議会に、次の役員を置く。

- (1) 幹事10人以内
  - (2) 監事2人以内
- 2 幹事及び監事は、総会において代表者中から選出する。
  - 3 幹事及び監事は、相互に兼ねることができない。
  - 4 幹事の中から、代表幹事1名を互選する。

### (役員職務及び任期)

第7条 代表幹事は、会務を総理し、協議会を代表する。

- 2 幹事は協議会の事業計画、事業予算等の重要事項を審議する。
- 3 監事は、協議会の事業及び運営等を監査する。
- 4 役員任期は2年とする。ただし、再任は妨げない。

### (会議)

第8条 協議会の会議は、総会及び幹事会とする。両会議とも代表幹事が招集し、その議長となる。

### (総会)

第9条 総会は会員をもって構成し、通常総会及び臨時総会とする。通常総会は、毎事業年度終了後、速やかに行う。  
臨時総会は、次に掲げる場合に開催する。

- (1) 幹事会において必要と認めるとき。
  - (2) 会員の3分の1以上の請求があったとき。
- 2 総会の定足数は、会員の過半数とする。

3 次に掲げる事項は、総会の議決を経なければならない。

- (1) 規約の変更
- (2) 解散及び残余財産の処分
- (3) 会費の額及びその徴収方法に関する事項
- (4) 事業計画及び収支予算に関する事項
- (5) 事業報告書、財産目録及び収支決算に関する事項
- (6) 幹事及び監事の選任
- (7) その他幹事会が必要と認めた事項

4 総会の議事は、出席会員の過半数の同意をもって決し、可否同数の時は、議長の決するところによる。

5 会員は、総会において、各1個の議決権を有する。

6 総会には、提携グループの構成員も参加できるものとする。ただし、議決権は有しないものとする。

(幹事会)

第10条 幹事会は、幹事をもって構成する。

2 監事は幹事会に出席することができる。

3 次に掲げる事項は、幹事会において審議し、又は決定するものとする。

- (1) 総会に提出する議案及び総会の招集に関する事項
- (2) 事業の執行に関する事項
- (3) 細則の制定及び改廃に関する事項
- (4) その他代表幹事が必要と認めた事項

4 代表幹事は、簡易な事項又は緊急を要する事項については、書面をもって賛否を求め、幹事会に代えることができる。

5 前項の規定により議決を行った場合は、次の幹事会において報告をしなければならない。

(事務局)

第11条 協議会には、目的達成のための活動を円滑に実施するため事務局を設置する。

2 事務局は東京都に置く。

3 事務局の組織、運営その他必要な事項は、代表幹事が幹事会に諮って別に定める。

4 事務局員は、代表幹事が任免する。

(事業年度)

第12条 協議会の会計年度は、4月1日から翌年3月31日までとする。

(会費及び負担金)

第13条 協議会は、その運営経費に充当するため、毎年度会費を徴収することができるものとする。

2 会費の額及びその徴収方法は、総会で決定する。

3 協議会は、事業実施の受益が特定の会員に帰属するときは、当該会員に対し、負担金を徴することができるものとする。

(細則)

第14条 この規約に定めるもののほか、協議会に関して必要な事項は細則で規定することとし、代表幹事が幹事会に諮った上で、総会で定める。

(付則)

第15条 この規約は、平成24年4月1日から施行する。

2 本規約の改廃は、幹事会及び総会の議を経て行う。

## 初年度(平成24年4月10日～平成25年3月31日)事業計画(案)

蚕糸・絹業提携グループ全国連絡協議会

◎ 提携グループ全国連絡協議会の事業は、以下の3つの事業等により実施する予定。

### 1 蚕糸絹業提携支援緊急対策事業で実施(大日本蚕糸会の委託事業)

区 分	事業内容(委託の対象)等	実施時期
<p>純国産絹製品のPR・販売促進の強化</p> <p>(1) 「純国産絹製品のPR・販売促進強化戦略」の作成</p> <p>(2) 純国産絹製品のPR・販売促進</p>	<p>(1) PR関係の専門家(会社)が加わった「純国産絹製品のPR・販売促進強化戦略検討会」の開催及び報告書の作成(会議費、謝金、調査旅費、報告書作成費等)</p> <p>(2) 戦略策定のための実践的なプリテスト又はケーススタディの実施</p> <p>① 純国産絹製品のPR・販売促進に直結する戦略的展示会の開催                      ア 純国産絹製品の特長・希少性に焦点を当てた、戦略的な全国規模の純国産絹製品展示会の開催(会場借上費、会場設営費、運搬費、パフレット作成費、会議費、旅費等)</p> <p>イ 責任企業が異なる複数の提携グループが協同してテーマを明確にした、戦略的な純国産絹製品展示会の開催(会場借上費、会場設営費、運搬費、パフレット作成費、会議費、旅費等)</p> <p>ウ 各々の提携グループの特長をアピールした、提携グループ毎に行う戦略的な純国産絹製品展示会の開催(会場借上費、会場設営費、運搬費、パフレット作成費、会議費、旅費等)</p> <p>② 純国産絹製品の販売促進に直結する宣伝手法の開発                      ア 各種メディアと提携した、定期的情報発信システムの開発                      イ 各提携グループとリンクした魅力あるホームページモデルの作成と、そのフォローアップ</p>	<p>24.5～ 25.2</p> <p>24.7～ 25.1</p>

### 2 大日本蚕糸会の活性化事業で実施予定(大日本蚕糸会の補助事業)

事業区分	事業内容(助成対象)等	実施時期
<p>提携グループ全国連絡協議会支援事業</p> <p>(1) 協議会事務局設置管理の支援</p>	<p>協議会事務局設置管理費</p> <p>① 事務局設置管理費(部屋使用、電気、水道、電話、FAX等の使用料等の経費)</p> <p>② 事務局備品等整備費(パソコン導入、電話回線の開設、HPの開設・管理等)</p>	<p>24.4～ 25.3</p>
<p>(2) 協議会事務局員設置の支援</p>	<p>協議会事務局員設置費</p> <p>① 事務局員の賃金及び通勤費(事務局員は1名、週2日)</p>	<p>24.4～ 25.3</p>

### 3 全国協議会の会員の会費で実施を予定するもの

事業区分	事業内容等	実施時期
<p>提携グループ全国連絡協議会事務局経費</p>	<p>協議会事務局活動運営経費</p> <p>① 協議会の総会及び幹事会の開催(会場費、役員旅費、会議費等)</p> <p>② 協議会役員及び事務局員活動旅費(出張旅費、連絡交通費)</p> <p>③ 事務局の事務費(消耗品等)</p> <p>④ その他代表幹事が幹事会に諮り必要と認められた事項の経費</p>	<p>24.4～ 25.3</p>

## 熊本で純国産絹製品展を開催

—「希少な繭・手の温もり」をアピール—

### 社団法人 日本絹業協会

当協会は、昨年に引続き、平成24年2月15日（水）から20日（月）までの6日間にわたり、熊本県内の鶴屋百貨店（熊本市）で純国産絹製品展を開催し、会期中延べ1,500名にのぼる多くのお客様にご来場いただきました。

この特別企画展を開催するにあたっては、県内の報道機関（熊本日日新聞、熊本放送（RKK）、テレビ熊本（TKU）、熊本朝日放送（KAB）、熊本県民テレビ（KKT）、NHK熊本放送局、FMK、熊本シティエフエム）、財団法人大日本蚕糸会、社団法人日本絹人織物工業会、社団法人全日本きもの振興会、社団法人熊本県蚕糸振興協力

会等多くの関係機関のご後援をいただき、感謝の念にたえません。

重ねて、ご後援を頂いた熊本日日新聞が記事取材、NHK熊本放送局、熊本朝日放送、くまもと県民テレビ、テレビ熊本の取材があり、新聞紙上をはじめ、各局のニュース番組等でも報道をしていただき、来場者の増大にも多大な効果がありました。

また、初日（2月15日）の開催前の行事として、熊本県農林水産部農産課長本田健志氏、（社）熊本県蚕糸振興協力会会長長野和男氏、熊本県養蚕農家代表（下益城郡美里町）有水健喜氏、日本蚕糸絹業開発協同組国産シルク研究会熊本部会代表小



純国産絹製品展の入口コーナー



訪問着を試着するお客様



くまモンとぐんまちゃんの座繰実演

林幸夫氏、県を代表するキャラクター“くまモン（熊本県宣伝部長）とぐんまちゃん（群馬県代表）”、（株）鶴屋百貨店代表取締役社長久我彰登氏の参加を得て盛大に開会式を開催することができました。

会期中を通じて、今や希少になった日本の繭・生糸を素材に、純国産絹製品に純国産絹マークを添付した絹製品（別記）の展示を行い、純国産絹製品の良さを、九州で養蚕農家が多すぎる熊本でアピールできたことは、純国産絹製品の消費につながり、日本の蚕糸・絹業の発展にとって非常に有意義なことと思われま



熊本県産繭から作った白生地

また、展示会には大島紬の生産者、沖縄の絹工房からも特別参加があり、大島紬、琉球紬の織物の紹介も併せて行うことができ、展示内容に厚みを増す事が出来ました。

平成23年の熊本県の養蚕農家は、6戸で580Kgの繭の生産を行っています。全国の繭生産量220トンのうち僅かに0.3%のシェアです。

会場になった鶴屋百貨店はこの6戸の養蚕農家と提携・支援事業を組み、熊本の希少な繭から作られたきものを、是非、熊本の方々に着ていただきたいという願いを込めた企画展でもあったのです。



お客様自らが座繰体験

蚕の飼育展示コーナーでは、当初生きているカイコを触ることが出来なかった人も会期中、日を重ねるにつれてカイコに触ることが出来、かわいい、冷たくて気持ちがいい、新幹線に似ているなどと様々な感想を述べられていました。蚕の営繭の様子に見入り、蚕が糸を吐く様子を見てその神秘さに驚く方が多くおられました。また、カイコを見て、飼われていた頃を思い出されたのか、涙ぐむ方もいらっしゃいました。

上州式座繰実演コーナーでは、ぐんま黄金、ぐんま 200 の繭で繰糸の実演を行いました。「生糸は、こんな細い糸が束になり生糸ができるのね」、1本の繭糸を切り、1本でも強い糸だと評価をしてくださる方々もおられました。また、この座繰りの実演コーナーでは、「昔は繭から糸を紡いで織物を作っていたのでとても懐かしい」と暫し見とれている方もおられました。

鶴屋百貨店の開店前の朝礼では、毎日、純国産絹製品、絹繊維とはどんなものか、熊本の蚕糸業の歴史を知るための学習会が行われ、販売員が接客時には絹に対する新しい知識を消費者に伝授するなど、社員、販売員の純国産絹製品に対する意気込み、



出展コーナーには絶えず人だかりが

士気の高さに驚かされました。

今回の展示会が成功裏に終わられたことは、出品のご協力をいただいた各企業の皆様方や会場を提供をいただいた鶴屋百貨店の皆様方のご協力の賜物と深く感謝いたしております。

当協会は、今後ともこのように来場者が見て、触れて楽しめるような「純国産絹製品の企画展」を計画・立案し、皆様方のご協力のもと、消費者、また報道機関を対象に、日本の繭・生糸から作られた純国産絹製品を知っていただく機会を全国各地に広めていきたいと考えております。

なお、企画展示会等のご相談ごとがあれば、当協会あてに遠慮なくご連絡ください。



## 出展各社の主な展示製品

(純国産絹マーク使用許諾者のうち今回は 14 者が出展されました)。

出展者	主な展示製品
荒川株式会社 (京都府京都市)	帯締
株式会社伊と幸 (京都府京都市)	着尺 (又昔紋色無地三丈・又昔色無地一方付着尺)
株式会社岩田 (京都府京都市)	袋帯
株式会社小倉商店 (茨城県結城市)	結城紬着尺 (風土 31 (朝日×東海))
織匠万勝 (京都府京都市)	袋帯、先染着尺
株式会社甲斐絹座 (山梨県富士吉田市)	ネクタイ、スカーフ
株式会社加藤萬 (京都府京都市)	帯揚、半衿 (白衿)
絹小沢株式会社 (群馬県高崎市)	白生地 (新小石丸、世紀 21)、紋付地、長襦袢地、胴裏 (世紀 21) 胴裏 (ぐんま 200) ほか、江戸小紋 (藍田正雄)、友禅染 (永井與子)
田中種株式会社 (大阪府大阪市)	後染着尺 (常磐染、伊勢型紙染、黄櫨染)
株式会社千總 (京都府京都市)	振袖、訪問着、色無地、小紋、付下
富岡シルクブランド協議会 (群馬県富岡市)	ネクタイ、スカーフ、ストール
有限会社ミラノリブ (群馬県桐生市)	ストールほか
宮井株式会社 (京都府京都市)	本藍染二幅 ふろしき
手織りよおん (沖縄県沖縄市)	着尺

(地元参加者)

出展者	主な展示製品
奄美島絹推進協議会 (鹿児島県龍郷町)	紬着尺、名古屋帯、名古屋帯 (緯糸に芭蕉)
琉球絣事業協同組合 (沖縄県南風原町)	琉球絣 (上布、紬)、花織帯、ショール、ネクタイ、花織巾着

## 地元群馬の繭を使った絹洋装品で国内外に発信 —群馬絹文化研究会 (有)ミラノリブ 代表 笹口晴美さんに聞く—

蚕糸・絹業提携支援センター  
野村 郁治

生まれ故郷、地元桐生の地場産業の一端を担う者として、我が国最大の繭産地である群馬県特産の繭で町起こしをはかりたい。

そういう思いで、笹口さんは、提携・支援事業の始まる以前の平成16年から、地元の養蚕農家と繭の買い取りの特約契約を結び、国産絹の洋装品に特化したニット製品等の製造・販売に奔走してきた。

「絹のニット製品というのがまた難物でした。」開発当時を振り返る笹口さん。

嫁ぎ先の家業が、創業80年三代にわたるニット・メーカーでニット製造の技術があったものの、その元となる絹のニット糸づくりがほとんど未知の分野で、もともと最も繊細な天然繊維といわれる絹糸をニット製造機にかけて文字どおり機械的に編み込んでいこうというのだから、その素材開発には困難を極めたという。

地元の繊維工業試験場や蚕糸技術センターの指導のもと、蚕の適正品種の選定から始め、ニット糸として使えるような糸を作り出すためだけに1年間の試行錯誤を必要としたという。



提携養蚕農家と関係者のみなさん

地元群馬県のオリジナル蚕品種「ぐんま200」で基本のデータを作り上げ、顧客の意見も聞きながら、ようやくニットとして使える糸作りに成功したわけで、全国の他のニットメーカーが直ちに絹ニット製品を製造、とはまならない訳がここにある。

しかも、原料である繭から最終製品に至るまで、純国産絹しか使用しないという姿勢で、商品履歴のはっきりした和装の純絹製品のように、ニット製品にも物語性を持たせ、トレーサビリティを明示していきたいという強い想いを込めている。

また、そのようなニット製品を身につけたいという消費者層が全国には、かなりの



シルクの光沢と純銀の煌き、オーロラストール

パーセンテージで存在するという確信のようなものも、長い地場産業経営の経験から感じていた。

### さらなる発展のために提携事業に取り組む

平成19年、ミラノリブが目指していた事業活動の発展型ともいえる純国産絹製品作りをめざした、「蚕糸・絹業提携支援事業」が始まるということで、早速、関係者の指導のもと別表のようなシステムを作り



繭染めストール“モルフォ”

あげ、以前よりもはるかに多くの事業体が参画し、スケールアップした形で事業に取り組むこととなった。

かつて、「西の西陣、東の桐生」と謳われた地元桐生には、桑園からはじまり、養蚕農家、製糸工場、撚糸工場、機織り、染色、縫製加工にいたる全ての事業体が有機的に機能していた。その後の幾多の経済変動を経て、最盛期の面影はないものの他の地域に較べれば、まだまだ有機的結合は残されている。

「蚕糸・絹業提携支援事業」を立ち上げるにあたっては、この一連の事業体を基本に組織化し、グループを作り上げた。

繭生産については、前橋市大胡町の狩野、岡田、小沢、大竹各氏4戸の養蚕農家が同市農業協同組合大胡支所の指導のもと良質な繭を生産し、安中の碓氷製糸で生糸に、これに縀りかけた撚糸を地元桐生の今井染色で染め上げ、最後の製品開発、製造販売はいうまでもなくミラノリブである。

### こだわりのブランド名は“Chijila”（チヂラ）

笹口社長の絹へのこだわりは、自社ブランドの命名にも遺憾なく発揮されている。

蚕は、やがて蛹となる自身の身を護るために繭糸を吐いて繭を作るが、この時に頭を大きく左右に振りながら横に8の字を描くように吐いていく。最も効率よく繭をつくりあげていく行動ともいえるが、それにより繭糸の一本一本が大きなウエーブ（ちぢ（縮）れ）を作り出すことになる。同じ



### CHIJIILA (ちぢら) のブランドマーク

天然繊維の中でも羊毛に見られるような短繊維のウェーブとは全く異なった、長繊維のしかも連続する大きなウェーブこそが絹の縮れの根元的な特徴といえる。

この連続性のある縮れが、絹を布やニット製品に作りあげた時の独特のドレープ性に大きく関与している。

蚕の繭の表面がしわしわの状態に縮れている様子を“縮ら”というが、この絹の原点であり、最も絹の本質を言い表している繭の縮れている様子“縮ら”をそのまま表現し、自社のブランド名を“Chijila” (チヂラ) としたのである。

そこには、絹だけが持つ本質的な特徴を内外の消費者のみなさんに出来る限り分かりやすく伝えたい、との思いがこめられている。

### 繭そのものを染め上げ、 カラフルなニット糸作り

平成 19 年 9 月、ミラノリブの技術者たちは、さらに他社製品との差別化を図るた

めに日々研鑽をかさね、独特の手法にたどり着き、特許を取得した。

目から鱗のような、その手法とは、「たまごとニワトリ」ではないが、誰もが思いつき、何故か実現しなかった絹の染色法で、先染めでなく、後染めでなく、大もとの繭の段階で繭糸そのものをいろいろな色に染めしてしまうという方法だ。

それらのカラフルな繭の色の組み合わせによって繰糸工程で色調を整え、多彩な有色生糸を作り出す技術に加え、染色堅牢度でも規準値以上をクリアーし、特許取得がなかったという。

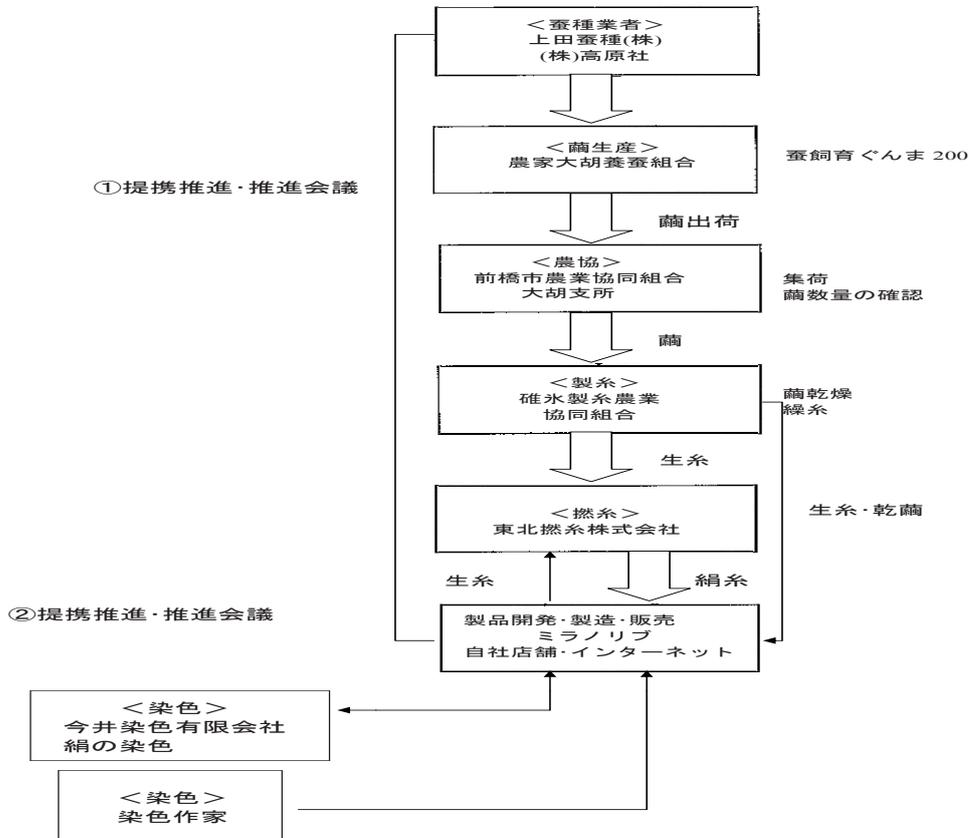
もう少し詳細に触れると、色の三原色を応用し、赤と青に染色された繭から紫色を、黄と青の繭から緑色を、赤と黄の繭から橙色が繰糸できるが、この組み合わせが一応の基本となる。

さらにこの組み合わせを発展させ、それ



虹色に輝く糸を生み出すカラー繭

## 群馬絹文化研究会フローチャート



それぞれの繭の粒数を変化させることにより、色調は、無限に広がる。

この色調手法により、通常のカセ染めでは出せない虹色に乱反射する繊細な美しい生糸を作り出すのが伝統の「上州座繰り」で、この糸から織られた純国産の絹ニット製品は、そのデザイン性からも他の追随を許さない出来映えで、リピーターが後を絶たないという。

### 純国産絹製品のめざすところ

最後に、笹口社長は、  
「絹産業は、まさに出会いと感動の産業である。これほど創り手の想いが投影され

る素材は他には存在しない。この神秘的なところが、絹の最大の魅力であるが、併せて、今日の消費動向から見ると、ある程度金額の張る商品については、モノ売り、コト売りと言われるように、消費者はその商品について、納得のいく物語性、確かな商品履歴（トレーサビリティ）を求めている。純国産絹製品づくりの正否はまさに、その点を消費者に認められ、納得してもらえるかにかかっている。

今後も養蚕農家と創り手のおもい、消費者の思い、郷土を愛する想いが一つになればという願いを込めて物づくりに精進していきたい」

と絹に対する熱い想いで結ばれた。

## 平成 23 年度第 6 次分の純国産絹マーク使用許諾状況

—新規使用許諾 2 者、新規製品 10 品目に使用許諾—

社団法人 日本絹業協会

純国産絹マークの平成 23 年度第 6 次審査会を平成 24 年 3 月 12 日（月）に開催し、今回、15 者（うち、新規使用許諾申請が 2 者で新規製品が 10 品目、使用許諾されている者の製品の追加が 2 品目、生産数量の追加が 20 品目）から申請があり、審査委員会で審査した結果 15 者に対し、3 月 21 日付けで純国産絹マークの使用許諾をいたしました。

純国産絹マーク使用許諾企業名 (表示責任者名)	表示対象 製品名	表示対象 数量	生産履歴の内容 (繭生産地・企業等)
きものおかだ 代表者名：岡田いち子 (担当者：岡田いち子) 兵庫県美方郡香住町香住区香住 1560 Tel 0796-36-0737 表示者登録番号 158	後染反物（小紋） (変一越) (紋意匠)	5反 5反	制作企画 田中種(株) 繭生産 JA 碓氷安中管内養蚕農家 製糸 碓氷製糸農協 製織 南久ちりめん(株)、芝井(株) 染色 高田勝(株)
株式会社 J S 代表者名：柏木秀基 (担当者：柏木秀基) 山梨県富士吉田市大明見 308 Tel 0120-2236-39 表示者登録番号 159	スカーフ ストール シャツ スカート地 スーツ地 コート地 布団 布団カバー	15,000 枚 3,000 枚 200 枚 100 枚 100 枚 50 枚 340 枚 100 枚	制作企画 (株)山桜 繭生産 山梨県内養蚕農家 製糸 松澤製糸所 製織 (有)カシワギ 縫製 高野縫製所
(製品の追加) 田中種株式会社 代表者名：田中隆 (担当者：住本文男) 大阪府中央区南本町 2-1-8 Tel 06-6261-2091 表示者登録番号 060	後染反物 (黒紋付) (加賀友禅)	3反 5反	繭生産 JA 碓氷安中管内養蚕農家 製糸 碓氷製糸農協 製織 南久ちりめん(株) 染色 (株)一壺、(株)カネヒサ
(生産数量の追加) 丸専第一衣料株式会社 代表者名：永澤日佐夫 (担当者：永澤日佐夫) 新潟県長岡市大手通 2-1-8 Tel 0258-32-9394 表示者登録番号 086	裏絹 (パールトーン 加工)	300 枚	制作企画 日本蚕糸絹業開発協同組合 繭生産 群馬県内養蚕農家 製糸 碓氷製糸農協 製織 (株)カフト 精練 (有)江島屋染工場 加工 (株)パールトーン
(生産数量の追加) 株式会社きもの潮見 代表者名：潮見憲一 (担当者：潮見憲一) 愛媛県西条市玉津 558-2 Tel 0897-56-0999 表示者登録番号 074	裏絹 (パールトーン 加工)	300 枚	制作企画 日本蚕糸絹業開発協同組合 蚕品種 ぐんま 200 繭生産 群馬県内養蚕農家 製糸 碓氷製糸農協 製織 丸進機業(株) 精練 (有)江島屋染工場 加工 (株)パールトーン
(生産数量の追加) おお又株式会社 代表者名：大又義弘 (担当者：大又義弘) 大阪府旭区今市 1-5-15 Tel 06-6955-2200 表示者登録番号 072	裏絹 (灰汁浸け加工)	500 枚	制作企画 日本蚕糸絹業開発協同組合 蚕品種 ぐんま 200 繭生産 群馬県内養蚕農家 製糸 碓氷製糸農協 製織 丸進機業(株) 精練加工 (有)江島屋染工場

純国産絹マーク使用許諾企業名 (表示責任者名)	表示対象 製品名	表示対象 数量	生産履歴の内容 (繭生産地・企業等)
(生産数量の追加) 株式会社エムラ 代表者名：江村栄治 (担当者：江村栄治) 山口県防府市栄町 1-6-31 Tel 0835-22-0005 表示者登録番号 080	裏絹 (酵素精練)	500枚	制作企画 日本蚕糸絹業開発協同組合 繭生産 群馬県内養蚕農家 製糸 碓氷製糸農協 製織 (株)カフト 精練加工 (有)江島屋染工場
(生産数量の追加) 株式会社小川屋 代表者名：荒木俊 (担当者：荒木俊) 群馬県前橋市千代田町 2-7-15 Tel 027-231-6000 表示者登録番号 079	裏絹 (灰汁漬け加工)	500枚	制作企画 日本蚕糸絹業開発協同組合 蚕品種 ぐんま 200 繭生産 群馬県内養蚕農家 製糸 碓氷製糸農協 製織 丸進機業(株) 精練加工 (有)江島屋染工場
(生産数量の追加) 有限会社大善屋呉服店 代表者名：畑恒夫 (担当者：畑恒夫) 福島県会津若松市大町 1-1-53 Tel 0242-27-0404 表示者登録番号 018	後染反物 (色無地)	10枚 10枚	制作企画 (株)丸上 繭生産 茨城県南地域養蚕農家 製糸 碓氷製糸農協 製織 (株)匠 染色 小林染工場、(株)路考 意匠 自社
(生産数量の追加) 株式会社西陣まいづる 代表者名：舞鶴一雄 (担当者：舞鶴一雄) 京都市上京区五辻通大宮西入五辻町 39 Tel 075-441-0001 表示者登録番号 112	帯地 (袋帯) (金銀糸5%を 超えるもの)	100本	繭生産 群馬県安中市養蚕農家 製糸 碓氷製糸農協 撚糸加工 丸八生糸(株) 染色 にしき染色(株) 製織 自社
(生産数量の追加) 株式会社伊と幸 代表者名：伊藤 公一 (担当者：北川 幸) 京都市中京区御池通室町東入竜池町 448-2 Tel 075-254-884 表示者登録番号 035	白生地 (色無地) (帯地)	50反 500本	蚕品種 松岡姫 繭生産 山形県内養蚕農家 製糸 松岡(株) 製織 河芳織物(株)、奥田重之織物
(生産数量の追加) 株式会社千總 代表者名：仲田 保司 (担当者：俵 武司) 京都市中京区三条通烏丸西入 Tel 075-211-2531 表示者登録番号 001	後染反物 (訪問着) (訪問着・付下) (訪問着・付下) (訪問着・付下)	50反 60反 140反 90反	繭生産 福島県・山形県養蚕農家 製糸 松岡(株) 製織 加賀グンゼ(株)、美雲織物(株)、 小熊機業(有)、(株)竹林 染色 自社
(生産数量の追加) 株式会社宮川呉服店 代表者名：宮川勝彦 (担当者：宮川勝彦) 北海道紋別郡上湧別町中湧別 561 Tel 01586-2-2042 表示者登録番号 108	後染反物 (色無地・付下)	10反	繭生産 福島県・山形県養蚕農家 製糸 松岡(株) 製織 (株)竹林 染色 (株)千總
(生産数量の追加) 株式会社高島屋 代表者：鈴木 弘治 (担当者：宇野 万貴子) 東京都中央区日本橋 2-4-1 Tel 03-3211-4111 表示者登録番号 030	後染反物 (訪問着) (黒留袖)	50反 50反	繭生産 岩手県・青森県養蚕農家 製糸 松岡(株) 製織 加賀グンゼ(株)、河藤(株) 染色 (株)千總
(生産数量の追加) 大門屋 代表者名：高橋弘直 (担当者：高橋弘直) 福井県大野市元町 9-22 Tel 0779-66-2185 表示者登録番号 128	白生地 (着尺) (帯地)	8反 12本	繭生産 杉本英夫 製糸 加藤機業場 製織 加藤機業場

# 提携支援センターから

## 提携・支援センター活動日誌 No. 24 (H24.3.1 ~ H24.4.30)

年月日	活 動 内 容 等
24.3.5	蚕糸・絹業提携支援緊急対策事業に係る自動収繭毛羽取機用ゴムベルトについての打合せ（兵庫県）
24.3.7	蚕糸・絹業提携支援緊急対策事業説明（群馬県）
24.3.12	（社）日本絹業協会による純国産絹マーク審査委員会（東京都有楽町 蚕糸会館）
24.3.28	蚕糸・絹業提携グループ全国連絡協議会（仮称）監事予定者打合せ（東京都有楽町 蚕糸会館）
24.4.10	蚕糸・絹業提携グループ全国連絡協議会設立総会（東京都有楽町 蚕糸会館）



蚕糸・絹業提携グループ全国連絡協議会設立総会

### 時代の要請に応える西陣織会館 『マルチ染織会館』に変容

西陣織工業組合  
専務理事 碓山俊光

#### <はじめに>

平成23年3月11日に発生した東日本大震災は津浪・原発事故を誘発し、未曾有の大被害をもたらしました。あれから1年、本年3月11日は全国各地で追悼・支援式典が厳かに行われ、復興・支援に向けて日本中が心を新たにしました。

この間、国民・市民生活は自粛ムードに包まれ、日本経済は委縮したまま今なお不況の航海を続けています。

かくいう和装業界もその例外ではありません。その和装業界等に原材料（絹糸等）を供給してきた製糸業は、かつて（明治期）は花形産業・貿易（輸出）の中心でありましたが、戦後、国民生活の欧米化にともないその需要が減少。平成の時代に入り、養蚕農家の急激な減少でその生産量も微量という状況に立ち至っています。

しかし、ここ数年前から、（財）大日本蚕糸会の蚕糸・絹業提携支援事業が実施され、養蚕・製糸業から製織・染色、流通段階に至るまで支援がいただけるようにな



小学生が学習の一環として訪れた「純国産絹織工房」

り、当組合は平成21年11月3日、同会の支援・協力を得て、連携を図りながら『純国産絹織工房』を西陣織会館に開設しました。

#### <各種施設で来館者を迎える西陣織会館>

西陣織会館は昭和51年4月1日、西陣の殿堂としてオープンしました。以降、来館者へのPRの拠点、「西陣」「西陣織」のPRの場として活用してきました。

しかし、近年の和装需要の不振から、従来の西陣織製品・西陣織の製織を見せるだけでなく、染ものも含めたいわゆる染織品をトータルで見せる、かつ、桑葉の栽培・蚕の飼育・製糸（純国産絹織工房）ならびに染織品製作の関連工程までを実演し・見せるという仕様に変容したのです。この変容はすなわち、時代の要請でもあると思うのです。

具体的には、これまでの本誌で紹介しました純国産絹織工房の開設・開放や『ジオラマ』・『モニター』（大日本蚕糸会の支援を得てのもの）による来館者PRをはじめ、純国産生糸を使用して製作した和装品による『きものショー』の上演（来館者から大きな反響・好評を得ています）。このほか、純国産生糸を使ってマフラーを製織する『ミニ手機体験コーナー』（希望者参加）は、多くの参加者で賑わっていますし、これら生糸を使って製織した『クールビズ西陣織ネクタイコーナー（販売）』や、他産地とのコラボコーナーである『アンテナショッ



新商品きものショー

プ 本場奄美大島紬』は好評を得ています。さらに、群馬県の絹の里から提供を受けた繭（純国産繭）を使っの『繭クラフトコーナー』は、興味津々の体で見入っている観光客の姿をよく見掛けます。ここでは希望者は当館の指導者の指導でご自身で花や鳥、昆虫など様々なものを製作し、完成品を持ち帰っていただいています。また、このコーナーでは先頃、15人のスタッフで『繭クラフトチーム』を編成し、これらの繭を使って4つの作品を作り上げました。



アンテナショップ  
「本場奄美大島紬」



人気を集める  
「まゆクラフトコーナー」



国産繭で製作した「ドラゴン」

1つは今年の干支に因んだ『ドラゴン』。2つ目は震災復興のシンボルとまでいわれた例のド根性松の『一本松』、3つ目は『クリスマスツリー』、今1つは『花車』です。

これらの作り方は、例えば『ドラゴン』(80cm×50cm)の場合は、先ず紙粘土で原形を作り、つぎにドラゴンの体表面を表現すべくウロコ状に見えるように繭を切り、染料に浸して色づけしたのち、これを張り合わせます。ツノの部分はそれらしい木に色糸を巻いて表現しました。因みに、これには繭550粒を使用しました。

また、絢爛豪華に咲き誇る『花車』は、桜など小さい花卉は繭を花びらや葉の形に切り、染色する。ボタンなど大きなものは繭を引き伸ばし、伸ばしたもの10枚前後を重ね貼りし、染色したのち細いワイヤーを通し、微妙な曲折を付けて花びらや葉として表現しました。この花車は後述の西陣織大会に展示したところ、来場者の興味を引きました。

『一本松』は東日本の1日も早い復興を祈願し、繭と真綿を使ってリアリティを出すため、写真をみながら製作しました(この一本松は昨年秋、絹の里で開かれた『まゆクラフト展』に、同クラフトチーム初の作品として出品した)。

『クリスマスツリー』は昨年12月、繭800粒を使用し、3000枚の葉を作製して仕上げました。

これらはいずれも同チームのスタッフ全員が、1～2ヵ月を要して作り上げた苦心の作で、現在、会館のPRウインドウ等に展示し、人気を集めています(以上、西陣織会館1・2階)。

同会館3階は史料室と西陣ホール。史料室は(財)西陣織物館所蔵の染織品・文献・資料等々を2～3ヵ月単位で模様替えをして展示(所蔵品展等)しています。また、西陣ホールは400人前後が収容でき、床面がフラットなホールとして各種式典やコンサート、各種イベント等に利用・活用し

ています。

### <西陣織大会にも『まゆクラフトコーナー』設置>

当組合は本年3月16日～18日、京都市勧業館・みやこめっせで『西陣織大博覧会—西陣織大会』を開催しました。

同大会は当組合が開催するイベント中、最も歴史のある大きな大会で、西陣織のオール製品を一堂に集め審査（一部は除く）・展示する大会です（平成21年までは西陣織会館で開催していましたが、来場者増を目的に22年からは同メッセで開催。）

この大会にも『まゆクラフトコーナー』を設置し、来場者に向けて純国産繭・生糸のPRを行ないました。

### <日本の絹マーク等に関するアンケート調査を実施>

本年3月上旬、当組合は製糸業・絹業・流通業等一連の振興・発展の糧にと、西陣織会館にお越しの①国産生糸使用業者（織屋）、②一般市民、③外国人等47人の協力を得て、『日本の絹マーク等に関するアンケート調査』を実施しました。

その結果はつぎのとおりです（単位：人、カッコ内は構成比%）。

1. 日本の絹マークを  
知っている 43 (81)  
知らない 4 (9)
2. 純国産絹マークを  
知っている 37 (79)

知らない 10 (21)

で、両マークの認知度は高い（浸透している）ことが分かる。

3. 日本の絹マークが貼付できる製品は、国産・外国産生糸を問わず使用できることを

知っている 27 (57)

知らない 20 (43)

4. 純国産絹マークは国産生糸を使用した織物のみを使用できることを

知っている 39 (83)

知らない 7 (15)

無回答 1 (2)

5. 国産生糸使用率70%以上の製品に、純国産絹マークが貼付できることを

知っている 14 (30)

知らない 26 (55)

その他 4 (9)

〔「95%では」との記入〕

無回答 3 (6)

で、両マークの国産・外国産生糸の使用基準が今一つ浸透していないことが分かる。とくに、純国産絹マークの使用基準を「知っている」は30%と極めて低く、今後これのPRが重要だと思われる。また、西陣の場合は金銀糸・箔を使用した製品が多く、これらを使った製品でも基準の範囲内であれば貼付できることを、啓蒙する必要があるようにも思われた。

（アンケート5.の「国産生糸使用率70%以上の製品に、純国産絹マークが貼付できる…」は、「帯及び帯締に係る純国産絹マーク特例管理規程」による。…編集部注）

## 6. 国産生糸と中国等外国産生糸の品質は

国産生糸が良い	28	(60)
外国産生糸が良い	1	(2)
どちらともいえない	12	(26)
わからない	5	(11)
無回答	1	(2)

で、「どちらともいえない」「わからない」が合わせて37%で、これは国産生糸の良品質は認めるものの入手の困難さ、高価格等が反映したものと思われる。今後、適正価格による供給増すなわち、生産履歴構成員各位の今後の健闘に期待したい。

## 7. 日本の絹・純国産絹マーク使用のメリットは

メリットがある	28	(60)
メリットがない	2	(4)
どちらともいえない	15	(32)
無回答	2	(4)

で、そのメリットを「認める者」が60%と高く、一方、「メリットがない」はわずか2%にすぎず、その価値観を評価する者が過半数を占めるものの、「どちらともいえない」が32%を占め、今後この層に対するアプローチ・PRの強化が課題となるであろう。

## 8. 日本の絹マークに問題点がある

ある	7	(15)
ない	33	(70)
無回答	7	(15)

で、「ある」場合の意見として「国産糸を100%使っているように思われる」「国産生糸のみ使用と誤解されやすい(純国産絹マークと混同される)」「マークの違いがわかりにくい」「日本の絹マークを見た場合、何か日本の絹糸を使っている印象を受ける」等が記入してあった。

## 9. 純国産絹マークに問題点がある

ある	7	(15)
ない	33	(70)
無回答	7	(15)

で、「ある」場合の意見として「マークの違いがわかりにくい」「純国産絹マークの国産生糸使用率は70%以上使用しているものに使えるとあるが、残りの30%は何ですか?」「70%以上国産生糸を使用していれば、純国産とうたえる点」等が記入してあった。

## 10. 意見欄(フリー記入)

「マークについてもっとアピールすべき」「純国産絹マークは意義があると思うが、日本の絹マークはメリットが少ない気がする」「一般的に高級糸ということで、高価だというイメージがある」「純国産絹マークが付いている方が商品を選ぶ時、参考になって良い」「格安品にも使用されるため、高級品生産メーカーが敬遠している」「国産生糸の生産増を期待している」「両マークとも、西陣織会館の製品に付いているのを見て知った。また、ジオラマとモニターテレビを見て

---

---

知識を得た」「西陣織会館のマフラー・ネクタイにマークが付いていた。このマークの品を土産にしたい」「昨今、金銀糸の組成である『ポリエステル』や『レーヨン』表示（品質表示）を見た消費者から、＜日本の絹シールが貼ってあるのはおかしいのではないかと＞との問い合わせが消費者センター等にあったと聞いた」等であった。

以上のことから今後、日本の絹マーク・純国産絹マークの使用基準・使用した製品の価値観等を鮮明にし、差別化・格差を図れる方向に展開した方が生産者・消費者にとって「扱いやすい」「購入しやすい」に繋がるのではないかとと思われる。

### <むすびに>

昭和 50 年頃を境に和装業界は、国民生活の欧米化への進展などから需要の不振・減少が続いています。加えて近年は、若者の間でコスパ（コスト・パフォーマンス）層が出現するなど消費者の消費に対する多様化が著しく、生産者はそれに対応できる製品を作り・提供しなければ、生き残って

いけない時代に突入したように思います。

そして、西陣の拠点である西陣織会館もまた、時代のニーズに合った企画・イベント・施設等を構築し、来館者を誘致・歓迎しなければなりません。そこで、既述のイベント・施設等を展開し、マルチ染織会館として変容したわけです。

とはいえ、広く和装業界を維持・発展させるためには、絹業界単独の努力だけではそれは適いません。それには、製糸業（原材料：川上）・絹業（製織・染色等：川中）・流通（販売：川下）が三位一体となって取り組み、澄んだ水が流れる川を作り出す必要があります。なぜなら、この三者のいずれが欠けても清流にはならないからです。

清流には多くの生物が集まり、共存共栄をしています。今後、当組合また西陣織会館は、和装業界に澄んだ水が流れる川作りに尽力し、時にはダム役目（従来から実施してきた生産調整等）も果し、多くの人々（消費者）にお越しいただく、関心を持っていただけるよう粉骨砕身していく所存です。大日本蚕糸会の益々の支援、蚕糸・絹業提携支援事業の一層の拡充をお願い致します。

---

いかりやま としみつ

西陣織工業組合 専務理事

シルク遺産を訪ねて④

## 我孫子市の山一林組生糸工場跡

東京産業考古学会

副会長 平井 東幸

千葉県我孫子市のJR我孫子駅近くには東葛飾郡唯一の器械製糸工場跡がある。現在、跡地は再開発されて、イトーヨーカ堂我孫子店や小公園として利用され賑わっている。公園には工場の経緯を示す説明板があり、さらに、その先の駐車場の片隅には「蚕霊塔」がひっそりと建っている。

大きさは、写真のように、高さは基石を含めて1.2 m。塔の部分は、幅は50cm、高さ85cm、厚さ10cmと意外に小さなもの。

の。表には、「蠶霊塔」とあり、裏には「大正十四年八月十五日 山一林組」とある。現在、往時製糸の工場を偲ばせるものは、この蚕霊塔1基だけである。

明治39（1906）年に操業を開始したこの製糸工場は、最盛期には釜数365、「300名余りの工員と生糸5000貫を生産する東葛飾郡内でも有数の規模であった」。立地要因は、東京・横浜に近いという地の利、常磐線の開通、蚕糸の産地であったこ

蚕霊塔



説明板



撮影：ともに筆者

---

---

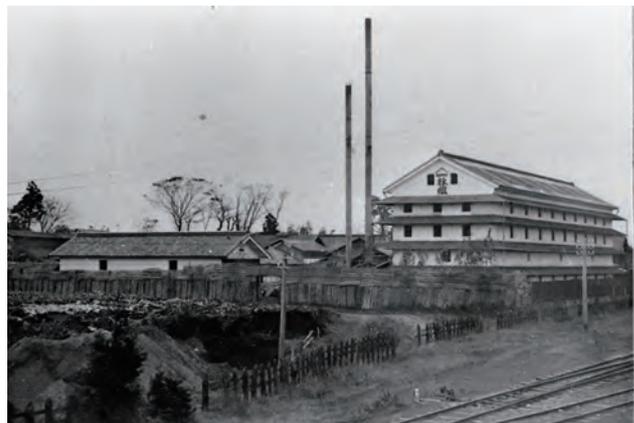
とであり、明治時代には我孫子で唯一の近代的生産工場であっただけでなく、千葉県北西部を代表する産業の拠点であった。最盛期には「千葉県の器械製糸生産量の7割を占めた」という。後に経営不振により昭和13(1938)年に石橋製糸に買収された。それも昭和60年には操業を中止している。

周知のように、山一林組は明治12年に長野県岡谷で創業した、当時わが国を代表する製糸会社。全国に事業を展開し、我孫子の工場もその業容拡大の一環として建設したもの。山一林組の工場が閉鎖された後、農林省の後押しがあって石橋製糸が工場を再開したという。なお、山一林組の岡谷市に現存する旧事務所棟は国の登録有形文化財にも指定され、現在は市の施設「岡谷絹工房」として立派に活用されている。

この我孫子の工場は、志賀直哉の私小説『和解』にも登場する。子供が急病で医者呼びにやる場面で、「医者は五六丁程先の糸取工場へ行って留守だった」(新潮文庫版 33 p)。当時は製糸工場のことを糸取工場と言っていたことがわかる。『和解』は大正6年に発表された直哉の代表作の一つ。この年に執筆された『流行感冒』には、製糸工場の女工も雇って亡くなったとの噂

があると記述されている。

手賀沼を望む我孫子は、明治末期から大正にかけて別荘地となった。大正時代には、志賀直哉、武者小路実篤、中勘助、柳宗悦、嘉納治五郎らの文化人・有名人の居宅、別荘があり、今日も志賀直哉旧邸跡を初めそのいくつかが保存されている。市の白樺文学館などの施設もあり、我孫子に行かれる際には是非訪れて良き古き大正時代の文人たちの生活をしのいで頂くのも一興かと思えます。



山一林組の製糸工場(繭倉庫)  
(提供) 我孫子市教育委員会

- 所在地：千葉県我孫子市本町 3-2
- アクセス：JR 常磐線・我孫子駅から  
徒歩 3分

---

ひらい とうこう

東京産業考古学会 副会長

嘉悦大学 元教授

日本化学繊維協会元調査部長

## 国内産地情報

### 絹織物産地の概況（3月）

織物の生産は全体的に減産傾向、採算は原料高製品安で厳しい

#### <原糸>

原糸の消費は、為替の円安の動きから中国糸価格の先高感もあって、一部で積極的な手当が見られたものの総じて慎重な対応となっている。在庫はおおむね適正な状態である。

#### <白生地>

- ・丹後縮緬の3月の生産は、前年比90%で、悪環境の中では健闘した。稼働日数は21日で前年の1日増である。
- ・長浜の生産は、前年比77%で稼働日数は前月より2日減であった。
- ・五泉は、生産反数は1,964反で19%減となった。
- ・福島は、受注減少により、生産、操業ともに若干落ちている。
- ・福井の生産は、広幅羽二重は前年並み、小幅羽二重は16%減であった。
- ・石川は、一部の柄指定物が動いたが全体的には販売不振である。
- ・群馬・埼玉は、群馬は前年同、埼玉は前年比23%増と伸びた。

#### <先染織物>

- ・西陣の帯は、生産で一部の値頃品の好調が続いているが、高額品を中心に生産調整が続いている。売れ行きは一部を除き、全般的には低迷している。決算期が多いことから仕入れ抑制の動きも強いと思われる。
- ・博多は、紋袋帯、平地の袋帯が増産し、全体では、27%増となった。夏用商品の動きは少なく在庫が増えている。
- ・十日町は、売行きは振袖以外は不振であった。留袖の生産は前年を上回り、全体ではほぼ前年同であった。
- ・米沢は、呉服の生産調整が進んでいると考えられる。男物は活気が無く、女物も動きは鈍い。服地は極めて厳しく、輸出物は若干の円安でも変化は無い。
- ・山梨は、高級品の服地の動きが悪く、百貨店等での売れ行きが良くない。服地の生産も大幅に落ちている。ネクタイは、一部に多少の動きはあるが生産量は少ない。
- ・西陣のネクタイは、端境期に入っており、秋物の見本取りとなっている。

(3 / 1 ~ 31 の概要)

\* (社)日本生糸問屋協会「月報」24.4.18 第759号による。

---

---

## 海外シルク情報

### 中国

#### 優良生糸産地である浙江省製糸企業の繰糸生産能力は大幅に減少

2012年1月4日、浙江省経済・情報委員会は、浙江省全体の製糸工場生産許可制（2年間有効）に関する審査結果を公表した。

今回の審査により、2012年当初から2013年末までの2年間有効となる生産許可を得た浙江省全体の製糸企業は86社であり、これらの総繰糸生産能力は、206,920緒となり、この内訳として自動繰糸機分は199,680緒で全体の96.5%を占め、立繰（多条繰糸機）分は7,240緒で総生産能力の3.5%を占めているにすぎない。

今回の審査結果によれば、浙江省の製糸企業数とその繰糸生産能力が大幅に減少していることである。

前回の審査時の2年前に比較して、許可製糸工場数は36社減少しており、その減少率は29.5%であり、繰糸生産能力については、101,080緒減少し、その減少率は32.9%となった。

今回生産許可を得た86社の製糸企業の昨年度1年間の生糸生産量は、約8,100トン（135,000俵）となり、本年（2012年）度の生糸年間生産量の見込みは、約7,100トン（118,300俵）となる。

地区別に見ると、杭州地区は17社、嘉興地区29社、湖州地区36社、その他地区4社となる。生産規模別に見ると、4,000緒以上の能力を有する製糸は9社、2,000緒以上4,000緒未満の製糸数は37社、2,000緒未満の製糸数は40社となっている。

この浙江省製糸業のここ10年間の推移を見ると、製糸企業数及び繰糸加工能力は年々減少している。1998年の製糸企業数と繰糸加工能力は407社、108.8万緒であったが、これを現状と比較すると、ともに約8割減少していることがわかる。

---

---

## インドが最新のシルク生産及び生糸輸入状況を公表

本年3月5日、インドのCSB（中央シルク局）は、2011年度の最新シルク関係統計を公表した。

これによると、桑園面積が対前年比約7%減少したものの、家蚕繭生産量は130,714トン、生糸生産量は16,360トン（27万2千7百俵）でいずれも前年とほぼ同程度の生産となった。

一方、インドは中国に次いで世界第2の繭・生糸生産国であるが、その旺盛な国内需要（主に民族衣裳のサリー）を賄うために、従来より国内生産だけでは不足し、毎年大量の中国生糸を輸入している。この2011年度の生糸輸入数量は5,820トン（9万7千俵）で対前年比約2割も減少した。

これは、昨年度の中国生糸の価格高騰の影響を受けたためとCSBはコメントしている。

中国にとってインドは、生糸輸出相手国として最大の市場となっており、インド政府が昨年4月より輸入生糸の基本関税を30%から5%に大幅に引き下げたことから、中国にとっては吉報となり、大いなる輸出拡大を見込んだものの、この関税引き下げが発端となった中国生糸の価格高騰が結局は、インド向け生糸輸出数量の減少となった模様である。

現在、中国国内の生糸価格は32万元/トン台（日本円で4,160円/kg）で推移し、昨年同期よりキロ当たり約8万元（1,040円）安くなって安定しており、この価格水準でインド向け輸出が回復するかどうか、今後の動向から目が離せないところである。

（注）円換算は1元＝13円

\*（社）日本生糸問屋協会「月報」24.3.14第758号及び24.4.18第759号による。

## 横浜市内の蚕糸施設

### シルク博物館

元部長 小泉勝夫

横浜が開港（1859年）されると、既に述べてきましたように、生糸貿易が盛んに行われましたので、横浜には蚕糸関係の諸施設ができ、日本経済や貿易を支えてきました。

これら諸施設の中から特徴のある施設の歴史を次に紹介しましょう。

#### 1 横浜商品取引所（旧横浜生糸取引所）

1893（明治26）年3月に取引法が制定されると、横浜の蚕糸貿易商の有志は、生糸価格の変動防止と需給の円滑化をはかるために、取引所の設立について話し合いを行いました。

この結果、横浜に取引所を設置することに決まり、本町1丁目（現在の横浜市中区）に創立事務所を設け、1893（明治26）年10月に生糸売込商原善三郎（現在の埼玉県児玉郡神川町出身）ら4名が委員となって発起人会を開催して、国に認可申請を行いました。

国は同年12月に認可をし、翌年3月には農商務大臣から「横浜蚕糸<sup>ほか</sup>外四品取引所」の設立免状が下りましたので、南仲通3丁目<sup>みなみなかどおり</sup>（現在の横浜市中区）に取引所を新設し

て、7月から蚕糸・製茶・綿布・織物・海産物の売買取引を始めました。

初代取引所理事長には、原善三郎が就任しました。

1910（明治43）年3月には、横浜米穀取引所と合併して「株式会社横浜取引所」となり、蚕糸・米穀・有価証券の3品を取引しました。

ところが太平洋戦争が始まると、蚕糸業は極端に縮小されたため、株式会社横浜取引所の経営は難しくなり、1943（昭和18）年6月に、49年にわたる歴史の幕を閉じ解散をしてしまいました。

大戦が終わり、1951（昭和26）年2月に至り、横浜生糸取引所創立総会を開催し、4月には農林省の登録を完了し横浜生糸取引所が設立され、同年5月から取引を開始しました。

当初は横浜生糸検査所（現在の横浜第二合同庁舎）の1階を間借りし、生糸取引を再開しましたが、1958（昭和33）年12月には、新築工事中の財団法人シルクセンター国際貿易観光会館（横浜市中区）の4階へ移転し、翌年1月から同会館4階で取引を続けました。



(写真 39) 横浜商品取引所の取引風景  
(平成 10 年 11 月撮影)

1998（平成 10）年 10 月には、前橋乾繭取引所と合併し「横浜商品取引所」に改組し、生糸と乾繭の取引を行うようになりました。

横浜商品取引所はその後、「国際生糸」の取引、更に「じゃがいも」「野菜先物市場」を開設して多角的な運営に努めてきましたが、経営を持続させることは厳しく、2006（平成 18）年 3 月 31 日をもって閉所、東京穀物取引所に吸収合併し、横浜から姿を消してしまいました。

## 2 横浜生糸検査所

横浜開港から 3・4 年ぐらい経過すると、わが国から粗製乱造の生糸の輸出が急増し、弊害が現れるようになりました。

このため、1862（文久 2）年を頂点に 1875（明治 8）年ごろまで生糸輸出は、停滞してしまいました。

この輸出停滞の主な原因は、中国生糸の進出、猛威を振っていたヨーロッパの微粒病が終息期に向っていたことと併せ、



(写真 40) 創立当初の横浜生糸検査所  
(シルク博物館所蔵)

特に、わが国の粗製乱造生糸問題でした。この当時のわが国の輸出生糸は粗雑品が多かったため、織物の横糸に使うぐらいで、縦糸に使えるものは稀まれであったともいわれています。

明治政府は粗製乱造生糸の輸出を防止するために、生糸改所あらためしよの設置や生糸製造取締規則などを次々に布告して取締まってきましたが、実効は思うようにはあがりませんでした。

1883（明治 16）年になり、漸く生糸検査所設置の気運が出てきました。しかし、関係者の合意がなかなか得られず、実現したのは 1895（明治 28）年のことでした。

同年 2 月生糸検査法が国会で成立し、横浜生糸検査所は、翌 1896（明治 29 年 8 月から本町 1 丁目 1 番地（現在の横浜市中区）に木造 2 階建ての庁舎を新築して検査業務を開始しました。

その後、1902（明治 35）年 3 月には、石造り 2 階建ての庁舎を新築して建物や施設の拡充整備を行い、検査機能を高めてい

きました。

ところが、1923（大正12）年9月1日に発生した関東大震災によって、建物の倒壊は逃れたものの、内部は焼失し、機器は使用不能になり、検査ができなくなってしまいました。

生糸検査機能を失うことは、横浜の生糸貿易の存亡にかかわる大きな問題でしたので復旧が急がれました。そこで応急処置によって生糸検査所を復旧し、翌年2月から業務を再開しました。

わが国の生糸輸出量は、明治後半から大正時代にわたり年々増大しておりました。このため、生糸検査所の拡充整備と生糸・絹物倉庫の整備が必要になっており、用地を物色中に関東大震災が起きてしまいました。

震災によって壊滅状態になった横浜の復旧を図るために設立された横浜市復興会は、「生糸貿易は横浜の生命である」として、生糸検査所の新築と倉庫建築を早急に行うよう大蔵・農商務両大臣に陳情した経緯もあ

ります。また、生糸検査所の建設には、神奈川県知事や横浜市長をはじめ地元有力者などの惜しみない支援と協力があったといわれています。

1920（大正9）年の蚕糸業大不況の際に設立された第2次帝国蚕糸株式会社が、解散した際に生じた利益金を生糸検査所拡充費、生糸・絹物専用倉庫建築資金として国に寄贈しておりましたので、政府はこの資金を充当して予算化し、北仲通の土地（現在の横浜市中区北仲通5-57 横浜第二合同庁舎一帯）に建設することになりました。

設計は遠藤於菟<sup>おと</sup>が行い、工事は1924（大正13）年12月から庁舎（地上4階、地下1階建て）1棟、附属生糸絹物倉庫（地下1階・地上3階）4棟、荷解場1棟の建設に着手しました。工事は1926（大正15）年5月に完了し、6月に落成式が挙行され、新庁舎での業務を開始しました。

生糸検査は、時代の流れの中で、いろいろと改正され対応してきましたが、大きな変化をみたのは、太平洋戦争の始まる9か



（写真41）旧横浜生糸検査所の検査風景  
（撮影年月不詳）（シルク博物館所蔵）



（写真42）旧横浜生糸検査所の面影を残す  
現在の横浜第二合同庁舎

---

---

月ほど前の1941（昭和16）年3月、蚕糸業統制法が交付されたことです。この法律に基づいて同年5月には、蚕糸統制株式会社が創立され、蚕種、繭、生糸その他蚕糸類全般にわたり、計画から生産、需給、価格等に至るすべてを統制する体制となり、著しい規制がされるようになりました。

生糸検査は、この法律に基づいて輸出用生糸・国用生糸の検査を行うことになり、厳しい統制体制の中で検査業務を行いました。

戦後は1945（昭和20）年8月、連合国軍によって生糸検査所庁舎は接收され、一時、横浜市神奈川区の商工省繊維工業試験所に仮住まいをしましたが、翌年5月に部分返還、1947（昭和22）年1月には全面返還されましたので、ようやく本来の検査所全体を使って業務を行うことができるようになりました。

生糸検査所は、その後も幾多の変遷を経て、1980（昭和55）年10月には、機構改革によって横浜農林規格検査所に統合されました。

平成時代に入ると、庁舎は老朽化し、耐震性が低いことと横浜に国の機関を収容する庁舎が必要になっていたため、1990（平成2）年3月から1995（平成7）年9月にわたって、この場所に横浜第二合同庁舎の建設が行われ、高層と低層の建物ができ、低層の建物の外装は創建当時の旧生糸検査所の状態に復元（写真42）されました。

横浜農林規格検査所は、1991（平成3）年4月には、横浜農林水産消費技術センタ

一に改組されました。

生糸検査は、1998（平成10）年に蚕糸価格安定法及び農畜産業振興事業団法の改正と蚕糸業法、製糸業法が廃止されたため、「農林物資の規格化及び品質表示の適正化に関する法律」（JAS法）に基づく検査に移行しました。

横浜農林水産消費技術センターは、その後、2001（平成13）年4月には独立行政法人に移行し、2007（平成19）年4月には独立行政法人農林水産消費安全技術センター本部横浜事務所に改組されて生糸検査を行ってきましたが、2009（平成21）年2月28日をもって、生糸検査に係わる総ての業務を終了し、長い生糸検査の歴史に幕を下ろしてしまいました。

### 3 帝蚕倉庫

関東大震災の後、横浜生糸検査所と附属生糸絹物倉庫（地下1階・地上3階）4棟（A号・B号・C号・D号倉庫）などが、横浜市北仲通に建設されましたことは前述したとおりです。

この附属生糸絹物倉庫（以下、倉庫という）は生糸検査所が直営管理することになっておりましたが、生糸検査所として利用する面積は僅かで、ほとんどは関係業界の人たちが利用する施設でしたので、この倉庫経営を業界に任せることになり、1925（大正14）年1月に、帝国蚕糸倉庫株式会社を設立する委員会が組織され動き出しました。

翌1926（大正15）年4月には、帝国蚕

糸倉庫株式会社が設立され、志村源太郎を社長に、加賀山辰四郎を専務取締役を選任し、生糸・絹織物などの保管業とこの倉庫とは別に建設されたビルの賃貸業を行うことになりました。

同年5月末には倉庫や附属施設等すべての工事を終了しましたので、帝国蚕糸倉庫株式会社は、政府と契約を結び、同年7月から生糸等を保管する営業をはじめました。

倉庫4棟の延べ面積は6,533坪（約21,592㎡）あり、約5万俵余（3,000t余）の生糸を保管する能力をもっていました。

1928（昭和3）年2月には帝蚕ビルディングを竣工、同年3月には東横浜貨物駅（現在のJR桜木町駅近くにあった）から大岡川の鉄橋を経て倉庫まで専用鉄道引込み線を敷設しました。

この専用鉄道引込み線が敷設される以前の横浜市内の各生糸問屋は、各自の店頭で

生糸の荷受をし、生糸検査所で受検後、各自が引き取るという手間のかかる荷捌き<sup>にさば</sup>でしたが、鉄道引込み線の完成によって各地からの生糸は、直接倉庫に運び込まれるようになり、取扱いが大変便利になりました。

帝国蚕糸倉庫株式会社は、太平洋戦争中の1944（昭和19）年5月から戦時統制体制下で設置された日本統制倉庫株式会社（以下、統制倉庫会社という）にすべてを借り上げられてしまいました。1945（昭和20）年12月に統制倉庫会社から施設と営業権が返還されました。

なお、戦後、わが国を間接統治していた連合軍最高司令官総司令部（GHQ）は、日本政府に戦時体制下で結成した蚕糸機関・団体や統制倉庫会社などのような会社の閉鎖命令を出し解散をさせました。この命令によって統制倉庫会社は、1946（昭和21）年2月、解散になりました。

その後、帝国蚕糸倉庫株式会社は、翌



（写真43）取壊し前の帝蚕倉庫  
写真右奥からB号倉庫、C号倉庫、D号倉庫  
（2007年8月、一般公開時に撮影）

---

---

1947（昭和22）年10月、商号を帝蚕倉庫株式会社（以下、帝蚕倉庫という）と改称し生糸等の保管業務を続けました。

なお、会社の施設等は終戦の1945（昭和20）年8月、連合軍軍によって倉庫4棟、帝蚕ビルディング、空き地約600坪（約1,980㎡）を、9月には倉庫事務所も接收されてしまいました。このため、他への仮住まいを余儀なくさせられました。しかし、D号倉庫だけは、同年11月に接收解除され返還されましたので、12月から保管業務を開始しました。

残る3棟の倉庫は1947（昭和22）年1月に、事務所施設は1949（昭和24）年1月に、帝蚕ビルディングは1952（昭和27）年7月に、隣接空き地は翌1953（昭和28）年11月に至って漸く接收解除され返還されました。

戦後の横浜は倉庫が著しく不足し、戦前の5分の1にも満たない状況になっていました。

戦後、生糸の保管量は年々増加しており、1946（昭和21）年9月には21,000俵余でしたが、翌年3月には56,000俵余、同年7月には67,000俵余となり、倉庫不足が予測されるようになり、帝蚕倉庫ではE号倉庫、F号倉庫を新設して対応しました。

帝蚕倉庫は、その後も事業の拡大に伴いG号倉庫、H号倉庫などを増設、更に1971（昭和46）年11月には本牧埠頭1番地に帝蚕倉庫本牧埠頭営業所を、翌年には都内品川区に東京営業所を、更にその後、神戸市に神戸支店（平成4年閉鎖）を開設するなどして施設と事業の拡大を図っていきました。

このように長い歴史をもって発展してきました帝蚕倉庫でしたが、横浜市中区北仲通の帝蚕倉庫一帯は、都市再開発を行うことになったため、2005（平成17）年3月、この地での営業を閉じ、本社を横浜市鶴見区大黒埠頭に移転し倉庫業務を続行しています。

現在、横浜市中区北仲通の都市再開発地には、帝蚕倉庫の旧事務所1棟、旧倉庫1棟が保存され、生糸貿易の盛んだった往時の面影を後世に伝えています。

長い間読者の皆様には拝読いただき誠にありがとうございました。

また執筆にあたり御指導いただきました関係諸氏並びに写真・資料等を提供していただきましたシルク博物館、横浜開港資料館、長い間お世話になりました本誌事務局の皆さんに厚く御礼申し上げます。

---

こいずみ かつお  
シルク博物館 元部長

# イベント情報

イベント名	企画・展示内容	開催日(期間)	場所・主催者等
<p>○市立岡谷蚕糸博物館「特別展」</p> <p>「市立岡谷蚕糸博物館・岡谷美術考古館」のあゆみ</p>	<p>「みなさまと選ぶ郷土の至宝展」</p> <p>同時開催 「中国古代復元絹織物展」</p> <p>・創設48年の市立岡谷蚕糸博物館は、本年5月末日で長い歴史に一旦幕を閉じさせていただき、新たな場所で再出発を図ることとなりました。 長い間当館を愛し、支えてくださった皆様への感謝を込めて、当地でお贈りする最後の特別展です。</p>	<p>平成24年 4月29日(日) ～5月31日(木)</p> <p>AM9:00～PM5:00</p> <p>(月曜日, 休館)</p> <p>・入場料 一般350(250)円 中学生以下 150(100)円 *( )内は10名以上の団体料金</p>	<p>住所・お知らせ</p> <p>長野県岡谷市本町 4-1-39</p> <p>Tel. 0266-22-5854 Fax //</p> <p>・お知らせ 移転のため、6月1日からしばらくの間、休館させていただきます。</p>
<p>○美しい日本の絹 ユミカツラ ブライダル コレクション</p>	<p>・平成24年4月25日(水) 博物館リニューアル オープン記念 「美しい日本の絹」展</p> <p>・展示内容 ウエディングドレス イブニングドレス ニューキモノ など</p>	<p>4月25日(水) ～6月10日(日)</p> <p>・休館日: 月曜日 但し4月30日(月) 開館。5月1日 (火) 休館。</p> <p>・入場料 一般700(600)円 65歳以上 300(200)円 高・大学生 200(150)円 小・中学生 100(50)円 中学生以下 150(100)円 *( )内は20名以上の団体料金</p>	<p>シルク博物館</p> <p>神奈川県横浜市中区 山下町1番地 シルクセンター2階</p> <p>TEL 045-641-0841</p>

イベント名	企画・展示内容	開催日(期間)	場所・主催者等
<p>○「日本の藍 ジャパンプルー」展 —大自然と人 との調和—</p> <p>・特別企画</p> <p>堀内泉甫 コレクション 「江戸・明治藍染 古布」展示</p> <p>「健康素材と漢方薬、 藍染との融合作品」 発表</p>	<p>展示内容</p> <p>・江戸期の古法染め「天然灰汁 発酵建藍染技法」による、神秘 な奥深い大自然の恵み、動物、 植物繊維の染めと織職人の心 の技</p> <p>—エコロジーと 健康素材の探求—</p> <p>会場では、すくもや灰汁をは じめとした天然灰汁発酵建材 料の展示及び藍染師の新作、 「二藍の世界」を発表。</p> <p>さらに、「ナチュラルブルー」 と題した地球に優しい植物素 材作品展（「ケナフ」「竹」「ピ マコットン」「蓮」など）、藍と 野蚕糸の薬用効果を生かした 新グッズやロイヤルシルク「天 蚕」「柞蚕」「小石丸」「天蚕染」 「又昔」「あけぼの」「群馬 200」 「セイハク」及び、ワイルドシ ルク「アタカス」「クリキュラ」 「ムガ」商品の発表、天然藍染 訪問着、着尺、織物、絞り、袋 帯、名古屋帯等。</p>	<p>平成 24 年 5 月 12 日(土) ～15 日(火)</p> <p>午前 10:00～ 午後 6:00 (最終日は 午後 5:00 閉館)</p>	<p>・開催場所 「時事通信ホール」 2 階</p> <p>東京都中央区銀座 5 丁目 1 5 - 8</p> <p>Tel. 03-3546-0741</p> <p>・主催 株式会社 藍香房 京都府京都市 東山区祇園町南側 570-122</p> <p>Tel. 075-533-3110</p> <p>・後援 国際野蚕学会 NPO 法人 てこらぼ (財) 徳島県物産協 会</p>

# 純国産絹マーク使用許諾者及び主な絹製品名一覧

純国産絹マーク使用許諾者及び主な絹製品名一覧

平成 24 年 3 月 21 日現在

表示登録番号	企業名	主な絹製品名
1	株式会社 千總	後染反物（訪問着、付下、色無地、振袖、喪服、黒留袖）、裏絹（胴裏）
2	株式会社 織匠田歌	先染反物、帯地（染帯）
3	有限会社 ミラノリブ	洋装品（婦人服（トップス、ボトム）、ソックス、ショール、ストール、スカーフ、ネクタイ、ニットタイ、ベスト）
4	株式会社 丸上	後染反物（色無地、小紋、付下、黒紋付）、帯地（後染）
5	株式会社 坂本屋	後染反物（色無地）、裏絹（胴裏（灰汁浸け加工））
6	有限会社 平原	後染反物（色無地、黒紋付）
7	株式会社 信盛堂	後染反物（色無地、黒紋付）
8	株式会社 きものアイ	後染反物（色無地）
9	株式会社 上庵	後染反物（色無地、黒紋付）
10	有限会社 樹	後染反物（色無地、黒紋付）
11	株式会社 銀座もとじ	白生地、後染反物、先染反物（大島紬、結城紬、染織作家作品、御召）、八掛、和装小物（帯締、羽織紐）、帯地
12	河瀬満織物 株式会社	帯地（先染）
13	有限会社 織匠小平	帯地（先染）
15	株式会社 結華	後染反物（色無地、黒紋付）
16	株式会社 絹回廊	後染反物（色無地）
17	有限会社 琴路屋	後染反物（色無地、黒紋付）
18	有限会社 大善屋呉服店	後染反物（色無地、黒紋付）、帯地（後染）
19	丸善本店	後染反物（色無地、黒紋付）
20	呉服のささき	後染反物（色無地、黒紋付）
21	日本蚕糸絹業開発協同組合	白生地（世紀21）、後染反物（作家もの、黒紋付）、裏絹（胴裏（ぐんま羽二重、ぐんまレピア、ぐんま200（灰汁浸加工、トルマリン加工）、五ツ星（ぐんま200、よるこび、世紀21））、八掛、比翼地、長襦袢地、和装小物（襦袢）、寝衣（うぶ着、おくるみ）、帯地（うるし糸金銀5%を超えるもの）
22	宮階織物 株式会社	先染反物、後染反物
23	21 世紀の絹を考える会	後染反物（色無地、訪問着）、帯地（袋帯（草木染、唐織、先染））
24	碓氷製糸農業協同組合	白生地、洋装品（マフラー）
25	丸幸織物 有限会社	白生地
26	織匠万勝	帯地、先染反物、後染反物
27	有限会社 織道楽塩野屋	洋装品（マフラー、シャツ、ニット（ウォーマー、腹巻、手袋、靴下））
28	株式会社 丸万中尾	後染反物（変一越（江戸小紋、友禅、色無地）、紋意匠（江戸小紋、色無地、友禅）、帯地（後染）
29	株式会社 むらかね	後染反物（色無地、黒紋付）
30	株式会社 高島屋	後染反物（振袖、七五三着物、色無地、訪問着、黒留袖）、長襦袢
31	株式会社 さが美	後染反物（黒紋付（冬用・夏用）、色無地）
32	有限会社 まるけい	後染反物（色無地、黒紋付）
33	有限会社 特選呉服専門店後藤	後染反物（色無地、黒紋付）
34	株式会社 小いけ	後染反物（色無地、黒紋付、小紋）
35	株式会社 伊と幸	後染反物（色無地）、白生地（色無地）、裏絹（胴裏）、帯地（後染）
36	株式会社 四季のきもの おおにし	後染反物（色無地、黒紋付）帯地（後染）
37	株式会社 和幸	後染反物（色無地、黒紋付）
38	株式会社 樹屋高尾	帯地（袋帯）
39	株式会社 つるや	後染反物（色無地、黒紋付）
40	株式会社 越後屋	後染反物（色無地、黒紋付）
41	株式会社 小倉商店	白生地（結城紬）、先染反物（結城紬）、帯地（結城紬）

表示者登録番号	企業名	主な絹製品名
42	染織家 柳 崇	先染反物、帯地
43	染織家 児玉京子	先染反物
44	草木染工房山村	先染反物、帯地、ストール
45	手織り よおん	先染反物、帯地
46	祝嶺染織研究所	先染反物、帯地
47	株式会社 龍工房	和装小物（組紐）
48	からん工房	先染反物（紋紹、紺）、帯地
49	たわた工房	先染反物、帯地
50	山音 株式会社	後染反物（色無地（変三越、駒紹））
51	やまと 株式会社	後染反物
52	株式会社 御菌織物	先染反物、帯地
53	桜井 株式会社	帯地（先染）
54	有栖川織物 有限会社	帯地（先染）
55	太田和 株式会社	先染反物（結城紬）、帯地（結城紬）
56	株式会社 岩田	帯地（先染）
57	有限会社 神原呉服店	後染反物（色無地、黒紋付）
58	浅山織物 株式会社	帯地（先染）
59	株式会社 やまと	帯地（先染）、帯地（金銀糸5%を超えるもの）
60	田中種 株式会社	後染反物（小紋（紋意匠、変一越）、黒紋付、加賀友禅）、帯地（九寸名古屋帯）
61	株式会社 京扇	後染反物（色無地）、胴裏絹（パールトーン加工）
62	株式会社 なごみや	後染反物（色無地、黒紋付）
63	丸池藤井 株式会社	後染反物（色無地）、八掛
64	久保商事 株式会社	和装小物（帯揚、半衿）
65	加賀グンゼ 株式会社	裏絹（胴裏）
66	千切屋 株式会社	後染反物（訪問着、付下）、帯地
67	荒川 株式会社	和装小物（帯締、帯揚）
68	第一衣料 株式会社	後染反物（色無地）
69	株式会社 紅輪	後染反物（色無地）
70	装いの道 株式会社	裏絹（胴裏（トルマリン加工、灰汁浸け加工、ぐんま200、ぐんまレピア、新小石丸））、後染反物（本藍染、江戸更紗、京友禅）、白生地、帯地（後染）
71	株式会社 高橋屋	裏絹（胴裏（灰汁浸け加工））
72	おお又 株式会社	裏絹（胴裏（灰汁浸け加工））
73	株式会社 天野屋呉服店	裏絹（胴裏（ぐんま200（灰汁浸け加工））、白生地
74	株式会社 きもの潮見	裏絹（胴裏（パールトーン加工））
75	株式会社 とみひろ	裏絹（胴裏（ぐんま200（酵素精練））
76	株式会社 細安	裏絹（胴裏（ぐんま200（酵素精練））
77	京和きもの 株式会社	裏絹（胴裏（ぐんま200（酵素精練））
78	株式会社 まるため	裏絹（胴裏（トルマリン加工、パーリー加工））
79	株式会社 小川屋	裏絹（胴裏（ぐんま200（トルマリン加工、灰汁浸け加工））
80	株式会社 エムラ	裏絹（胴裏（酵素精練））
81	株式会社 荒井呉服店	裏絹（胴裏（酵素精練））
82	株式会社 牛島屋	裏絹（胴裏（酵素精練））

表示者登録番号	企業名	主な絹製品名
83	株式会社 谷呉服店	裏絹（胴裏（酵素精練））
84	株式会社 登美屋	裏絹（胴裏（パールトーン加工））
85	株式会社 川平屋	裏絹（胴裏（パールトーン加工））
86	丸専第一衣料 株式会社（丸専きもの）	裏絹（胴裏（パールトーン加工））
87	株式会社 大丸松坂屋百貨店	裏絹（胴裏、比翼（振袖用））、長襦袢
88	西陣織工業組合	洋装品（マフラー）
89	株式会社 あきやま	先染反物、洋装品（ショール、マフラー）
90	藤井絞 株式会社	後染反物（色無地）
91	株式会社 川まん	白生地
92	有限会社 結城屋	白生地
93	株式会社 ウメショウ	白生地
94	株式会社 大徳	後染反物（色無地）
95	有限会社 カシワギ	寝具寝装品（冬用・夏用・合用薄絹ふとん、ブランケット）、洋装品（スカーフ、ストール、ネクタイ、シャツ、スーツ）
96	株式会社 北尾織物匠	帯地（袋帯、名古屋帯）
97	株式会社 平田組紐	帯締、帯締（金銀糸5%を超えるもの）、羽織紐（男物、女物）
98	株式会社 菱健	後染反物（色無地）
99	西野 株式会社	帯締、帯締（金銀糸5%を超えるもの）
100	京商 株式会社	後染反物（色無地、黒紋付）
101	株式会社 猪井	後染反物
102	株式会社 たちばな	後染反物
103	株式会社 丸富美	後染反物（色無地）
104	株式会社 絹もの屋まつなが	後染反物（色無地）
105	株式会社 山正山崎	後染反物（色無地）
106	有限会社 こくぶん呉服店	後染反物（色無地）
107	株式会社 染織近藤	後染反物（色無地）
108	株式会社 宮川呉服店	後染反物（色無地、付下）
109	株式会社 和らいふ	後染反物（色無地）
110	有限会社 きものいなもと	後染反物（色無地）
111	株式会社 世きね	後染反物
112	株式会社 西陣まいづる	帯地（袋帯（金銀糸5%を超えるもの））
113	奥順 株式会社	先染反物（結城紬）、帯地（結城紬）
114	りょうぜん天蚕の会	ショール（天蚕紬糸、天蚕ハイブリッド）
115	有限会社 金屋	後染反物（色無地）
116	株式会社 鶴屋百貨店	裏絹（胴裏（酵素精練））
117	黄八丈めゆ工房	先染反物（黄八丈）
118	京屋呉服店	後染反物（色無地）
119	合資会社 車屋呉服店	後染反物（色無地、小紋）
120	宮崎 株式会社	結城紬
121	有限会社 内海呉服店きもの千歳屋	白生地
122	長島繊維 株式会社	後染反物（色無地、帯）
123	株式会社 しょう美	後染反物（色無地）
124	合資会社 治田呉服店	後染反物（色無地）
125	株式会社 丸十	後染反物（小紋）

表示者登録番号	企業名	主な絹製品名
126	株式会社 竹田嘉兵衛商店	裏絹（胴裏（酵素精練））
127	有限会社 樋口屋京染店	白生地（紋意匠）
128	大門屋	白生地（牛首紬）、帯地（後染（牛首紬））
129	株式会社 加藤萬	和装小物（帯揚、半衿）
130	株式会社 しゃらく	後染反物（小紋）
131	合資会社 山中商店	後染反物（小紋）
132	きもの処 あだち	後染反物（小紋）
133	西川産業 株式会社	寝具寝装品（掛布団）
134	繭工房 華美	寝衣（長肌着、短肌着）
135	株式会社 青山みとも	裏絹（胴裏（酵素精練））
136	株式会社 和想	後染反物（小紋）
137	株式会社 高島屋呉服店	後染反物（小紋）
138	富岡シルクブランド協議会	和装小物（禪）、洋装品（ネクタイ）
139	株式会社 丸年呉服店	後染反物（小紋）
140	株式会社 染織館	後染反物（小紋）
141	株式会社 京ろまん	後染反物（小紋）
142	五嶋 株式会社	和装小物（帯締）
143	株式会社 わふくや	長襦袢地
144	株式会社 布屋呉服店	裏絹（胴裏（トルマリン加工））、後染反物（小紋）
145	有限会社 明石屋	後染反物（色無地）、帯地（後染）
146	宮井 株式会社	和装小物（風呂敷）
147	株式会社 ナカノ	後染反物（小紋）
148	株式会社 芦田呉服店	後染反物（色無地、小紋）
149	株式会社 甲斐絹座	服飾品（スカーフ、ネクタイ）
150	有限会社 さいとう呉服店	後染反物（色無地、付下）
151	株式会社 西松屋	後染反物（小紋（変一越、紋意匠））
152	株式会社 西尾呉服店	後染反物（小紋（変一越、紋意匠））
153	勝山織物 株式会社	帯地（金銀糸5%を超えるもの）
154	有限会社 石川	後染反物（型友禪、羽二重色無地）、先染反物
155	東朋 株式会社	服飾品（ストール）
156	那覇伝統織物事業協同組合	先染反物、先染帯地、かりゆしウェア、ショール
157	株式会社 ふじや	後染反物（小紋（変一越、紋意匠））
158	きものおかだ	後染反物（小紋）
159	株式会社 JS	スカーフ、ストール、シャツ、スカート地、スーツ地、コート地、布団、布団カバー

# 蚕糸関係博物館一覽

名 称	〒	住 所	電 話
<b>蚕糸・織物関連の展示を目的としている施設</b>			
ひころの里「シルク館」	986-0782	宮城県本吉郡南三陸町入谷字桜沢 442	0226-46-4310
米沢織物歴史資料館	992-0039	山形県米沢市門東町 1 丁目 1 - 87	0238-22-1325
かわまたおりもの展示館	960-1406	福島県伊達郡川俣町大字鶴沢字東 13 - 1	024-565-4889
群馬県立日本絹の里	370-3511	群馬県高崎市金古町 888 番地の 1	027-360-6300
前橋市蚕糸記念館	371-0036	群馬県前橋市敷島町 262 番地 (敷島公園バラ園内)	027-231-9875
織物参考館“紫”(ゆかり)	376-0034	群馬県桐生市東 4 丁目 2 番 24 号	0277-45-3111
片倉シルク記念館	360-0815	埼玉県熊谷市本石 2 丁目 135 番地	048-522-4316
きもの芸術館 (財) 日本きもの文化協会	150-0002	東京都渋谷区渋谷 1-6-8 清水学園ビル 6F ~ 8F	03-3400-0286
東京農工大学科学博物館	184-8588	東京都小金井市中町 2-24-16	042-388-7163
文化学園服飾博物館	151-8529	東京都渋谷区代々木 3-22-7	03-3299-2387
絹の道資料館	192-0375	東京都八王子市鎌水 989-2	0426-76-4064
シルク博物館	231-0023	神奈川県横浜市中区山下町 1 番地シルクセンター内	045-641-0841
絹糸紡績資料館	386-0498	長野県上田市上丸子 1078 シナノケンシ (株) 内	0268-41-1800
岡谷蚕糸博物館	394-0028	長野県岡谷市本町 4 丁目 1 番 39 号	0266-22-5854
浦野染織資料博物館	393-0066	長野県諏訪郡下諏訪町曙町 5350	0266-27-8503
常田館 (絹の資料館)	386-0018	長野県上田市常田 1-10-3 笠原工業 (株) 内	0268-22-1230
駒ヶ根シルクミュージアム	399-4321	長野県駒ヶ根市東伊那 482 番地	0265-82-8381
キナーレきもの歴史館	948-0003	新潟県十日町市本町 6 十日町ステージ越後妻有交流館内	0257-52-0117
まゆの資料館	410-3612	静岡県賀茂郡松崎町宮内 263-2	0558-42-3912
石川繊維資料館	400-0886	愛知県豊橋市東小田原町 109-1	0532-52-5265
川島織物セルコン、織物文化館	601-1123	京都府京都市左京区静海市原町 265	075-741-4120
西陣織会館	602-8216	京都府京都市上京区堀川通り今出川南入	075-451-9231
織成館	602-8482	京都府京都市上京区浄福寺通上立売上る大黒町 693 番地	075-431-0020
絹の白生地資料館	604-8176	京都府京都市中京区御池通室町東入る竜池町 448-2 伊と幸ビル	075-254-5884
グンゼ博物館	623-0011	京都府綾部市青野町 グンゼ (株) 周辺敷地内	0773-43-1050
上垣守国養蚕記念館	667-0311	兵庫県養父市大屋町大家市場 117	0796-69-1580
西予市野村シルク博物館	797-1212	愛媛県西予市野村町野村 8 号 177 番地 1	0894-72-3710
蚕糸資料館	781-1301	高知県高岡郡越知町甲 1577 番地	0889-26-1002
<b>展示の一部に蚕糸・織物関連がある施設</b>			
三重中央農協郷土資料館	515-2504	三重県津市一志町高野 1204-1	059-293-0010
佐野市郷土博物館	327-0003	栃木県佐野市大橋町 2047	0283-22-5111
大間々町歴史民族館	376-0101	群馬県みどり市大間々町大間々 1030	0277-73-4123
羽村市郷土博物館	205-0012	東京都羽村市羽 741	042-558-2561
豊富郷土資料館	400-1513	山梨県中央市大鳥居 1619-1	055-269-3399
日本司法博物館 (松本歴史の里)	390-0852	長野県松本市島立小柴 2196-1	0263-47-4515
長野県立歴史館	387-0007	長野県千曲市大字屋代字清水、科野の里歴史公園内	026-274-2000
須坂市立博物館	382-0028	長野県須坂市臥竜 2 丁目 4 番 1 号臥竜公園内	026-245-0407
上田市丸子郷土博物館	386-0413	長野県上田市東内 2564-1	0268-42-2158
海野宿歴史民俗資料館	389-0518	長野県東御市本海野 1098	0268-64-1000
十日町市博物館	948-0072	新潟県十日町市西本町 1	0257-57-5531
美濃加茂市民ミュージアム	505-0004	岐阜県美濃加茂市蜂屋町上蜂屋 3299-1	0574-28-1110
<b>その他関連施設</b>			
原始布・古代織参考館	992-0039	山形県米沢市門東町 1 丁目 1 - 16	0238-22-8141
夕鶴の里資料館	992-0474	山形県南陽市漆山 2025-2	0238-47-5800
松ヶ丘開墾記念館	997-0152	山形県鶴岡市羽黒町松ヶ丘 29	0235-62-3985
結城紬関連施設 (結城市伝統工芸館)	307-0001	茨城県結城市大字結城 3018-1	0296-32-7949
たくみの里木織の家「椽」(つるばみ)	379-1418	群馬県利根郡みなかみ町須川 784	0278-64-1308
おかいこステーション	370-3401	群馬県高崎市倉淵町権田 5344-1235	027-340-6060
調布市郷土博物館	182-0026	東京都調布市小島町 3-26-2	0424-81-7656
相模田名民家資料館	229-1124	神奈川県相模原市田名 4853 番 2 (大杉公園隣り)	042-761-7118
安曇野市天蚕センター	399-8301	長野県安曇野市穂高有明 3618-4	0263-83-3835
上田市立博物館	386-0026	長野県上田市二の丸 3 番 3 号 (上田城跡公園内)	0268-22-1274
塩沢つむぎ記念館 (織の文化館)	949-6408	新潟県南魚沼市塩沢 1227-1	0257-82-4888
手織りの館	947-0028	新潟県小千谷市城内 1-8-25	0258-83-4800
白山工房 (織りの資料館)	920-2501	石川県白山市白峰村又 17	076-259-2859
手おりの里、金剛苑	529-1204	滋賀県愛知郡愛荘町蚊野外 514	0749-37-4131
織元田勇 (田勇機業株式会社)	629-3104	京都府京丹後市網野町浅茂川 112	0772-72-0307
まゆ村	616-8384	京都府京都市右京区嵯峨天龍寺造路町	075-882-0564
シルク染め織り館	699-5216	鳥根県鹿足郡津和野町池村 1997-4	0856-74-0784

## 【行 政】

農林水産省  
経済産業省

<http://www.maff.go.jp>  
<http://www.meti.go.jp/>

## 【蚕糸絹業関係団体】

(財) 大日本蚕糸会  
(社) 日本絹業協会 (シヤパ<sup>®</sup>シルクセンター)  
(社) 日本生糸問屋協会  
(財) 日本真綿協会  
丹後織物工業組合  
西陣織工業組合  
T A F S (東京織物卸商業組合)  
K O M S (京都織物卸商業組合)  
京都和装産業振興財団  
(財) 伝統的工艺品産業振興協会

<http://www.silk.or.jp>  
<http://www.silk-center.or.jp>  
<http://homepage1.nifty.com/nittonkyo/>  
<http://www.mawata.or.jp/>  
<http://www.tanko.or.jp/>  
<http://www.nishijin.or.jp/>  
<http://www.taafs.or.jp/>  
<http://www.fashion-kyoto.or.jp/>  
<http://www.wasou.or.jp/wasou/index.html>  
<http://www.kougei.or.jp/>

## 【大学・試験研究機関】

(国) 東京大学大学院農学生命科学研究科生産・環境生物学専攻昆虫遺伝研究室  
<http://papilio.ab.a.u-tokyo.ac.jp/igb/index-J.html>

(国) 東京農工大学農学部生物生産学科  
<http://www.tuat.ac.jp/~aaseisan/>

(国) 東京農工大学工学部生命工学科  
<http://www.tuat.ac.jp/~seimei/>

(国) 京都工芸繊維大学工学部応用生物学課程  
<http://www.bio.kit.ac.jp/>

(国) 京都工芸繊維大学  
<http://www.kit.ac.jp/>

(国) 信州大学繊維学部  
<http://www.tex.shinshu-u.ac.jp/>

(国) 名古屋大学農学部  
<http://www.agr.nagoya-u.ac.jp>

(国) 北海道大学応用分子生物学講座  
[http://www.hokudai.ac.jp/agricu/organization/bunya/l\\_in\\_bunshi\\_seibuts.html](http://www.hokudai.ac.jp/agricu/organization/bunya/l_in_bunshi_seibuts.html)

(国) 九州大学大学院遺伝育種学講座蚕学研究室  
<http://www.agr.kyushu-u.ac.jp/agpm/sangaku/>

(国) 九州大学大学院遺伝子資源工学専攻  
[http://www.agr.kyushu-u.ac.jp/grt/igr/new\\_lab/index.html](http://www.agr.kyushu-u.ac.jp/grt/igr/new_lab/index.html)

(国) 岩手大学農学部生命資源科学コース  
<http://www.news7a1.atm.iwate-u.ac.jp/department/bio/biofunc/index.html>

(国) 山口大学農学部生物資源環境科学科  
<http://www.agr.yamaguchi-u.ac.jp/bioenvi/research2.html>

(独) 農業生物資源研究所  
<http://www.nias.affrc.go.jp>

(財) 大日本蚕糸会 蚕糸科学研究所  
[http://www.silk.or.jp/silk\\_kagaku/index.html](http://www.silk.or.jp/silk_kagaku/index.html)

(財) 大日本蚕糸会 蚕業技術研究所  
[http://www.silk.or.jp/silk\\_gijyutu/index.html](http://www.silk.or.jp/silk_gijyutu/index.html)

群馬県蚕糸技術センター (群馬県トップページ>産業・労働>試験研究>蚕糸技術センター)  
[http://www.pref.gunma.jp/cts/PortalServlet?DISPLAY\\_ID=DIRECT&NEXT\\_DISPLAY\\_ID=U000004&CONTENTS\\_ID=50545](http://www.pref.gunma.jp/cts/PortalServlet?DISPLAY_ID=DIRECT&NEXT_DISPLAY_ID=U000004&CONTENTS_ID=50545)

群馬県繊維工業試験場 (群馬県トップページ>産業・労働>試験研究>繊維工業試験場)  
[http://www.pref.gunma.jp/cts/PortalServlet?DISPLAY\\_ID=DIRECT&NEXT\\_DISPLAY\\_ID=U000004&CONTENTS\\_ID=59241](http://www.pref.gunma.jp/cts/PortalServlet?DISPLAY_ID=DIRECT&NEXT_DISPLAY_ID=U000004&CONTENTS_ID=59241)

京都府織物・機械金属振興センター  
<http://www.silk.pref.kyoto.jp/index-sub.html>

京都市産業技術研究所繊維技術センター  
<http://www.ktri.city.kyoto.jp/mainpage/sikenjo.html>

## 【学 会】

日本シルク学会  
日本蚕糸学会

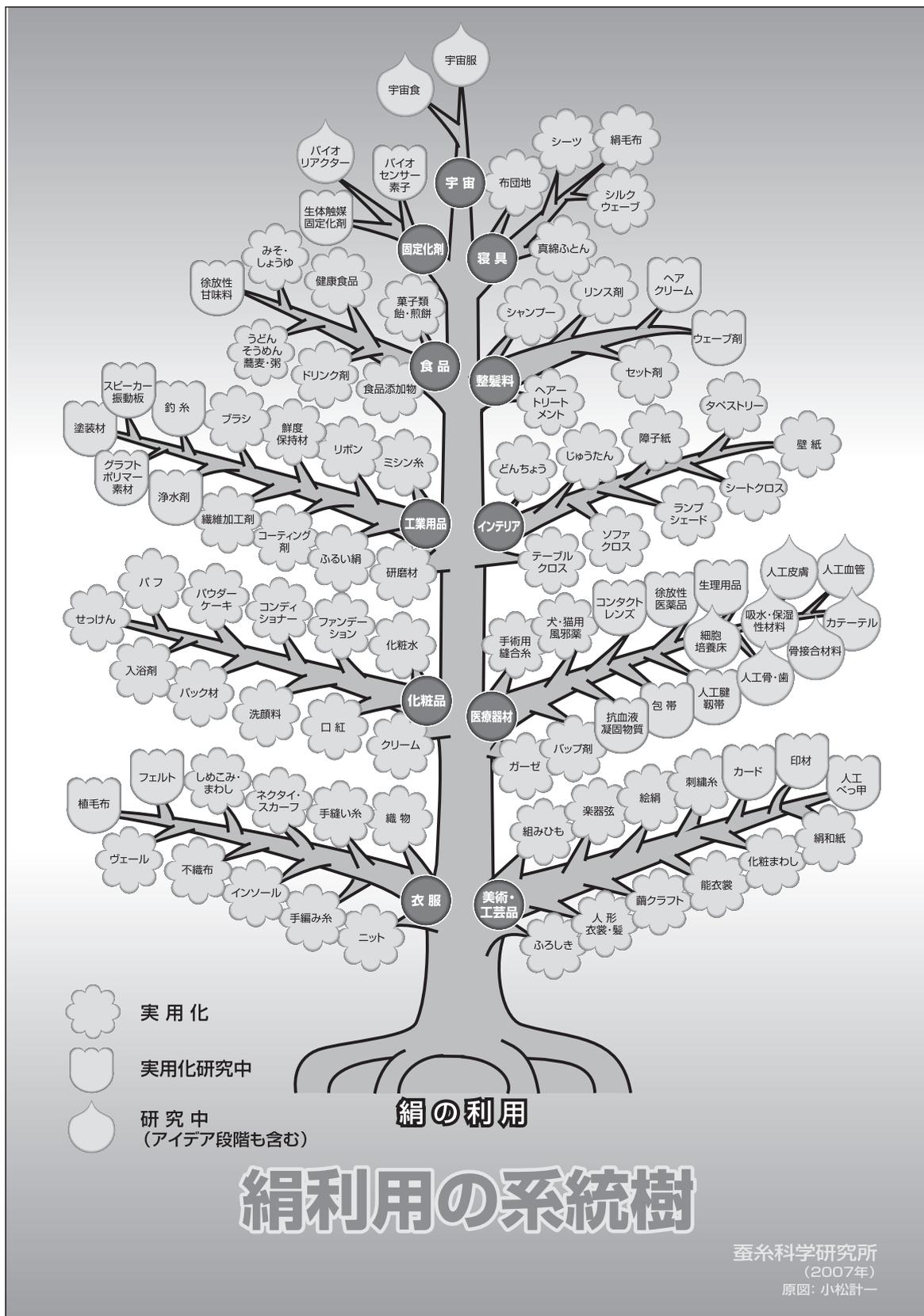
<http://www.silk.or.jp/ssstj/>  
<http://www.soc.nii.ac.jp/jsss2/>

## 【博物館】

(財) シルクセンター-国際貿易観光会館 シルク博物館  
群馬県立日本絹の里  
東京農工大学科学博物館

<http://www.silkmuseum.or.jp/>  
<http://www.nippon-kinunosato.or.jp/>  
<http://www.tuat.ac.jp/~museum/index.html>

# 絹にはこんなにいろいろな使い道があります。



# 統計資料目次

## <国内>

(1) 蚕糸絹業の概要	45
(2) 養蚕業の概要	46
(3) 養蚕農家数の推移	47
(4) 収繭量の推移	48
(5) 都府県別養蚕農家数・桑使用面積・収繭量（2008年）	49
(6) 蚕品種別蚕種製造数量の推移（2008～2010年）	50
(7) 平成23年度蚕期別、都府県別繭生産数量	51
(8) 平成22年度蚕期別、都府県別養蚕農家戸数	52
(9) 生糸需給及び絹糸・絹織物の輸出入状況	53
(10) 生糸の織度別生産数量の推移	54
(11) 国産生糸価格実態	56
(12) 絹需給の推移（生糸量換算試算）	57
(13) 品目別・絹二次製品輸入数量（生糸量換算試算）	58
(14) 製糸工場の原料繭需給	59
(15) 製糸工場の操業状況	60
(16) 生糸在庫数量の内訳	61
(17) 蚕糸関係品目別輸入状況	62
(18) 生糸の原産国別輸入数量	63
(19) 絹糸の原産国別輸入数量	64
(20) 生糸・絹糸の主要輸入国からの輸入数量と単価	65
(21) 絹織物生産数量	66
(22) 丹後・長浜・西陣の絹織物生産数量	67
(23) 全国全世帯被服類品目別消費支出状況	68

## <海外>

(1) 世界主要国の家蚕繭生産数量	69
(2) 世界主要国の家蚕生糸生産数量	70
(3) 中国省別家蚕繭生産数量・生糸生産数量・製糸工場数	71
(4) 中国省別家蚕繭生産数量の推移	72
(5) 中国のシルク類（生糸・絹糸・絹織物）の輸出状況	73
(6) 中国企業別従業員年間賃金総額及び対前年増減率	74
(7) 中国企業別従業員年間平均賃金及び対前年増減率	75
(8) 中国産業別従業員年平均賃金の推移	76
(9) 中国省別従業員年平均賃金（2010年）	77
(10) ブラジルの繭・生糸生産数量の推移	78
(11) ブラジルの繭、生糸・絹撚糸、絹織物の生産、輸入及び輸出状況	79

—資料・国内—

(1) 蚕糸絹業の概要

Outline of Sericultural, Silk-Reeling, and Silk Fabric Industry in Japan

項目 item	養蚕業 Sericultural Industry			製糸業 Silk-Reeling Industry			絹業 Silk Fabric Industry	
	養蚕農家 戸数 Number of Silk- Raising Farmer	収繭量 Cocoon Production	1戸当 収繭量 Cocoon Production per Farmer	生糸 生産量 Raw Silk Production	運転 工場数 Number of Mills	稼働率 Operation ratio	絹人織機 設備台数 (保有台 数) Number of Silk Loom	絹織物 生産量 Silk Fabric Production
年次 (暦年) Calendar year	戸 Number	トン t	kg	千俵 1,000 Bale of 60kg	工場 Number	%	千台 1,000	千㎡ 1,000 sq. meters
1994 6年	19,040	7,724	406	64.5	39	69	102.7	61,653
1995 7年	13,640	5,350	392	53.4	29	63	94.2	54,131
1996 8年	7,890	3,021	383	42.7	26	58	84.7	53,815
1997 9年	6,310	2,516	399	31.5	18	67	81.6	52,031
1998 10年	5,070	1,980	390	18.4	13	76	74.5	38,673
1999 11年	4,030	1,496	371	10.8	8	73	67.4	33,425
2000 12年	3,280	1,244	379	9.3	8	67	62.9	32,275
2001 13年	2,730	1,031	378	7.2	8	63	56.8	29,801
2002 14年	2,360	880	373	6.5	17	68	51.2	26,826
2003 15年	2,070	780	377	4.8	14	64	48.7	23,935
2004 16年	1,850	683	369	4.4	13	62	45.6	21,895
2005 17年	1,591	626	393	2.5	10	62	43.7	19,816
2006 18年	1,345	505	375	2.0	9	82	41.6	18,507
2007 19年	1,169	433	370	1.8	8	83	40.0	15,466
2008 20年	1,021	382	374	1.6	7	80	38.1	14,043
2009 21年	915	327	357	1.2	7	60	33.6	11,472
2010 22年	753	265	352	0.9	7	49	35.9	11,659
前年対比 (%) 2010/09	82.3	81.0	98.6	75.0	100.0	81.7	106.8	101.6

資料 ・平成20年以前の養蚕業及び製糸業は、農林水産省調査によるものである。  
 ・平成21年以降の養蚕業は、全国農業協同組合連合会及び(財)大日本蚕糸会調査である。  
 ・平成21年以降の製糸業は、中央蚕糸協会及び(社)日本生糸問屋協会調査である。  
 ・平成20年以前の絹業は経済産業省調査であり、平成21年以降絹業は(社)日本絹人織機工業会調査である。  
 平成18年以降の絹織物生産量は、絹紡織物を含む。

(注) 製糸業の運転工場数及び稼働率は器械製糸工場の操業状況であるが、平成14年以降はすべての製糸工場のもの  
 である。

Source: ・Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (MAFF) (Sericultural and Silk-Reeling, before 2008)  
 ・National Federation of Agricultural Co-operative Associations and The Dainippon Silk Foundation (Sericultural Industry, after 2009)  
 ・Central Raw Silk Association and Japan Raw Silk Dealer's Association(Silk-Reeling, after 2009)  
 ・The Ministry of Economy Trade and Industry (Silk Fabric, before 2008)  
 ・Japan Silk & Rayon Weaver's Association (Silk Fabric, after 2009)

Note: The number of operating mills and operation ratio are of machine reeling mills. (After 2002, all reeling mills)

## (2) 養蚕業の概要

### Outline of Sericultural Industry

項目 Item	養蚕農家数	桑栽培面積	桑使用面積	蚕種 掃立卵量	1箱当り 收繭量	收繭量	1戸当り 栽培面積	1戸当り 掃立卵量	1戸当り 收繭量
	Farm house- holds raising silk-worm	Growing area of mulberry	Harvested area of mulberry	Silk-worm eggs used	Cocoon production per box of silk-worm eggs used	Cocoon production	Growing area of mulberry per farm household raising silk-worm	Box of silkworm eggs used per farm household raising silk-worm	Cocoon production per farm household raising silk-worm
年次 Year	戸 number	100ha	100ha	1000箱 1,000cases	kg	t	a	箱 box	kg
1993	27,200	425	239	319	35	11,212	156	12	412
1994	19,000	339	173	228	34	7,724	178	12	406
1995	13,600	263	117	155	35	5,350	193	11	392
1996	7,890	193	66	87	35	3,021	244	11	382
1997	6,310	138	54	74	34	2,516	219	12	399
1998	5,070	103	44	60	33	1,980	203	12	390
1999	4,030	74	33	45	33	1,496	184	11	371
2000	3,280	59	27	37	33	1,244	179	11	379
2001	2,730	48	23	31	34	1,031	174	11	378
2002	2,360	43	22	26	34	880	182	11	373
2003	2,070	38	19	23	33	780	185	11	374
2004	1,850	34	18	21	38	683	186	11	369
2005	1,591	30	16	18	34	626	188	12	396
2006	1,345	27	14	15	34	505	198	11	375
2007	1,169	24	12	13	35	433	202	11	371
2008	1,021	20	10	11	36	382	197	10	374
対前年比 2008/07 (%)	87.3	83.3	83.3	84.6	102.9	88.2	97.5	90.9	100.8

資料：農林水産省統計情報部調査（～2001年）、農林水産省生産局調査（2002～2008年）。

Source : The Statistics and Information Department, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (～2001) .  
The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (2002～) .

### (3) 養蚕農家数の推移

#### Farm households raising silk-worm

(単位：戸)  
(Unit: number)

年次 Year	項目 Item	年間 Annual total	春蚕 Spring silk-worm	初秋蚕 Early autumn silk-worm	晩秋蚕 Late autumn silk-worm
1993		27,180	24,160	17,450	20,740
1994		19,040	16,790	13,190	14,790
1995		13,640	12,450	9,560	9,580
1996		7,890	6,980	5,000	6,290
1997		6,310	5,650	4,420	5,120
1998		5,070	4,550	3,750	4,120
1999		4,030	3,600	2,710	3,280
2000		3,280	2,970	2,170	2,700
2001		2,730	2,410	1,870	2,270
2002		2,360	1,992	1,720	1,918
2003		2,070	1,875	1,503	1,751
2004		1,850	1,621	1,371	1,551
2005		1,591	1,420	1,061	1,345
2006		1,345	1,215	852	1,102
2007		1,169	1,052	726	988
2008		1,021	929	613	857
対前年比 2008/07 (%)		87.3	88.3	84.4	86.7

資料：農林水産省統計情報部調査（～2001年）、全国農業協同組合連合会調査（2002年～2004年、参考数値）、  
農林水産省生産局調査（2005～2008年）。

National Federation of Agricultural Co-operative Associations (2002～2004) .

The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (2005～2008年) .

(4) 収繭量の推移  
Cocoon Production

項目 Item 年次 Year	年計 Annual total				1戸当り収繭量 Cocoon production per farm household raising silk-worm				桑使用面積 10a当たり 収繭量(年間) Cocoon production per farm harvested area of mulberry kg/10a
	年間 Annual total	春蚕 Spring silk-worm	初秋蚕 early autumn silk-worm	晩秋蚕 Late autumn silk-worm	年間 Annual total	春蚕 Spring silk-worm	初秋蚕 early autumn silk-worm	晩秋蚕 Late autumn silk-worm	
	t	t	t	t	kg	kg	kg	kg	
1993	11,212	4,624	3,060	3,529	412	191	175	170	47
1994	7,724	3,036	2,044	2,644	406	181	155	170	46
1995	5,350	2,222	1,477	1,651	392	178	155	172	46
1996	3,021	1,184	747	1,090	382	170	149	173	46
1997	2,516	982	678	857	398	174	153	167	46
1998	1,980	769	588	623	390	169	157	151	45
1999	1,496	596	391	509	371	166	144	155	46
2000	1,244	500	320	424	379	169	148	157	47
2001	1,031	391	275	365	378	162	147	161	47
2002	880	330	231	320	373	166	134	167	40
2003	775	313	210	253	374	167	140	144	40
2004	675	256	176	243	369	158	128	157	38
2005	626	243	165	218	396	171	156	162	40
2006	505	209	122	173	375	172	143	157	36
2007	433	175	110	148	371	166	152	150	37
2008	382	147	96	139	374	158	157	162	39
対前年比 2008/07 (%)	88.2	84.0	87.3	93.9	100.8	95.2	103.3	108.0	105.4
構成比 (%)	100.0	38.5	25.1	36.4					

資料：農林水産省統計情報部調査（～2001年）、全国農業協同組合連合会調査（2002年～2004年、参考数値）、  
農林水産省生産局調査（2005～2008年）。

Source : The Statistics and Information Department, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (～2001).  
National Federation of Agricultural Co-operative Associations (2002～2004) .  
The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (2005～2008年) .

(5) 都府県別養蚕農家数・桑使用面積・収繭量 (2008年)

Farm households raising silk-worm, Harvested area of mulberry and Cocoon production by prefectures in 2008

項目 Item 県別 Each Prefecture	年計 Annual total			春繭 spring silk-worm		初秋繭 Early autumn silk-worm		晩秋繭 late autumn silk-worm	
	養蚕農家数	桑使用面積	収繭量	養蚕農家数	収繭量	養蚕農家数	収繭量	養蚕農家数	収繭量
	Farm households raising silk-worm	Harvested area of mulberry	Cocoon production	Farm households raising silk-worm	Cocoon production	Farm households raising silk-worm	Cocoon production	Farm households raising silk-worm	Cocoon production
	number	ha	t	number	t	number	t	number	t
岩手 Iwate	29	30	11.0	22	2.8	21	4.0	26	4.2
宮城 Miyagi	39	37	13.0	28	4.6	28	3.8	32	4.5
山形 Yamagata	15	24	5.6	12	2.2	11	1.3	13	2.2
福島 Fukushima	104	116	51.3	99	18.1	33	14.2	89	19.1
茨城 Ibaragi	39	30	14.5	39	5.8	32	3.8	33	5.0
栃木 Tochigi	50	86	39.4	48	14.8	35	7.4	46	17.2
群馬 Gunma	417	471	161.2	383	63.2	249	40.9	370	57.2
埼玉 Saitama	97	75	32.8	93	12.1	74	8.7	83	12.0
千葉 Chiba	13	6	3.9	12	1.4	6	0.7	10	1.8
神奈川 Kanagawa	12		2.3	11	0.9	9	0.6	12	0.9
山梨 Yamanashi	34	26	11.7	30	5.6	15	2.3	22	3.8
長野 Nagano	46	32	13.2	42	5.4	37	3.4	35	4.4
岐阜 Gifu	28	12	4.4	24	2.1	13	0.5	22	1.7
徳島 Tokushima	23	10	4.6	22	2.4	13	1.0	16	1.2
愛媛 Ehime	22	19	7.6	16	2.8	21	2.5	18	2.4
熊本 Kumamoto	11	4	1.3	11	0.9	6	0.2	7	0.2
その他 Others	42	14	4.0	37	1.6	10	0.7	23	1.3
全国計 Total	1,021	992	381.8	929	146.7	613	96.0	857	139.1

資料：農林水産省生産局調査。

Source : The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries.

## (6) 蚕品種別蚕種製造数量の推移 (2008~2010年)

## Production by Sort of Silk-worm Eggs

Item	Year	2008年		2009年		2010年	
		箱 box	割合 rate %	箱 box	割合 rate %	箱 box	割合 rate %
錦秋1号 × 鐘和1号		4,023	28.2	4,803	34.9	3,420	26.3
錦秋 × 鐘和		2,700	19.0	2,400	17.5	2,400	18.5
春嶺1号 × 鐘月1号		2,410	16.9	1,565	11.4	2,072	15.9
ぐんま 200		1,832	12.9	1,622	11.8	1,627	12.5
春嶺 × 鐘月		900	6.3	900	6.5	1,001	7.7
かいりょう × あけぼの		355	2.5	442	3.2	487	3.7
新小石丸		313	2.2	317	2.3	355	2.7
芙蓉 × つくばね		300	2.1	300	2.2	300	2.3
上州絹星		191	1.3	204	1.5	51	0.4
世紀二一		176	1.2	218	1.6	191	1.5
緑繭1号		157	1.1	129	0.9	56	0.4
プラチナボーイ		147	1.0	71	0.5	73	0.6
朝日 × 東海		100	0.7	100	0.7		
朝日 × つくばね		100	0.7	100	0.7	100	0.8
ぐんま黄金		92	0.6	117	0.9	152	1.2
改良小石丸		79	0.6	87	0.6	87	0.7
白繭細1号		71	0.5	60	0.4	115	0.9
小蚕技研10号		55	0.4	39	0.3	27	0.2
蚕技研10号		45	0.3				
蚕技研11号		39	0.3	54	0.4	26	0.2
蚕技研11号		28	0.2	61	0.4	53	0.4
分離白1号 × 支106号		18	0.1	9	0.1	8	0.1
白繭細2号		16	0.1	20	0.1		
新青白		15	0.1	9	0.1	14	0.1
極細1号		13	0.1	21	0.2	30	0.2
玉小石山		12	0.1	33	0.2	16	0.1
鷹		9	0.1	29	0.2	25	0.2
支21号 × 四川3眠		9	0.1	6	0.0	4	0.0
又昔 × 中515号		8	0.1	6	0.0	5	0.0
青熟 × 支21号		6	0.0	6	0.0	6	0.0
諸桂 × 紹興白		6	0.0	4	0.0	4	0.0
黄		5	0.0	5	0.0	5	0.0
天竜青白 × 支108号		4	0.0				
青熟 × 中515号		3	0.0	2	0.0	3	0.0
鬼縮 × 中515号		3	0.0	4	0.0	1	0.0
青白 × 中515号		3	0.0				
山東三眠 × 中515号		2	0.0				
松岡姫り						200	1.5
いろど						39	0.3
鐘光 × 黄玉						35	0.3
太平 × 長安						7	0.1
支108号 × 青熟				2	0.0	5	0.0
合計 Total		14,245	100.0	13,745	100.0	13,000	100.0

資料：(財)大日本蚕糸会調査。

Source : The Dainippon Silk Foundation.

## (7) 平成23年度蚕期別、都府県別繭生産数量

Cocoon production by prefectures in 2011.

(単位：kg、%)

都府県等	春 蚕 期			初 秋 蚕 期			晩 秋 蚕 期			年 間		
	22年	23年	前年対比	22年	23年	前年対比	22年	23年	前年対比	22年	23年	前年対比
青森県	-	-	-	137.4	156.3	113.8%	144.7	119.3	82.4%	282.1	275.6	97.7%
岩手県	2,017.6	1,977.5	98.0%	2,783.7	2,318.9	83.3%	3,049.7	2,474.0	81.1%	7,851.0	6,770.4	86.2%
宮城県	2,755.5	2,127.1	77.2%	2,335.9	2,341.8	100.3%	3,046.5	2,248.6	73.8%	8,137.9	6,717.5	82.5%
山形県	1,649.3	1,315.2	79.7%	761.7	767.4	100.7%	1,254.4	1,638.3	130.6%	3,665.4	3,720.9	101.5%
福島県	12,488.4	11,519.5	92.2%	11,946.4	8,972.5	75.1%	16,645.2	13,617.0	81.8%	41,080.0	34,109.0	83.0%
茨城県	3,672.0	4,486.0	122.2%	2,653.6	2,323.2	87.5%	3,181.4	3,028.4	95.2%	9,507.0	9,837.6	103.5%
栃木県	12,003.5	11,488.4	95.7%	4,465.3	5,259.7	117.8%	14,350.8	9,370.2	65.3%	30,819.6	26,118.3	84.7%
群馬県	49,138.1	42,178.0	85.8%	23,357.1	18,729.3	80.2%	38,871.7	28,938.0	74.4%	111,366.9	89,845.3	80.7%
埼玉県	9,018.9	7,692.5	85.3%	4,968.6	3,308.7	66.6%	6,903.5	6,061.7	87.8%	20,891.0	17,062.9	81.7%
千葉県	1,263.6	1,168.6	92.5%	671.7	569.4	84.8%	1,310.9	1,113.4	84.9%	3,246.2	2,851.4	87.8%
東京都	543.1	386.0	71.1%	-	-	-	342.3	163.3	47.7%	885.4	549.3	62.0%
神奈川県	884.8	-	-	584.8	-	-	637.9	-	-	2107.5	-	-
山梨県	3,851.7	3,665.7	95.2%	1,170.0	805.7	68.9%	2,508.8	2,233.2	89.0%	7,530.5	6,704.6	89.0%
長野県	3,016.2	2,714.3	90.0%	2,212.9	1,765.0	79.8%	2,533.0	2,440.2	96.3%	7,762.1	6,919.5	89.1%
新潟県	-	186.4	-	46.6	54.3	116.5%	51.9	-	-	98.5	240.7	244.4%
福井県	-	62.4	-	-	21.2	-	-	23.0	-	-	106.6	-
岐阜県	1,351.3	1,086.0	80.4%	232.8	-	-	687.4	614.1	89.3%	2,271.5	1,700.1	74.8%
愛知県	120.9	64.1	53.0%	-	-	-	-	-	-	120.9	64.1	53.0%
兵庫県	83.5	42.0	50.3%	80.0	35.0	43.8%	66.0	-	-	229.5	77.0	33.6%
京都府	102.4	111.4	108.8%	97.5	-	-	40.6	93.3	229.8%	240.5	204.7	85.1%
愛媛県	2,172.3	1,992.9	91.7%	1,183.1	1,350.5	114.1%	1,671.9	1,482.3	88.7%	5,027.3	4,825.7	96.0%
高知県	280.4	228.4	81.5%	-	-	-	128.1	86.7	67.7%	408.5	315.1	77.1%
熊本県	543.4	431.9	79.5%	-	-	-	271.6	91.8	33.8%	815.0	523.7	64.3%
宮崎県	136.6	115.2	84.3%	-	-	-	62.7	67.3	107.3%	199.3	182.5	91.6%
鹿児島県	-	1.5	-	-	-	-	-	6.6	-	-	8.1	-
全国計	107,093.5	95,041.0	88.7%	59,689.1	48,778.9	81.7%	97,761.0	75,910.7	77.6%	264,543.6	219,730.6	83.1%

資料：(財)大日本蚕糸会調査

Source: The Dainippon Silk Foundation

## (8) 平成22年度蚕期別、都府県別養蚕農家戸数

## Farm households raising silk-worm by prefectures in 2010.

(単位:戸、%)

都府県名	春蚕期			初秋蚕期			晩秋蚕期			年間		
	21年	22年	前年対比	21年	22年	前年対比	21年	22年	前年対比	21年	22年	前年対比
青森県	1	1	100.0	1	1	100.0	1	1	100.0	1	1	100.0
岩手県	21	15	71.4	23	23	100.0	28	23	82.1	33	27	81.8
秋田県	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-
宮城県	30	21	70.0	23	17	73.9	33	21	63.6	37	28	75.7
山形県	11	10	90.9	10	9	90.0	11	9	81.8	12	11	91.7
福島県	83	71	85.5	72	65	90.3	82	76	92.7	95	83	87.4
茨城県	33	18	54.5	28	20	71.4	24	20	83.3	33	37	112.1
栃木県	43	37	86.0	32	25	78.1	40	38	95.0	47	40	85.1
群馬県	336	288	85.7	290	216	74.5	330	278	84.2	373	310	83.1
埼玉県	72	63	87.5	57	48	84.2	68	59	86.8	79	68	86.1
千葉県	12	10	83.3	9	7	77.8	9	8	88.9	12	11	91.7
東京都	6	6	100.0	0	0	-	7	5	71.4	7	7	100.0
神奈川県	9	9	100.0	10	10	100.0	10	10	100.0	12	12	100.0
新潟県	15	0	-	2	1	50.0	3	1	33.3	15	1	6.7
山梨県	31	24	77.4	14	7	50.0	22	21	95.5	31	27	87.1
長野県	32	28	87.5	26	19	73.1	27	25	92.6	39	31	79.5
岐阜県	25	18	72.0	9	8	88.9	18	17	94.4	27	21	77.8
静岡県	1	0	0.0	1	0	-	1	0	-	1	0	-
愛知県	2	1	50.0	1	0	-	0	0	-	3	1	33.3
兵庫県	1	1	100.0	1	1	100.0	0	1	-	1	1	100.0
島根県	1	0	-	0	0	-	1	0	-	1	0	0.0
徳島県	16	0	-	12	0	0.0	13	0	-	16	0	-
愛媛県	17	17	100.0	19	15	78.9	17	19	111.8	22	19	86.4
高知県	4	4	100.0	0	0	-	3	3	100.0	5	5	100.0
熊本県	10	8	80.0	4	2	50.0	6	4	66.7	10	8	80.0
宮崎県	2	4	200.0	3	0	-	1	2	200.0	3	4	133.3
全国計	814	654	80.3	647	494	76.4	755	641	84.9	915	753	82.3

資料:大日本蚕糸会調査

Source:The Dainippon Silk Foundation

## (9) 生糸需給及び絹糸・絹織物の輸出入状況

## Raw Silk Supply / Demand Balance and Import/Export Balance of Silk Yarn and Silk Fabric

項目 Item 年月 Year & Month	生 糸 Raw Silk					絹 糸 Silk Yarn		絹 織 物 Silk Fabrics	
	生産数量	輸入数量	輸出数量	国内引渡 数 量	期末在庫 数 量	輸入数量	輸出数量	輸入数量	輸出数量
	Produ- ction (A)	Imports (B)	Exports (C)	Domestic Deliveries (D)	Ending Stocks (E)	Imports (F)	Exports (G)	Imports (H)	Exports (I)
暦 年 Calendar Year	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	1000SM	1000SM
2005	2,508	22,017	4,125	26,429	8,178	32,700	609	15,999	8,252
2006	1,956	19,974	—	20,752	9,356	31,524	568	12,959	7,578
2007	1,747	12,601	—	15,624	7,879	19,439	404	11,355	7,184
2008	1,588	15,031	—	20,115	4,584	22,636	466	11,640	7,126
2009	1,152	12,085	—	13,766	4,055	16,647	388	8,996	6,269
2010	882	12,209	—	13,817	3,329	16,306	324	9,029	6,299
2011	729	9,322	—	10,998	2,382	17,527	428	8,537	6,229
生糸年度 Silk Year									
2004	3,868	20,154	11,500	27,002	7,274	30,204	565	14,130	7,286
2005	2,024	26,365	—	25,737	9,926	36,113	500	16,121	8,655
2006	1,794	13,394	—	16,873	8,241	21,561	534	10,730	7,152
2007	1,762	15,564	—	20,286	5,281	22,936	433	12,255	6,087
2008	1,378	12,137	—	14,638	4,158	18,716	378	10,320	6,806
2009	1,029	12,857	—	14,383	3,661	17,481	366	8,639	6,182
2010	882	12,207	—	13,815	2,935	16,307	324	9,000	6,299
2010 - 9	60	1,174	—	1,181	3,257	1,235	32	750	582
10	71	1,070	—	798	3,600	1,254	74	659	555
11	72	1,082	—	1,187	3,567	1,453	36	879	480
12	74	1,223	—	1,535	3,329	1,485	23	836	506
2011 - 1	53	1,448	—	1,521	3,309	1,790	18	976	427
2	69	593	—	823	3,148	982	55	486	559
3	65	1,381	—	1,031	3,563	1,858	15	769	599
4	70	372	—	851	3,154	1,674	15	741	562
5	66	1,280	—	1,501	2,999	1,797	17	910	440
6	63	760	—	890	2,932	1,731	30	762	667
7	57	489	—	680	2,872	1,489	29	770	457
8	53	547	—	590	2,882	1,498	47	706	443
9	61	420	—	932	2,431	1,340	45	610	568
10	56	765	—	790	2,462	1,165	78	515	530
11	64	550	—	820	2,256	1,202	47	656	469
12	52	717	—	569	2,456	1,001	32	636	508
2012 1	42	1,185	—	992	2,691	1,590	39	804	291

資 料 : (A) (C) (D) (E) 農林水産省生産局調査。(B) 財務省関税局調査、ただし96年1月から08年3月までの輸入は、農畜産業振興機構調査の実需者輸入分と一般者輸入分を合わせた数値。(F) (G) (H) (I) 財務省関税局調査。

備 考 : 1. 国内引渡数量(D) = {前月在庫数量+(A)+(B)} - {(C)+(E)}。

2. kgを60kg俵に換算しているため、各月の計と合計とが一致しない場合がある。

Source : (A) (C) (D) (E) The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries.

(B) The Customs Bureau, Ministry of Finance. But the figures for raw silk imports have been based on data of the Agriculture & Livestock Industries Corporation since Jan. 1996 until Mar. 2008, excluding bonded silk.

(F) (G) (H) (I) The Customs Bureau, Ministry of Finance.

Remarks : 1. Domestic deliveries (D) = {Stock at end of the previous month + (A) + (B)} - {(C) + (E)}.

2. Monthly volume may not add up the total volume due to round off.

## (10) 生糸の織度別生産数量の推移

## Raw Silk Production by Sizes

(単位 : 60kg俵)

(Unit : Bales of 60kg)

項目 Item	生 糸 Raw Silk					
	計 Total	18デニール以下 17/19or 17/19 finer	21デニール 20/22	27デニール 26/28	31デニール 30/32	その他 Others
年 月 Year & Month						
暦 年 Calendar Year						
2005	2,508	8	337	834	799	527
2006	1,956	4	240	531	653	523
2007	1,747	5	259	495	514	474
2008	1,588	4	289	421	368	503
2009	1,152	1	243	392	251	262
2010	882	1	179	316	86	300
2011	729	1	188	250	89	204
生糸年度 Silk Year						
2005	2,024	6	261	510	726	518
2006	1,794	4	269	480	562	475
2007	1,762	5	276	443	495	537
2008	1,378	1	291	447	280	360
2009	1,029	—	205	358	208	242
2010 -						
6	77	—	7	36	—	34
7	76	—	11	32	2	31
8	61	—	12	24	1	24
9	60	—	29	9	7	15
10	71	—	12	27	5	27
11	72	1	6	31	—	34
12	74	—	7	24	8	35
2011 -						
1	53	—	27	12	4	10
2	69	—	16	23	5	25
3	65	—	18	15	10	22
4	70	—	13	22	7	28
5	66	—	18	18	6	24
6	63	—	11	29	7	16
7	59	—	13	23	—	23
8	53	1	9	24	6	13
9	59	—	15	23	6	17
10	56	—	23	14	12	7
11	64	—	6	37	10	12
12	52	—	19	10	16	7
2012 -						
1	42	—	7	9	21	6

資 料 : 農林水産省生産局調査(～2010.3)。中央蚕糸協会(2010.4～)。

備 考 : kgを60kg俵に換算しているため、各月の計と合計とが一致しない場合がある。

Source : The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries(～2010.3). Central Raw Silk Association (2010.4～)。

Remarks : Monthly volume may not add up the total volume due to round off.

(参考) 中国生糸電子取引値段

China Raw Silk Monthly Prices of Electric Contract Traded

生糸B類(21デニール3A)  
Standard Raw Silk:21d 3A

上段単位:元/kg、下段:円/kg  
(Upper Sec Unit:Yuan/kg,Lower Sec Unit:Yen/kg)

	限月 Month	単位	始値 Open	安値 Low	高値 High	終値 Close
3月中	3月	元	301.14	298.86	302.58	300.60
		円	3,915	3,885	3,934	3,908
	4月	元	298.20	297.06	300.18	298.32
		円	3,877	3,862	3,902	3,878
	5月	元	293.46	292.44	294.30	293.04
		円	3,815	3,802	3,826	3,810
	6月	元	293.40	292.62	294.36	293.22
		円	3,814	3,804	3,827	3,812
	7月	元	293.04	292.14	294.00	293.10
		円	3,810	3,798	3,822	3,810
	8月	元	293.16	292.20	294.48	293.28
		円	3,811	3,799	3,828	3,813
	9月	元	291.24	288.24	293.28	291.30
		円	3,786	3,747	3,813	3,787
	11月	元	292.98	291.96	294.90	293.28
		円	3,809	3,795	3,834	3,813
	1月	元	295.92	294.66	298.20	296.04
		円	3,847	3,831	3,877	3,849

	限月 Month	単位	始値 Open	安値 Low	高値 High	終値 Close
4月中	4月	元	329.03	325.73	330.90	326.93
		円	4,277	4,234	4,302	4,250
	5月	元	328.73	327.23	330.98	329.18
		円	4,273	4,254	4,303	4,279
	6月	元	330.53	328.65	332.48	330.53
		円	4,297	4,272	4,322	4,297
	7月	元	330.08	328.43	332.40	330.23
		円	4,291	4,270	4,321	4,293
	8月	元	329.55	327.08	332.25	329.48
		円	4,284	4,252	4,319	4,283
	9月	元	329.10	323.25	334.50	327.38
		円	4,278	4,202	4,349	4,256
	11月	元	331.58	327.98	334.58	330.38
		円	4,310	4,264	4,349	4,295
	1月	元	334.20	329.63	337.20	332.25
		円	4,345	4,285	4,384	4,319
	3月	元	336.08	329.63	341.10	333.45
		円	4,369	4,285	4,434	4,335

円換算レートは、1元=13.00円である。

資料: 中国繭絲綢交易市場(浙江省嘉興)

Remarks: Rate 1Yuan = 13.00Yen

Source: China Silk Exchange (Zhejiang Sheng Jia Xing)

## (11) 国産生糸価格実態

### Japanese Raw Silk Actual Condition Price

単位：円／k g  
(Unit : Yen/k g)

Year & Month	Size	21d	27d	31d	平均 Average
2005		3,870	3,173	3,107	3,383
2006		4,617	4,267	4,080	4,321
2007		3,961	3,625	3,573	3,720
2008		4,266	3,754	3,489	3,836
2009		4,171	3,598	3,136	3,635
2010		4,152	3,891	3,564	3,869
2011		5,261	4,923	5,260	5,148
2010 -	8	4,256	3,893	3,814	3,988
	9	4,209	3,965	3,625	3,933
	10	4,231	4,106	3,833	4,057
	11	4,338	4,149	3,942	4,143
	12	4,329	4,336	4,002	4,222
2011 -	1	4,267	4,267	4,127	4,220
	2	4,763	4,737	5,400	4,967
	3	4,800	4,619	4,556	4,658
	4	4,942	4,593	4,865	4,800
	5	5,188	4,699	4,853	4,913
	6	5,200	5,035	4,750	4,995
	7	5,600	5,109	5,327	5,345
	8	5,602	5,106	5,586	5,431
	9	5,778	5,237	6,078	5,698
	10	5,455	5,282	5,872	5,536
	11	5,733	5,138	5,657	5,509
	12	5,800	5,257	6,043	5,700
2012 -	1	5,788	5,181	6,125	5,698

注：国産生糸価格実態は、調査対象生糸売買業者の平均取引価格である。

資料：（社）日本生糸問屋協会

Remarks : Japan raw silk actual condition price is average trade price among domestic dealers

Source : Japan Raw Silk Dealer's Association

## (12) 絹需給の推移 (生糸量換算試算)

## Silk Supply and Demand Balance (Raw Silk Value Estimation)

(単位：千俵)  
(Unit: 1,000Bales of  
60kg)

項目 Item 曆年 Calendar Year	供給計 Supply Total ①								需要計 Demand Total ②=①-④						期末 在庫 Ending Stocks ④	
	期初 在庫 Opening Stocks	生産 Produc- tion	輸 入 Import					輸 出 Export					内 需 Domestic Demand ②-③			
			計 Total	生 糸 Raw Silk	絹 糸 Silk Yarn	織 物 Fabrics	二 次 The Second	計 ③ Total	生 糸 Raw Silk	絹 糸 Silk Yarn	織 物 Fabrics	二 次 The Second				
1990	462	164	95	203	35	16	59	93	290	13	—	0	9	4	277	172
1991	494	172	92	230	46	29	62	93	327	11	0	0	7	4	316	167
1992	460	167	85	208	26	21	60	101	308	11	—	0	7	4	297	152
1993	483	152	71	260	25	38	65	132	345	11	—	0	7	4	334	138
1994	525	138	65	322	26	37	64	195	390	10	—	0	7	3	380	135
1995	515	135	54	326	30	31	61	204	377	11	0	1	8	2	366	138
1996	507	138	43	326	35	49	62	180	374	13	0	0	9	4	361	133
1997	401	133	32	236	34	35	43	124	270	14	0	0	11	3	256	131
1998	345	131	18	196	28	23	28	117	222	13	0	0	11	2	209	123
1999	361	123	11	227	41	28	31	127	242	13	0	0	11	2	229	119
2000	376	119	9	248	39	32	28	149	263	16	0	0	14	2	247	113
2001	350	113	7	230	30	23	25	152	237	17	0	0	15	2	220	113
2002	366	113	7	246	32	28	24	162	261	18	0	0	16	2	243	105
2003	361	105	5	251	31	33	25	162	261	20	2	0	17	1	241	100
2004	353	100	4	249	26	30	25	168	268	30	11	0	18	1	238	85
2005	354	85	3	266	22	33	30	181	270	27	4	1	21	1	243	84
2006	334	84	2	248	20	32	24	172	257	22	0	1	20	1	235	77
2007	293	77	2	214	13	19	21	161	222	21	0	1	18	2	201	71
2008	276	71	2	203	15	23	20	145	213	16	0	0	15	1	197	63
2009	237	63	1	173	12	16	15	130	190	16	0	0	15	1	174	47
2010	225	47	1	177	12	16	16	133	152	16	0	0	15	1	136	43
対前年比 2010/09(%)	95	75	100	102	100	100	107	102	80	100	—	—	100	100	78	91

資 料：蚕糸業需給・価格動向隔月報・繊維統計月報・日本貿易月報より、農林水産省生産局がとりまとめたものである。

ただし、2000年以降は農林水産省生産局の協力により、(社)日本生糸問屋協会が試算推計したものである。

Source: "Silk balance and price situation monthly", "Trade Statistics" (arranged by Agricultural Production Bureau, MAFF)  
After 2000, estimated by Japan Raw Silk Dealer's Association through collaboration with Agricultural Production, Bureau MAFF.

## (13) 品目別・二次製品輸入数量 (生糸量換算試算)

## Breakdown of Silk Second Products Imports (Raw Silk Value Estimation)

(単位：千俵)

(Unit: 1,000 Bales of 60kg)

項目 Item	暦年 Calendar Year	2005	2006	2007	2008	2009	2010	前年比% y/y	構成比% ratio
	布 は く 製 Product made in cloth	男子用外衣類 Men's upper garments	2.7	3.7	3.9	2.5	1.8	2.8	155.6
女子用外衣類 Women's upper garments		59.9	56.6	50.0	40.2	37.1	38.4	103.5	28.9
うちブラウス Blouse of the inside		3.7	3.5	3.0	3.4	2.8	2.4	85.7	1.8
男子用下着・寝具衣料 Men's underwear・bedding cloth		5.8	5.7	2.2	1.6	1.1	1.0	90.9	0.8
女子用下着・寝具衣料 Women's underwear・bedding cloth		16.1	15.1	15.0	16.3	13.5	13.9	103.0	10.5
ハンカチ Handkerchief		1.9	1.0	0.5	0.5	0.4	0.3	75.0	0.2
ショール、スカーフ類 Shawl, scarves		3.4	2.7	3.0	2.9	2.5	2.2	88.0	1.7
ネクタイ類 Ties		25.2	21.4	21.6	20.8	18.2	18.1	99.5	13.6
メリヤス、クロセス編物 Knit. kurose knitting		19.9	18.5	21.2	19.8	15.9	17.9	112.6	13.5
その他の洋装類 Other western clothes	26.7	26.3	25.4	23.7	22.0	21.0	95.5	15.8	
洋装類計 Western clothes subtotal	161.6	151.0	143.0	128.3	112.4	115.6	102.8	86.9	
和装類計 Japanese clothes subtotal	17.4	18.4	15.5	14.7	15.9	14.5	91.2	10.9	
うち絹製の帯小物等 Silk obi accessorys of the inside	14.1	16.0	12.9	12.1	13.9	12.5	89.9	9.4	
その他 Others	2.1	2.5	2.5	2.4	1.9	2.9	152.6	2.2	
合計 Total	181.0	171.9	161.0	145.4	130.2	133.0	102.2	100.0	

資料：財務省「日本貿易月報」により(社)日本生糸問屋協会で作成したものである。

注)：ラウンドにより合計が一致しないことがある。

Source: The Customs Bureau, Ministry of Finance "Trade Statistics"  
(arranged by Raw Silk Dealer's Association)

Note: Total may not added up due to round off.

## (14) 製糸工場の原料繭需給

## Balance of Cocoons as Raw Materials by Reeling Mills

(単位：生繭. t)

(Unit: Ton by fresh weight)

年 月 Year & Month	項 目 Item	総 計 Grand Total		
		受入数量 Receipts	消費数量 Put in Process	期末在庫数量 Ending Stocks
暦 年 Calendar Year				
	2005	866	830	589
	2006	600	646	541
	2007	548	581	505
	2008	393	518	379
	2009	308	385	313
	2010	241	300	263
	2011	222	248	237
生糸年度 Silk Year				
	2005	839	673	390
	2006	562	599	349
	2007	502	583	266
	2008	406	452	224
	2009	324	337	209
	2010	260	281	188
Year	Month			
2010	— 9	0	22	253
	10	80	24	309
	11	8	24	293
	12	1	31	263
2011	— 1	27	17	273
	2	5	23	255
	3	0	22	233
	4	1	24	210
	5	0	22	188
	6	46	21	213
	7	36	20	229
	8	34	20	243
	9	13	21	235
	10	41	20	256
	11	19	21	254
	12	0	17	237
2012	— 1	4	15	226

資 料：農林水産省生産局調査(～2010. 3)。中央蚕糸協会及び(社)日本生糸問屋協会(2010. 4～)。

備 考：1. 本表は上繭及び玉屑繭の合計である。

2. 受入数量=本月末在庫数量+消費数量-前月末在庫数量。

Source : The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries(～2010. 3).  
Central Raw Silk Association and Japan Raw Silk Dealer's Association(2010. 4～).

Remarks : 1. This table includes reelable, doupion and waste cocoons.

2. Receipts=(Ending stocks of the current month)+(put in process)-(Ending stocks of the preceding

## (15) 製糸工場の操業状況

## Activities of Reeling Mills

年 月 Year & Month	項 目 Item	運転工場数 Operating Reeling Mills	設 備 数(台) Reeling Machines		運 転 率 (%) Operating Ratio	操業日数 Days Operated	従業者数 Number of Workers
			運転可能 Operable	運 転 Operating			
暦 年 Calendar Year							
	2005	10	203	126	62	269	111
	2006	9	114	94	82	266	103
	2007	8	112	93	83	266	100
	2008	7	112	90	80	266	90
	2009	7	118	71	60	259	82
	2010	7	118	58	49	247	73
	2011	7	110	57	52	252	65
2010 —	3	7	118	80	68	22	80
	4	7	118	79	67	20	90
	5	7	118	75	64	21	91
	6	7	118	74	63	22	84
	7	7	118	75	64	17	84
	8	7	118	76	64	18	79
	9	7	118	72	61	22	79
	10	7	118	76	64	22	79
	11	7	118	73	62	21	79
	12	7	118	58	49	21	73
2011 —	1	7	118	58	49	20	67
	2	7	118	58	49	21	63
	3	7	118	60	51	23	62
	4	7	118	55	47	21	66
	5	7	110	55	50	20	64
	6	7	110	52	47	21	60
	7	7	110	55	50	22	56
	8	7	110	53	48	20	64
	9	7	110	64	58	21	65
	10	7	110	57	52	21	66
	11	7	110	55	50	21	66
	12	7	110	57	52	21	65
2012 —	1	7	110	51	45	18	63

資 料：農林水産省生産局調査(～2010.3)。中央蚕糸協会及び(社)日本生糸問屋協会(2010.4～)。

備 考：1. 設備数中の運転可能及び運転台数は毎月の算術平均である。

2. 運転率は運転可能台数に対する運転台数の比率である。

3. 従業者数は期末現在の在籍従業員数である。

Source : The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries(～2010.3).

Central Raw Silk Association and Japan Raw Silk Dealer's Association(2010.4～).

Remarks : 1. The number of operable and operating reeling machines is arithmetic means of monthly figures.

2. Operating ratio means ratio of operating machines in operable machines.

3. Number of workers are those on payroll as of end of period.

## (16) 生糸在庫数量の内訳

## Breakdown of Raw Silk Stocks

(単位：60kg俵)

(Unit: Bales of 60kg)

項目 Item	総計 Grand Total	一 般 在 庫 Stock in markets					農畜産業振興機構 Stock of Agriculture & Livestock Industries Corporation		
		計 Total	製糸工場 Filatures Mills	生糸市場 売買業者 Dealers	生糸市場外 売買業者 Domestic Dealers	生糸輸出 入業者 Ex and Importers	受入 数量 Accepts	引渡 数量 Deliveries	在庫数量 Ending Stocks
年月 Year & Month									
暦年 Calendar Year									
2005	8,178	8,178	721	139	7,008	310	22,017	26,142	—
2006	9,356	9,356	446	50	8,606	254	19,974	19,974	—
2007	8,080	8,080	359	20	7,358	343	12,601	12,601	—
2008	4,584	4,584	310	15	3,536	723	1,459	1,459	—
2009	4,055	4,055	355	10	3,162	528			
2010	3,329	3,329	319	0	2,354	656			
2011	2,462	2,462	273	0	1,664	525			
生糸年度 (6~5) Silk Year									
2005	9,926	9,926	373	170	8,923	460	26,365	26,365	—
2006	8,241	8,241	473	20	7,564	184	13,394	13,394	—
2007	5,281	5,281	305	15	4,241	720			
2008	4,158	4,158	376	15	3,266	515			
2009	3,661	3,661	358	0	2,795	508			
2010	2,999	2,999	285	0	2,014	700			
2010 — 4	3,229	3,229	355	0	2,478	396			
5	3,661	3,661	358	0	2,795	508			
6	3,542	3,542	343	0	2,644	555			
7	3,221	3,221	334	0	2,441	446			
8	3,204	3,204	340	0	2,365	499			
9	3,257	3,257	331	0	2,422	504			
10	3,600	3,600	328	0	2,646	626			
11	3,567	3,567	331	0	2,628	608			
12	3,329	3,329	319	0	2,354	656			
2011 — 1	3,309	3,309	292	0	2,388	629			
2	3,148	3,148	284	0	2,219	645			
3	3,563	3,563	288	0	2,511	764			
4	3,154	3,154	288	0	2,182	684			
5	2,999	2,999	285	0	2,014	700			
6	2,932	2,932	213	0	2,110	609			
7	2,872	2,872	229	0	2,095	548			
8	2,882	2,882	243	0	2,168	471			
9	2,431	2,431	281	0	1,729	421			
10	2,462	2,462	273	0	1,664	525			
11	2,256	2,256	282	0	1,559	415			
12	2,456	2,456	288	0	1,664	525			
2012 — 1	2,691	2,691	217	0	1,559	415			

資 料：農林水産省生産局調査(～2010.3)。中央蚕糸協会及び(社)日本生糸問屋協会(2010.4～)。

Source : The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries(～2010.3).

Central Raw Silk Association and Japan Raw Silk Dealer's Association(2010.4～)。

(17) 蚕糸関係品目別輸入状況 (平成19年～24年2月)  
 Breakdown of Silk-Related Products Imports (2007～Feb. 2012)

	単位 Unit	平成24年(2012)		平成23年 (2011)	平成22年 (2010)	平成21年 (2009)	平成20年 (2008)	平成19年 (2007)	23年/22年 2011/10 (%)
		(2月) Feb.	(累計) Accumulated Total						
生糸・玉糸計 Raw Silk and Doupion Silk	俵 Bale s of 60kg	482	1,667	9,306	12,209	12,085	15,242	12,858	76.2
絹糸 Silk Yarn	俵 Bale s of 60kg	756	2,266	17,245	16,306	16,647	22,636	19,439	105.8
野蚕糸 Wild Raw Silk	俵 Bale s of 60kg	—	—	—	82	149	317	333	0.0
繭 Cocoon	kg	2,000	3,500	4,050	13,158	9,800	4,000	13,750	30.8
真綿 Floss Silk	kg	—	—	—	—	—	29,071	28,660	—
ペニ Peigne	kg	—	—	—	—	35,331	2,770	6,336	—
くず繭 Waste Cocoon	kg	400	2,062	10,885	9,395	33,450	23,770	17,184	115.9
絹ノイル Silk Noil	kg	—	—	—	—	—	202,220	242,082	—
その他の絹 くず Other Silk Waste	kg	13,400	19,541	98,732	134,852	103,122	193,125	238,507	73.2
絹のくず計 Silk Waste Total	kg	13,800	21,603	109,617	144,247	171,903	450,956	532,769	76.0
絹紡糸 Spun silk yarn from silk waste other than noil	kg	30,158	84,577	394,920	451,219	335,710	526,662	608,270	87.5
絹紡糸 Spun silk yarn from noil silk	kg	9,001	19,418	118,404	104,374	97,554	143,585	117,265	113.4
絹織物 Silk Fabrics	m <sup>2</sup>	69,997	154,634	8,537,000	9,029,003	8,996,010	11,540,335	11,355,333	94.6

資料：財務省関税局

備考：絹ノイルと真綿の統計は、平成21年1月より廃止された。

(18) 生糸の原産国別輸入数量  
Raw Silk Imports

(単位：60kg 俵)  
(Unit: Bales of 60kg)

年 月 Year & Month	国 名 Country	計	中国	ブラジル	ベトナム	タイ	その他
		Total	China	Brazil	Vietnam	Thailand	Others
暦年 Calendar Year							
2008		15,242 (137)	11,024 (102)	4,101 (35)	-	117 (-)	
2009		12,085 (72)	8,169 (51)	3,855 (21)	11 (-)	50 (-)	-
2010		12,209 (65)	8,411 (40)	3,706 (25)	0	77	-
2011		9,322 (46)	7,169 (31)	2,136 (15)	0	18	-
生糸年度 Silk Year							
2008		12,138 (103)	8,572 (89)	3,435 (14)	11	122	-
2009		12,857 (66)	8,787 (38)	3,896 (28)	11	73	-
2010		12,172 (79)	9,062 (65)	3,068 (14)	1	39	-
2010	- 4	612	449	163	-	-	-
	5	1,532 (20)	1,082 (10)	450 (10)	-	-	-
	6	919 (4)	681	237 (4)	-	1	-
	7	645 (5)	396 (5)	246	-	2	-
	8	985 (15)	790 (15)	176	-	19	-
	9	1,174	892	282	-	-	-
	10	1,070 (16)	670 (10)	400 (6)	-	-	-
	11	1,082	843	234	1	5	-
	12	1,223	651	572	-	-	-
2011	- 1	1,448 (13)	1,168 (10)	274 (3)	-	6	-
	2	593	521	72	-	-	-
	3	1,381 (15)	1,052 (10)	321 (5)	-	6	-
	4	372	316	56	-	-	-
	5	1,280 (11)	1,082 (11)	198	-	-	-
	6	760 (7)	416	344 (7)	-	-	-
	7	489	389	100	-	-	-
	8	547	292	254	-	-	-
	9	420	420	0	-	-	-
	10	765	491	272	-	3	-
	11	550	325	225	-	-	-
	12	717	697	20	-	3	-
2012	- 1	1,185	1,149	36	-	-	-

資 料：財務省関税局調査

備 考：1. kgを60kg俵単位に換算してあるので、国別の計と合計が一致しない場合がある。

(19) 絹糸の原産国別輸入数量  
Silk Yarn Imports

(単位：60kg俵)  
(Unit: Bales of 60kg)

年月 Year&Month	国名 Country	計 Total	韓 国 S Korea	中 国 China	ベトナム Vietnam	イタリア Italy	アメリカ USA	ブラジル Brazil	その他 Others
暦 年 Calendar Year									
2008		22,636	30	12,513	6,865	12	—	3,204	12
2009		16,647	—	9,655	5,096	10	—	1,742	144
2010		16,306	—	9,675	4,694	16	—	1,716	205
2011		17,527	—	10,383	5,098	16	—	1,722	79
生糸年度 Silk Year									
2008		18,716	23	10,677	5,700	11	—	2,242	64
2009		17,481	—	9,940	5,065	7	—	1,953	186
2010		17,729	—	11,117	4,927	8	—	1,482	191
2010	—								
	1	1,683	—	1,086	478	—	—	118	1
	2	1,435	—	713	491	2	—	230	—
	3	1,051	—	506	343	1	—	132	68
	4	1,318	—	747	363	—	—	178	29
	5	1,192	—	692	342	—	—	157	—
	6	1,325	—	889	296	—	—	135	4
	7	1,573	—	1,026	352	—	—	144	50
	8	1,303	—	784	382	—	—	137	0
	9	1,235	—	811	302	—	—	121	1
	10	1,254	—	754	366	2	—	132	—
	11	1,453	—	790	526	—	—	81	56
	12	1,485	—	877	465	1	—	141	1
2011	—								
	1	1,790	—	1,108	543	—	—	139	—
	2	982	—	559	312	—	—	110	—
	3	1,858	—	1,244	467	2	—	134	10
	4	1,674	—	1,124	448	2	—	99	1
	5	1,797	—	1,151	468	1	—	109	68
	6	1,731	—	906	628	—	—	197	—
	7	1,489	—	910	432	0	—	155	—
	8	1,498	—	730	432	10	—	225	—
	9	1,340	—	745	543	1	—	51	—
	10	1,165	—	542	309	—	—	243	—
	11	1,202	—	672	297	—	—	232	—
	12	1,001	—	692	219	—	—	28	—
2012	—								
	1	1,590	—	1,075	353	—	—	80	—

資 料：財務省関税局調査。

備 考：kgを60kg俵単位に換算してあるので、国別の計と合計が一致しない場合がある。

Source : The Customs Bureau, Ministry of Finance.

Remarks : Country volume may not add up the total volume due to round off.

## (20) 生糸・絹糸の主要輸入国からの輸入数量と単価

## Raw Silk and Silk Yarn Imports in Major Countries

単位：俵, Kg/円

項目 Item	輸入生糸 (通関ベース)				輸入絹糸 (通関ベース)					
	Raw Silk Imprt				Silk Yarn Import					
	中国 China		ブラジル Brazil		中国 China		ブラジル Brazil		ベトナム Vietnam	
年月 Year & Month	俵 bales	単価 a unit price	俵 bales	単価 a unit price	俵 bales	単価 a unit price	俵 bales	単価 a unit price	俵 bales	単価 a unit price
暦年 Calendar Year										
1999	27,446	2,439	14,602	3,026	11,729	2,979	6,069	3,706	2,886	3,277
2000	30,147	2,655	11,772	3,340	13,769	2,789	5,712	3,543	6,255	3,168
2001	22,018	2,824	8,339	3,713	10,303	3,149	5,130	3,790	6,607	3,688
2002	24,521	2,241	7,909	3,192	13,256	2,556	6,097	3,299	7,122	3,053
2003	24,074	1,988	7,260	2,436	17,408	2,182	6,223	2,740	7,167	2,499
2004	18,016	2,435	7,387	3,631	13,280	2,576	7,444	3,038	7,076	2,624
2005	17,327	2,638	5,308	2,903	18,977	3,105	5,767	3,301	7,550	2,933
2006	14,739	3,736	6,181	4,188	17,019	4,172	5,675	4,543	8,706	3,643
2007	8,793	3,321	3,846	3,778	11,726	3,586	2,930	4,305	4,744	3,972
2008	12,190	3,104	4,153	3,490	12,513	3,361	3,204	3,989	6,865	3,220
2009	8,169	2,740	3,855	3,059	9,655	2,840	1,742	3,611	5,096	3,034
2010	8,411	3,667	3,705	3,773	9,675	3,730	1,706	4,161	4,694	3,411
2011	7,170	4,570	2,136	4,704	10,384	4,724	1,762	5,425	5,139	4,395
2010 - 9	892	3,696	282	3,866	811	3,760	121	4,405	302	3,517
10	670	3,834	400	3,620	754	3,928	132	4,317	366	3,507
11	843	3,983	234	3,650	790	3,984	81	4,161	526	3,478
12	651	4,225	572	3,906	877	4,277	141	4,503	465	3,918
2011 - 1	1,168	4,370	274	4,055	1,108	4,372	139	4,519	543	3,901
2	521	4,626	72	4,293	559	4,578	110	4,465	312	3,890
3	1,052	4,729	321	4,196	1,244	4,723	134	4,882	467	4,031
4	316	4,661	56	4,604	1,124	4,846	99	4,972	448	4,260
5	1,082	4,767	198	4,505	1,151	4,946	109	5,022	468	4,040
6	416	4,792	344	4,510	906	4,967	197	5,412	628	4,579
7	389	4,893	100	5,918	910	4,990	155	5,741	432	4,726
8	292	4,570	254	4,964	730	4,922	225	5,591	473	4,710
9	421	4,483	0	-	745	4,665	51	5,991	543	4,792
10	491	4,174	272	5,310	542	4,735	283	5,833	309	4,655
11	325	4,199	225	5,209	673	4,432	232	6,027	297	4,681
12	697	4,469	20	5,492	692	4,309	28	6,313	219	4,560
2012 - 1	1,149	4,180	36	5,260	1,075	4,131	80	5,958	353	4,345

資料：財務省調査。通関統計による、単価はC I F価格である。

Source : The customs Bureau, Ministry of Finance

Remarks : A unit price is CIF price.

## (21) 絹織物生産数量

## Production of Silk Fabrics

(単位：1,000㎡)  
(Unit: 1,000sq. meters)

品 種 Type of Fabrics	総 数 Grand Total	絹・絹紡織物 Silk and Spun Silk Fabrics								
		広巾織物 Double Width				小巾織物 Single Width			その他の 後練(後染) Other Piece Dyed Silk Fabrics	
		計 Total	羽二重類 Habutae	クレープ類 Crepe	先練 (先染) Dyed Yarn	計 Total	ちりめん類 Silk crape	先練 (先染) Dyed Yarn		
年月 Year & Month	暦 年 Calendar Year									
	2006	18,507	6,105	2,732	1,727	1,646	9,311	5,966	3,345	3,090
	2007	15,466	5,215	2,276	1,547	1,392	7,709	4,671	3,038	2,542
	2008	14,043	4,887	2,061	1,419	1,407	6,929	4,263	2,666	2,228
	2009	11,472	3,733	1,445	1,205	1,083	6,094	3,966	2,128	1,645
	2010	11,659	3,790	1,471	1,224	1,095	6,201	4,034	2,167	1,668
	2011	10,318	3,941	2,486	184	1,257	4,396	1,796	2,590	1,982
	2010 — 11	1,004	326	127	105	94	534	347	187	144
	12	966	314	122	101	91	514	334	180	138
	2011 — 1	814	311	196	15	99	347	142	205	156
	2	873	333	210	16	106	372	152	219	168
	3	902	345	217	16	110	384	157	226	173
	4	989	378	238	18	121	421	172	248	190
	5	840	321	202	15	102	358	146	211	161
	6	911	348	220	16	111	388	159	229	175
	7	834	318	201	15	102	355	145	209	160
	8	778	297	188	14	95	332	135	195	150
	9	788	301	190	14	96	336	137	198	151
	10	821	314	198	15	100	350	143	206	158
	11	879	336	212	14	107	374	153	221	169
	12	889	339	214	16	108	379	155	223	171
	2012 — 1	798	305	192	14	97	340	139	200	153

資 料：(社)日本絹人織織物工業会。

備 考：絹紡と交織を含む。単位以下四捨五入。

Source : Japan Silk &amp; Rayon Weaver' s Association.

Remarks : Spun and mixed fabrics included .

Fractions of 0.5 and over counted as a whole number and the rest disregarded.

## (22) 丹後・長浜・西陣の絹織物生産数量

## Production of Silk Fabrics in Tango , Nagahama and Nishijin

項目 Item	絹織物生産数量 Silk Fabrics Production		丹後 Tango (白生地) (White Fabrics)		長浜 Nagahama (白生地) (White Fabrics)		西陣 Nishijin (帯) (Sash)	
	数量 Quantity (千㎡) (1,000㎡)	前年(月)比 Ratio to previous year	生産数量 Production (反) (Roll)	前年(月)比 Ratio to previous year	生産数量 Production (反) (Roll)	前年(月)比 Ratio to previous year	推定出荷数量 Estimated Shipments (本)	前年(月)比 Ratio to previous year
	年 月 Year & Month							
暦 年 Calendar Year								
2005	19,816	90.3	1,058,571	94.5	170,061	89.8	691,780	88.7
2006	18,507	90.6	912,027	86.2	132,448	77.9	598,040	86.4
2007	15,466	83.6	712,560	78.1	97,204	73.4	977,719	163.5
2008	14,043	90.8	656,919	92.2	88,401	90.9	867,490	88.7
2009	11,472	81.7	503,365	76.6	73,681	83.3	746,538	86.1
2010	11,659	101.6	515,721	102.5	80,701	109.5	859,244	115.1
2011	10,319	88.5	475,989	92.3	70,803	87.7	692,943	80.6
2009 —								
3	999	77.9	43,968	67.2	6,664	83.7	70,816	90.2
4	987	82.2	43,957	76.6	6,766	85.0	70,733	95.1
5	935	77.8	39,715	71.2	5,162	80.9	49,997	86.9
6	1,009	79.9	45,800	69.5	6,492	69.4	59,496	103.4
7	958	80.9	40,343	75.2	6,448	85.4	62,673	73.8
8	853	83.0	37,632	80.5	5,642	106.4	42,766	64.2
9	963	83.3	44,281	80.7	6,077	81.9	53,568	53.4
10	944	84.1	40,356	80.7	6,027	77.1	57,802	93.0
11	978	86.8	47,618	89.2	6,920	86.8	66,104	94.5
12	937	86.9	43,241	88.1	6,061	102.9	61,841	111.2
2010 —								
1	834	95.2	31,911	114.2	5,989	110.3	64,521	91.9
2	939	90.9	46,194	95.2	6,366	106.2	68,288	85.2
3	965	96.6	43,859	99.8	7,813	117.2	75,704	106.9
4	997	101.0	44,458	101.1	7,506	110.9	86,802	122.7
5	981	104.9	42,508	107.0	6,642	128.7	70,454	140.9
6	1,103	109.3	44,160	96.4	7,316	112.7	72,395	121.7
7	1,014	105.8	44,163	109.5	7,146	110.8	63,858	101.9
8	901	105.6	39,856	105.9	7,022	124.4	60,415	141.3
9	962	99.9	41,925	94.7	6,925	114.0	64,965	121.3
10	995	105.4	46,366	114.9	5,807	96.3	78,060	135.0
11	1,004	102.7	45,283	95.1	6,553	94.7	68,940	104.3
12	966	103.1	45,018	104.1	5,616	92.7	68,067	110.1
2011 —								
1	814	97.6	32,734	102.6	5,452	91.0	61,927	96.0
2	873	93.0	42,369	91.7	6,027	94.7	60,552	88.7
3	902	93.5	41,784	95.3	6,898	88.3	56,128	74.1
4	989	99.2	44,774	100.7	6,507	86.7	59,998	69.1
5	840	85.6	39,714	93.4	6,096	91.8	62,562	88.8
6	911	82.6	41,785	94.6	6,072	83.0	60,832	84.0
7	834	82.2	43,509	98.5	5,399	75.6	53,800	84.2
8	779	86.5	34,386	86.3	6,064	86.4	49,057	81.2
9	788	81.9	38,639	92.2	5,394	75.0	61,501	94.7
10	821	82.5	39,116	84.4	5,589	90.8	51,586	66.1
11	879	87.5	37,346	82.5	5,929	85.5	62,567	90.8
12	889	92.0	39,833	88.5	5,376	95.7	52,433	77.0
2012 —								
1	798	98.0	29,890	91.3	4,787	87.8	51,823	84.0

資 料：絹織物生産数量は(社)日本絹人織織物工業会調査。主要3産地の生産量、出荷数量は社団法人日本生糸関係協会調査。

備 考：2006年1月以降の西陣の帯生産数量には、帯裏地等を含む。

Source : Japan Silk & Rayon Weaver's Association and Japan Raw Silk Dealer's Association.

Remarks : Since Jan. 2006, sash livings are included in sash production.

## (23) 全国全世帯被服類品目別消費支出状況

## Consumption Expenditures of Total Households

項目 Item	消費支出総額 Total		被服及び履物 Clothing&footwear		和服 Japanese clothing		洋服 Clothing		シャツ・セーター Shirts &sweaters		下着類 Underwear	
	(円) Yen	前年比 (%)	(円) Yen	前年比 (%)	(円) Yen	前年比 (%)	(円) Yen	前年比 (%)	(円) Yen	前年比 (%)	(円) Yen	前年比 (%)
年月 Year & Month												
暦年Calendar Year												
2004	304,203	0.5	13,572	▲ 2.8	559	10.5	5,257	▲ 3.5	2,936	0.9	1,213	▲ 4.7
2005	300,903	▲ 1.1	13,440	▲ 1.0	440	▲ 7.8	5,122	▲ 2.6	2,911	▲ 0.9	1,260	3.9
2006	294,943	▲ 2.0	12,776	▲ 1.0	342	▲ 7.8	5,007	▲ 2.6	2,694	▲ 0.9	1,184	3.9
2007	297,782	1.0	12,933	1.2	345	0.9	5,066	1.2	2,727	1.2	1,164	▲ 1.7
2008	296,932	▲ 0.3	12,523	▲ 3.2	299	▲ 13.3	4,890	▲ 3.5	2,598	▲ 4.7	1,133	▲ 2.7
2009	291,737	▲ 0.2	11,994	▲ 3.3	261	▲ 12.0	4,622	▲ 4.2	2,468	▲ 4.0	1,098	▲ 2.9
2010	290,244	0.3	11,499	▲ 2.9	245	▲ 6.0	4,459	▲ 2.3	2,353	▲ 3.8	1,069	▲ 1.0
2011	282,955	▲ 2.5	11,381	▲ 1.0	270	10.0	4,273	▲ 4.2	2,425	3.1	1,100	2.9
2010 - 1	291,918	1.7	12,997	▲ 3.7	102	▲ 69.3	5,969	▲ 3.4	2,383	▲ 6.2	1,045	2.4
2	261,918	▲ 0.5	9,325	6.1	440	167.8	4,012	4.9	1,678	0.1	717	3.4
3	319,991	4.4	13,147	▲ 1.1	235	▲ 55.3	6,289	1.3	2,116	4.9	860	3.2
4	299,996	▲ 0.7	10,703	▲ 13.1	116	▲ 67.9	4,110	▲ 8.2	2,123	▲ 12.3	817	▲ 14.7
5	280,714	▲ 0.7	12,049	▲ 2.7	124	▲ 31.6	4,097	▲ 5.7	2,834	4.1	1,079	4.0
6	276,494	0.5	11,514	▲ 0.9	77	▲ 34.5	3,902	1.2	2,746	▲ 4.8	1,112	▲ 0.9
7	285,274	1.1	12,273	4.4	755	261.6	3,878	1.2	3,022	0.3	1,266	▲ 0.8
8	293,361	1.7	8,718	▲ 1.0	174	▲ 52.6	2,946	5.0	2,094	▲ 3.3	960	7.5
9	275,367	0.0	9,165	▲ 4.1	395	84.4	3,074	▲ 5.9	1,915	▲ 9.4	916	0.4
10	287,433	▲ 0.4	12,763	5.1	238	215.7	5,000	7.5	2,642	▲ 0.9	1,305	9.3
11	284,212	▲ 0.4	12,530	▲ 7.8	221	▲ 6.7	5,025	▲ 9.6	2,385	▲ 3.4	1,310	▲ 5.1
12	327,006	▲ 3.3	12,802	▲ 11.3	69	▲ 79.9	5,205	▲ 9.5	2,280	▲ 13.2	1,435	▲ 12.8
2011 - 1	289,191	▲ 0.3	12,521	▲ 3.7	120	17.2	5,405	▲ 8.1	2,749	6.1	1,135	9.3
2	260,793	0.5	8,720	▲ 6.7	282	▲ 36.0	3,802	▲ 5.0	1,445	▲ 12.3	735	2.5
3	291,900	▲ 8.2	11,013	▲ 16.0	451	92.1	5,014	▲ 19.8	1,772	▲ 15.4	773	▲ 10.2
4	292,559	▲ 2.0	11,212	5.0	92	▲ 20.2	4,183	2.3	2,398	14.0	900	10.0
5	276,159	▲ 1.2	11,906	▲ 0.7	49	▲ 60.7	4,099	0.4	2,789	▲ 1.1	1,158	7.6
6	265,807	▲ 3.5	11,384	▲ 0.6	113	44.8	3,620	▲ 7.0	2,907	5.5	1,234	11.8
7	280,046	▲ 2.1	12,078	▲ 1.9	281	▲ 63.3	4,068	4.0	3,103	1.9	1,329	6.1
8	282,008	▲ 4.1	8,921	1.8	456	159.0	2,693	▲ 9.6	2,059	▲ 2.8	943	▲ 0.5
9	270,010	▲ 1.9	8,709	▲ 5.0	221	▲ 44.4	2,966	▲ 3.7	1,895	▲ 1.6	863	▲ 5.1
10	285,605	▲ 0.4	13,099	2.3	625	161.8	5,023	▲ 0.2	2,790	4.8	1,201	▲ 7.4
11	273,428	▲ 3.2	13,230	5.6	490	122.6	5,026	0.1	2,649	10.0	1,280	▲ 1.1
12	327,949	0.5	13,777	7.6	54	▲ 21.5	5,378	3.2	2,543	10.7	1,645	15.9
2012 - 1	283,118	▲ 2.3	13,163	4.4	270	124.8	5,502	1.0	2,674	5.5	1,138	0.4
2	267,895	2.3	8,830	0.5	380	34.9	3,711	▲ 3.4	1,546	4.7	734	0.6

資料：総務省統計局「家計調査報告」。2人以上で構成される8,000世帯を集計。

備考：「被服及び履物」は右に並ぶ内訳4項目以外の費目も含む。年数値は月平均。

Source: Family Income and Expenditure Survey by Statistics Bureau, MIC.

Added up 8,000 two-or-more-person households.

Remarks: Clothing&amp;footwear includes Japanese clothing, clothing, shirts&amp;sweaters and other items.

Year value is mean of the each month

— 資料・海外 —

(1)世界主要国の家蚕繭生産数量

Domesticated Silkworm Cocoon Production in Major Countries

区 分		2005年	2006年	2007年
日本	Japan	トン 626	トン 505	トン 433
中国	China	621,461	739,715	779,261
インド	India	126,261	135,462	132,038
ベトナム	Vietnam	21,000	21,000	21,000
ブラジル	Brazil	7,146	8,051	8,617
タイ	Thailand	10,650	10,100	1,785
ウズベキスタン	Uzbekistan	20,000	20,000	20,000
イラン	Iran	2,543	2,104	1,665
トルコ	Turkey	170	350	130
インドネシア	Indonesia	691	339	470
ブルガリア	Bulgaria	42	65	55
ギリシャ	Greece	70	100	104
フィリピン	Philippines	14.4	16	9
シリア	Syria	5.5	3	2.5
主要国の計	Total	810,680	937,810	965,570

区 分		2008年	2009年	2010年
日本	Japan	トン 382	トン 327	トン 265
中国	China	683,387	575,299	617,915
インド	India	124,834	131,661	131,924
ベトナム	Vietnam	21,000	21,000	21,000
ブラジル	Brazil	6,266	4,835	4,439
タイ	Thailand	7,700	4,655	4,655
ウズベキスタン	Uzbekistan	25,760	25,896	20,000
イラン	Iran	1,185	1,185	1,185
トルコ	Turkey	126	140	140
インドネシア	Indonesia	273	133	161
ブルガリア	Bulgaria	48	51	75
ギリシャ	Greece	100	100	100
フィリピン	Philippines	6	4	4
シリア	Syria	3	4	4
主要国の計	Total	871,070	765,290	801,867

注1 日本は農林水産省生産局、中国は中国絲綢(シルク)協会、インドはインド繊維省中央蚕糸局(CSB)、ブラジルはブラジル製糸協会(ABRASSEDA)の統計値をそれぞれ使用、それ以外の国は国際養蚕委員会(ISC)の統計値を使用した。

注2 シェアの大きいベトナムは、2005年以降を不明年の前年と同数量の数値とした。

Note:1 Figures of Japan are based on the data of the Agricultural Production Bureau, MAFF.

Figures of China are based on the data of the China Silk Association.

Figures of India are based on the data of the Central Silk Board (CSB), Ministry of Textiles in India.

Figures of Brazil are based on the data of the Brazil Filature Association (ABRASSEDA).

Others than these countries, based on the data of International Sericulture Commission (ISC).

2 As the figures of Vietnam (since 2004) is not reported, that is taken as the same amount as previous year because that constitute high proportion of total.

## (2)世界主要国の家蚕生糸生産数量

Domesticated Raw Silk Production in Major Countries

区 分		2005年		2006年		2007年	
		トン	俵	トン	俵	トン	俵
日本	Japan	151	2,500	119	2,000	105	1,800
中国	China	87,761	1,462,700	93,105	1,552,000	108,420	1,807,000
インド	India	15,445	257,400	16,525	275,400	16,245	270,800
ベトナム	Vietnam	2,250	37,500	2,250	37,500	2,250	37,500
ブラジル	Brazil	1,285	21,400	1,387	23,100	1,220	20,300
タイ	Thailand	1,420	23,700	1,080	18,000	760	12,700
ウズベキスタン	Uzbekistan	1,100	18,300	1,100	18,300	1,100	18,300
イラン	Iran	395	6,600	324	5,400	253	4,200
トルコ	Turkey	30	500	25	400	20	300
インドネシア	Indonesia	91	1,500	47	800	65	1,100
ブルガリア	Bulgaria	6	100	5	100	7.5	100
ギリシャ	Greece	4	100	4	100	4	100
フィリピン	Philippines	1.1	0	1.6	0	1	0
シリア	Syria	0.7	0	0.5	0	0	0
主要国の計	Total	109,940	1,832,300	115,973	1,933,100	130,451	2,174,200

区 分		2008年		2009年		2010年	
		トン	俵	トン	俵	トン	俵
日本	Japan	95	1,600	69	1,200	53	900
中国	China	98,620	1,643,700	92,455	1,540,900	95,778	1,596,300
インド	India	15,610	260,200	16,322	272,000	16,360	272,700
ベトナム	Vietnam	2,250	37,500	2,250	37,500	2,250	37,500
ブラジル	Brazil	1,177	19,600	811	13,500	770	12,800
タイ	Thailand	1,100	18,300	665	11,100	665	11,100
ウズベキスタン	Uzbekistan	1,417	23,600	2,447	40,800	2,100	35,000
イラン	Iran	180	3,000	180	3,000	180	3,000
トルコ	Turkey	15	300	20	300	20	300
インドネシア	Indonesia	37	600	19	300	20	300
ブルガリア	Bulgaria	7.5	100	6.3	100	9.4	160
ギリシャ	Greece	4	100	4	100	4	100
フィリピン	Philippines	1	0	1	0	1	0
シリア	Syria	0.4	0	0.6	0	0.6	0
主要国の計	Total	120,514	2,008,600	115,250	1,920,800	118,211	1,970,160

注1 日本は農林水産省生産局、中国は中国絲綢(シルク)協会、インドはインド織維省中央蚕糸局(CSB)、ブラジルはブラジル製糸協会(ABRASSEDA)の統計値をそれぞれ使用、それ以外の国は国際養蚕委員会(ISC)の統計値を使用した。

注2 シェアの大きいベトナムは、2005年以降を不明年の前年と同数量の数値とした。

Note:1 Figures of Japan are based on the data of the Agricultural Production Bureau, MAFF.

Figures of China are based on the data of the China Silk Association.

Figures of India are based on the data of the Central Silk Board (CSB), Ministry of Textiles in India.

Figures of Brazil are based on the data of the Brazil Filature Association (ABRASSEDA).

Others than these countries, based on the data of International Sericulture Commission (ISC).

2 As the figures of Vietnam (since 2004) is not reported, that is taken as the same amount as previous year because that constitute high proportion of total.

### (3)中国省別家蚕繭生産数量・生糸生産数量・製糸工場数

Domesticated Cocoon Production, Raw Silk Production, and Number of Filatures in China

省 Province	区分	家蚕繭生産量 Domesticated Cocoon Production (トン、%)(MT, %)			生糸生産量 Raw silk Production (トン、%)(MT, %)		
		2008	2009	対前年比 2009/08	2008	2009	対前年比 2009/08
山 西	Shanxi	6,033	4,046	67	64	266	416
河 北	Hebei	1,000	1,200	120	-	-	-
江 蘇	Jiangsu	95,476	73,175	77	20,450	17,800	87
浙 江	Zhejiang	64,319	45,600	71	17,950	15,000	84
安 徽	Anhui	33,400	24,800	74	5,500	5,200	95
江 西	Jiangxi	10,015	7,602	76	2,570	2,900	113
山 東	Shandong	34,530	23,900	69	5,530	5,800	105
河 南	Henan	11,641	10,101	87	2,800	2,100	75
湖 北	Hubei	21,200	17,150	81	332	555	167
湖 南	Hunan	4,300	3,182	74	58	104	179
広 東	Guangdong	70,693	53,321	75	1,513	1,722	114
広 西	Guangxi	170,900	172,900	101	14,069	16,237	115
重 慶	Chongqing	22,110	17,311	78	5,497	4,200	76
四 川	Sichuan	68,576	70,000	102	16,400	14,900	91
貴 州	Guizhou	3,626	2,751	76	23	105	457
雲 南	Yunnan	40,348	30,230	75	2,871	2,237	78
陝 西	Shaanxi	23,800	17,200	72	2,868	3,263	114
甘 肅	Gansu	420	253	60	-	-	-
寧 夏	Ningxia	520	126	24	30	-	-
新 疆	Xinjiang	480	450	94	30	-	-
内 蒙 古	Inner Mongolia	-	-	-	65	66	102
合 計	Total	683,387	575,298	84	98,620	92,455	94

製糸工場数 (件) Number of Filatures		
2006	2008	前年比 2008/06
702	682	97

資料：中国絲綢協会資料による

注：合計はラウンドの関係で一致していない。

Source: China Silk Association

Note: Total may not add up due to round off.

#### (4) 中国省別家蚕繭生産数量の推移

Domesticated Cocoon Production in China (1998年～2009年)

(単位：万トン)(Unit: 10,000ton)

地域	Area	1998年	1999年	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	前年比 09/08(%)
北 京	Beijing													
天 津	Tianjin													
河 北	Hebei	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1				0.1	0.1	0.1	100.0
山 西	Shanxi	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.3	0.4	0.6	0.6	0.6	0.4	66.7
内 蒙 古	Inner Mongolia													
遼 寧	Liaoning													
吉 林	Jilin													
黒 龍 江	Heilongjiang													
上 海	Shanghai							0.0	0.0					
江 蘇	Jiangsu	8.5	8.2	9.0	10.1	11.9	10.7	11.1	10.1	11.8	10.4	9.5	7.3	76.8
浙 江	Zhejiang	10.4	9.4	9.5	11.0	9.9	7.9	7.6	7.5	8.5	8.4	6.4	4.6	71.9
安 徽	Anhui	2.5	2.1	2.5	2.7	2.8	2.6	2.7	3.4	3.8	3.8	3.3	2.5	75.8
福 建	Fujian													
江 西	Jiangxi	0.4	0.3	0.3	0.5	0.7	0.8	1.0	1.1	1.2	1.2	1.0	0.8	80.0
山 東	Shandong	4.2	4.2	5.3	6.9	6.9	6.7	3.5	3.7	4.0	4.0	3.5	2.4	68.6
河 南	Henan	0.6	1.2	1.3	1.5	1.7	1.1	0.7	0.9	1.3	1.4	1.2	1.0	83.3
湖 北	Hubei	1.4	1.4	1.2	1.2	1.3	1.2	1.1	1.4	1.6	1.6	2.1	1.7	81.0
湖 南	Hunan	0.1			0.1	0.1	0.2	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.3	75.0
広 東	Guangdong	2.1	2.3	3.1	4.5	5.3	5.2	2.7	3.4	6.9	8.1	7.1	5.4	76.1
広 西	Guangxi	1.8	1.9	3.0	5.6	7.4	8.7	9.2	14.8	18.5	20.5	17.1	17.3	101.2
海 南	Hainan													
重 慶	Chongqing	2.9	2.4	3.0	3.2	3.4	2.8	2.6	3.1	2.4	2.5	2.2	1.7	77.3
四 川	Sichuan	9.3	8.1	8.7	9.2	9.3	9.3	8.3	7.8	7.8	8.4	6.9	7.0	101.4
貴 州	Guizhou	0.2	0.2	0.1	0.2	0.2	0.1	0.2	0.1	0.1	0.2	0.4	0.3	75.0
雲 南	Yunnan	0.7	0.7	0.7	0.9	1.1	1.3	1.9	2.0	3.1	3.7	4.0	3.0	75.0
チベット	Tibet													
陝 西	Shaanxi	1.6	1.5	1.5	1.6	1.7	1.9	1.6	2.0	1.8	2.5	2.4	1.7	70.8
甘 肅	Gansu							0.1	0.1	0.1	0.1	0.0	0.0	
青 海	Qinghai													
寧 夏	Ningxia							0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	
新 疆	Xinjiang	0.4	0.3	0.3	0.3	0.2	0.1	0.1	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	
合 計	Total	47.5	44.7	50.1	60.2	64.5	61.1	55.0	62.2	73.9	77.9	68.3	57.5	84.2

資料：2003年までは中国国家统计局「中国統計年鑑」、2004年以降は中国絲綢協会資料による。

合計はラウンドの関係で一致していない。

Source: Until 2003, "China Statistical Yearbook" National Bureau of Statistics of China

Since 2004, China Silk Association

Note: Total may not add up due to round off.

## (5) 中国のシルク類（生糸・絹糸・絹織物）の輸出状況

中国のシルク類の輸出状況  
Silk Exports of China  
(2011年1月～12月)

相手国	Country	生糸(柞蚕糸、野蚕糸を含む) Raw Silk (tussah silk and wild raw silk included)			
		数量 Quantity (Kg)		金額 Amount (百万USDドル) (USD1,000,000)	
		2011年実績	11/10(%)	2011年実績	11/10(%)
1 インド	India	4,114,330	77.39	209,055	99.41
2 ルーマニア	Romania	728,603	143.27	38,055	188.12
3 ベトナム	Vietnam	624,467	90.79	30,709	111.16
4 韓国	South Korea	466,392	88.91	24,529	115.70
5 日本	Japan	402,960	83.31	22,568	111.16
6 イタリア	Italy	312,007	89.72	17,274	116.30
7 バングラデッシュ	Bangladesh	88,325	52.99	4,362	70.01
8 ミャンマー	Myanmar	82,273	104.43	4,205	138.86
9 ブラジル	Brazil	44,245	100.00	2,354	100.00
10 パキスタン	Pakistan	40,709	47.66	1,967	62.88
11 その他	Others	217,448	70.29	11,646	97.37
合計	Total	7,121,759	83.70	366,724	108.23

中国のシルク類の輸出状況  
Silk Exports of China  
(2012年1月～2月)

相手国	Country	生糸(柞蚕糸、野蚕糸を含む) Raw Silk (tussah silk and wild raw silk included)			
		数量 Quantity (Kg)		金額 Amount (百万USDドル) (USD1,000,000)	
		2012年実績	12/11(%)	2012年実績	12/11(%)
1 インド	India	812,265	108.16	36,412	91.49
2 ルーマニア	Romania	122,249	144.46	6,036	143.98
3 日本	Japan	80,006	96.15	4,306	95.69
4 韓国	South Korea	76,237	97.72	3,619	86.53
5 ベトナム	Vietnam	51,994	51.17	2,297	45.20
6 イタリア	Italy	38,045	78.32	1,921	71.85
7 バングラデッシュ	Bangladesh	30,977	245.11	1,303	194.06
8 ミャンマー	Myanmar	19,270	162.79	0,845	134.56
9 パラグアイ	Paraguay	8,064	—	0,427	—
10 ブルガリア	Bulgaria	7,877	—	0,396	—
11 その他	Others	12,662	35.92	0,598	31.82
合計	Total	1,259,646	104.39	58,162	91.43

相手国	Country	絹糸 Spun Silk Yarn			
		数量 Quantity (Kg)		金額 Amount (百万USDドル) (USD1,000,000)	
		2011年実績	11/10(%)	2011年実績	11/10(%)
1 インド	India	869,361	51.22	44,614	65.61
2 日本	Japan	653,654	103.35	37,423	139.39
3 イタリア	Italy	531,110	99.37	30,546	133.79
4 パキスタン	Pakistan	269,373	56.51	14,021	71.53
5 ドイツ	Germany	200,792	99.30	10,260	136.17
6 韓国	South Korea	182,339	96.21	9,758	124.35
7 タイ	Thailand	135,954	90.15	7,874	123.34
8 インドネシア	Indonesia	94,087	108.31	4,865	144.63
9 マレーシア	Malaysia	33,138	60.02	1,702	76.47
10 ベトナム	Vietnam	31,400	95.95	1,603	106.34
11 その他	Others	182,519	58.21	8,392	87.15
合計	Total	3,183,727	72.82	171,058	97.32

相手国	Country	絹糸 Spun Silk Yarn			
		数量 Quantity (Kg)		金額 Amount (百万USDドル) (USD1,000,000)	
		2012年実績	12/11(%)	2012年実績	12/11(%)
1 インド	India	114,063	67.30	4,944	55.05
2 日本	Japan	88,862	88.85	4,680	88.83
3 イタリア	Italy	45,013	42.02	2,340	40.27
4 ドイツ	Germany	36,974	250.59	1,897	279.19
5 パキスタン	Pakistan	32,994	120.96	1,570	109.66
6 韓国	South Korea	24,395	99.43	1,234	96.14
7 ベトナム	Vietnam	19,822	310.25	0,945	325.05
8 タイ	Thailand	14,871	89.84	0,736	82.21
9 インドネシア	Indonesia	13,436	259.73	0,620	240.00
10 リビア	Libya	5,240	—	0,390	—
11 その他	Others	14,153	59.19	0,703	69.22
合計	Total	409,823	82.75	20,059	77.41

相手国	Country	絹織物 Silk Fabrics			
		数量 Quantity (メートル)(meter)		金額 Amount (百万USDドル) (USD1,000,000)	
		2011年実績	11/10(%)	2011年実績	11/10(%)
1 パキスタン	Pakistan	49,142,622	93.07	162,071	121.71
2 イタリア	Italy	33,520,431	67.64	185,559	106.99
3 インド	India	32,139,948	56.67	144,785	74.37
4 韓国	South Korea	14,649,985	85.76	101,387	112.05
5 香港	Hong Kong	13,900,523	89.56	83,993	119.62
6 日本	Japan	10,567,943	90.72	46,593	116.75
7 アラブ首長国連邦	United Arab Emirates	7,508,512	88.65	37,343	119.20
8 マレーシア	Malaysia	6,361,626	81.22	37,976	99.90
9 米国	United States	6,247,924	103.71	44,198	125.30
10 チュニジア	Tunisia	6,132,107	115.84	11,006	140.29
11 その他	Others	37,726,968	87.92	203,149	114.01
合計	Total	217,898,589	79.57	1,058,060	106.60

相手国	Country	絹織物 Silk Fabrics			
		数量 Quantity (メートル)(meter)		金額 Amount (百万USDドル) (USD1,000,000)	
		2012年実績	12/11(%)	2012年実績	12/11(%)
1 パキスタン	Pakistan	5,230,921	94.26	19,219	113.65
2 イタリア	Italy	4,353,064	68.94	25,806	93.43
3 インド	India	3,174,868	63.48	14,351	69.11
4 香港	Hong Kong	1,889,179	114.56	13,446	134.95
5 韓国	South Korea	1,847,986	101.64	11,999	120.87
6 日本	Japan	1,388,870	75.65	6,298	82.73
7 マレーシア	Malaysia	1,003,878	86.45	5,361	74.80
8 アラブ首長国連邦	United Arab Emirates	968,210	77.28	5,340	100.97
9 米国	United States	917,238	102.52	6,813	120.13
10 トルコ	Turkey	665,474	75.56	3,506	84.13
11 その他	Others	4,649,196	78.68	23,653	84.58
合計	Total	26,088,884	80.85	135,791	94.92

資料: 中国税関  
Source: Customs General Administration in China

資料: 中国税関  
Source: Customs General Administration in China

## (6) 中国企業別従業員年間賃金総額及び対前年増減率

### Total Wage Bill of Employed Persons in Urban Units and Related Indices

年次 Year	賃金総額 (億元) Wage Bill (100million yuan)				対前年増減率 (%) Indices (preceding year=100)			
	全体 Total	国有企業 State-owned Units	集団企業 Urban Collective-owned Units	その他企業 Units of Other Types of Ownership	全体 Total	国有企業 State-owned Units	集団企業 Urban Collective-owned Units	その他企業 Units of Other Types of Ownership
1995年	8,255.8	6,172.6	1,210.6	672.7	21.8	17.4	15.6	42.2
1996年	9,249.4	6,893.3	1,269.4	801.7	12.0	11.7	4.9	19.2
1997年	9,602.4	7,323.9	1,283.9	994.5	3.8	6.2	1.1	24.0
1998年	9,540.2	6,934.6	1,054.9	1,550.7	▲ 0.6	▲ 5.3	▲ 17.8	55.9
1999年	10,155.9	7,289.9	995.8	1,870.1	6.5	5.1	▲ 5.6	20.6
2000年	10,954.7	7,744.9	950.7	2,259.1	7.9	6.2	▲ 4.5	20.8
2001年	12,205.4	8,515.2	898.5	2,791.7	11.4	9.9	▲ 5.5	23.6
2002年	13,638.1	9,138.0	863.9	3,636.2	11.7	7.3	▲ 3.9	30.3
2003年	15,329.6	9,911.9	867.1	4,550.6	12.4	8.5	0.4	25.1
2004年	17,615.0	11,038.2	876.2	5,700.6	14.9	11.4	1.0	25.3
2005年	20,627.1	12,291.7	906.4	7,429.0	17.1	11.4	3.4	30.3
2006年	24,262.3	13,920.6	983.8	9,357.9	17.6	13.3	8.5	26.0
2007年	29,471.5	16,689.1	1,108.1	11,674.3	21.5	19.9	12.6	24.8
2008年	35,289.5	19,487.9	1,203.2	14,598.4	19.7	16.8	8.6	25.0
2009年	40,288.2	21,862.7	1,273.3	17,152.1	14.2	12.2	5.8	17.5
2010年	47,269.9	24,886.0	1,433.7	20,949.7	17.3	13.8	12.6	22.1

資料：中国統計年鑑(2011)

Source: China Statistical Yearbook 2011

## (7) 中国企業別従業員年間平均賃金及びその対前年増減率

Average Wage of Employed Persons in Urban Units and Related Indices

年次 Year	年平均賃金 (元) Average Wage (yuan)				対前年増減率 (%) Indices (preceding year=100)							
					名目賃金 Average Wage				実質賃金 Average Real Wage			
	全体 Total	国有企業 State-owned Units	集団企業 Urban Collective- owned Units	その他企業 Units of Other Types of Ownership	全体 Total	国有企業 State-owned Units	集団企業 Urban Collective- owned Units	その他企業 Units of Other Types of Ownership	全体 Total	国有企業 State-owned Units	集団企業 Urban Collective- owned Units	その他企業 Units of Other Types of Ownership
1995年	5,348	5,553	3,934	7,728	18.9	17.3	21.1	19.9	1.8	0.4	3.7	2.6
1996年	5,980	6,207	4,312	8,521	11.8	11.8	9.6	10.3	2.8	2.7	0.7	1.3
1997年	6,444	6,679	4,516	9,092	7.8	7.6	4.7	6.7	4.5	4.4	1.6	3.5
1998年	7,446	7,579	5,314	9,241	15.5	13.5	17.7	1.6	16.2	14.2	18.4	2.3
1999年	8,319	8,443	5,758	10,142	11.7	11.4	8.4	9.8	13.2	12.9	9.8	11.2
2000年	9,333	9,441	6,241	11,238	12.2	11.8	8.4	10.8	11.3	10.9	7.5	9.9
2001年	10,834	11,045	6,851	12,437	16.1	17.0	9.8	10.7	15.3	16.2	9.0	9.9
2002年	12,373	12,701	7,636	13,486	14.2	15.0	11.5	8.4	15.4	16.2	12.6	9.5
2003年	13,969	14,358	8,627	14,843	12.9	13.0	13.0	10.1	11.9	12.0	12.0	9.1
2004年	15,920	16,445	9,723	16,519	14.0	14.5	12.7	11.3	10.3	10.9	9.1	7.7
2005年	18,200	18,978	11,176	18,362	14.3	15.4	14.9	11.2	12.5	13.6	13.1	9.4
2006年	20,856	21,706	12,866	21,004	14.6	14.4	15.1	14.4	12.9	12.7	13.4	12.7
2007年	24,721	26,100	15,444	24,271	18.5	20.2	20.0	15.6	13.4	15.0	14.8	10.6
2008年	28,898	30,287	18,103	28,552	16.9	16.0	17.2	17.6	10.7	9.8	11.0	11.4
2009年	32,244	34,130	20,607	31,350	11.6	12.7	13.8	9.8	12.6	13.7	14.8	10.8
2010年	36,539	38,359	24,010	35,801	13.3	12.4	16.5	14.2	9.8	8.9	12.9	10.7

中国統計年鑑2011 Source: China Statistical Yearbook 2011

## (8)中国産業別従業員年平均賃金の推移

Average Wage of Employed Persons in Urban Units by Sector

(単位:元)(yuan)

産業別 Sector	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年
農、林、牧、漁業 Agriculture, Forestry, Fishery	6,884	7,498	8,207	9,269	10,847	12,560	14,356	16,717
採掘業 Mining	13,627	16,774	20,449	24,125	28,185	34,233	38,038	44,196
製造業 Manufacturing	12,671	14,251	15,934	18,225	21,144	24,404	26,810	30,916
電力、ガス、水道業 Production/Distribution of Electricity, Gas and Water	18,574	21,543	24,750	28,424	33,470	38,515	41,869	47,309
建築業 Construction	11,328	12,578	14,112	16,164	18,482	21,223	24,161	27,529
交通、運輸、倉庫、郵便業 Transport, Storage and Post	15,753	18,071	20,911	24,111	27,903	32,041	35,315	40,466
情報通信コンピューターサービス Information Transmission, Computer Service and Software	30,897	33,449	38,799	43,435	47,700	54,906	58,154	64,436
卸売、小売業 Wholesale and Retail Trades	10,894	13,012	15,256	17,796	21,074	25,818	29,139	33,635
ホテル、飲食業 Hotels and Catering Services	11,198	12,618	13,876	15,236	17,046	19,321	20,860	23,382
金融業 Financial Intermediation	20,780	24,299	29,229	35,495	44,011	53,897	60,398	70,146
不動産業 Real Estate	17,085	18,467	20,253	22,238	26,085	30,118	32,242	35,870
賃貸、リース業 Leasing and Business Services	17,020	18,723	21,233	24,510	27,807	32,915	35,494	39,566
科学研究、技術サービス業 Scientific Research, Technical Services	20,442	23,351	27,155	31,644	38,432	45,512	50,143	56,376
水利、環境管理業 Manage of Water Conservancy, Environment and Public Services	11,774	12,884	14,322	15,630	18,383	21,103	23,159	25,544
家庭サービス業 Services to Households and Other Services	12,665	13,680	15,747	18,030	20,370	22,858	25,172	28,206
教育 Education	14,189	16,085	18,259	20,918	25,908	29,831	34,543	38,968
衛生、社会保障、社会福祉業 Health, Social Securities and Entertainment	16,185	18,386	20,808	23,590	27,892	32,185	35,662	40,232
文化、スポーツ、娯楽業 Culture, Sports and Entertainment	17,098	20,522	22,670	25,847	30,430	34,158	37,755	41,428
公共機関、社会团体 Public Management and Social Organization	15,355	17,372	20,234	22,546	27,731	32,296	35,326	38,242
合計 Total	13,969	15,920	18,200	20,856	24,721	28,898	32,244	36,539

(出所)中国統計年鑑2011

Source: China Statistical Yearbook 2011

上記を円(Yen)換算

産業別 Sector	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年
製造業 Manufactur	184,236	192,389	212,560	273,375	317,160	366,060	375,340	401,908
合計 Total	203,109	214,920	242,788	312,840	370,815	433,470	451,416	475,007
年別人民元yuan/円yenレート	14.54	13.50	13.34	15.00	15.00	15.00	14.00	13.00

## (9) 中国省別従業員年平均賃金(2010年)

### Average Wage of Employed Persons Urban Units by Region

省(区)別 Region	年平均賃金(単位: 元)(yuan)	円換算(円) (yen)	対全国平均比(%) Indices(average=100)	
北 京	Beijing	65,158	847,054	178.32
天 津	Tianjin	51,489	669,357	140.92
河 北	Hebei	31,451	408,863	86.08
山 西	Shanxi	33,057	429,741	90.47
内 蒙 古	Inner Mongolia	35,211	457,743	96.37
遼 寧	Liaoning	34,437	447,681	94.25
吉 林	Jilin	29,003	377,039	79.38
黒 龍 江	Heilongjiang	27,735	360,555	75.91
上 海	Shanghai	66,115	859,495	180.94
江 蘇	Jiangsu	39,772	517,036	108.85
浙 江	Zhejiang	40,640	528,320	111.22
安 徽	Anhui	33,341	433,433	91.25
福 建	Fujian	32,340	420,420	88.51
江 西	Jiangxi	28,363	368,719	77.62
山 東	Shandong	33,321	433,173	91.19
河 南	Henan	29,819	387,647	81.61
湖 北	Hubei	31,811	413,543	87.06
湖 南	Hunan	29,670	385,710	81.20
広 東	Guangdong	40,432	525,616	110.65
広 西	Guangxi	30,673	398,749	83.95
海 南	Hainan	30,775	400,075	84.23
重 慶	Chongqing	34,727	451,451	95.04
四 川	Sichuan	32,567	423,371	89.13
貴 州	Guizhou	30,433	395,629	83.29
雲 南	Yunnan	29,195	379,535	79.90
西 蔵	Tibet	49,898	648,674	136.56
陝 西	Shaanxi	33,384	433,992	91.37
甘 肅	Gansu	29,096	378,248	79.63
青 海	Qinghai	36,121	469,573	98.86
寧 夏	Ningxia	37,166	483,158	101.72
新 疆	Xinjiang	32,003	416,039	87.59
全国平均	Average	36,539	475,007	100.00

(出所) 中国統計年鑑2011 Source: China Statistical Yearbook 2011

(注) 1元=13円 Note: 1yuan=13yen

(10)ブラジルの繭・生糸生産数量の推移  
Cocoon and Raw Silk Production in Brazil

シルク年度 Silk Year (9~8月) (Sep-Aug)	繭生産量 Cocoon Production (トン)(Ton)
1988/89	11,470
1989/90	15,829
1990/91	17,221
1991/92	17,586
1992/93	19,134
1993/94	18,260
1994/95	16,260
1995/96	15,368 (95%)
1996/97	14,811 (96%)
1997/98	14,594 (99%)
1998/99	10,305 (71%)
1999/2000	8,473 (82%)
2000/01	9,916 (117%)
2001/02	10,238 (103%)
2002/03	9,966 (97%)
2003/04	8,005 (80%)
2004/05	7,146 (89%)
2005/06	8,051 (113%)
2006/07	8,617 (107%)
2007/08	6,266 (73%)
2008/09	4,835 (77%)
2009/10	4,439 (92%)
2010/11 〔見込み〕 〔Estimate〕	3,161 (71%)

暦年 Calendar Year	生糸生産量 Raw Silk Production (kg)	生糸生産量 Raw Silk Production (俵換算) (Bale value)
1988	1,748,996	29,150
1989	1,696,622	28,277
1990	1,693,206	28,220
1991	2,077,155	34,619
1992	2,296,053	38,268
1993	2,325,809	38,763
1994	2,535,440	42,257
1995	2,467,524 (97%)	41,125
1996	2,242,000 (91%)	37,367
1997	2,120,129 (95%)	35,335
1998	1,820,745 (86%)	30,346
1999	1,553,722 (85%)	25,895
2000	1,389,356 (89%)	23,156
2001	1,484,905 (107%)	24,748
2002	1,607,485 (108%)	26,791
2003	1,562,563 (97%)	26,043
2004	1,512,133 (97%)	25,202
2005	1,284,510 (85%)	21,409
2006	1,387,289 (108%)	23,121
2007	1,219,562 (88%)	20,326
2008	1,176,885 (97%)	19,615
2009	811,020 (69%)	13,517
2010	770,000 (95%)	12,833
2011 〔見込み〕 〔Estimate〕	557,000 (72%)	9,283

資料: ブラジル製糸協会

注: ( )内は対前年比

[ ]内の見込みは2011年2月現在

Source: ABRASSEDA

Note: Figures in parenthesis are compared to the previous year.

Estimates are as of February 2011.

## (11) ブラジルの繭、生糸・絹撚糸、絹織物の生産、輸入及び輸出状況(総括表)

## Production, Import and Export of Raw Silk, Twisted Silk and Silk Fabrics in Brazil (Summary)

年次 Year	生産 Production	年次 Year	輸入 Import	年次 Year	輸出 Export
	生繭Wet Cocoon (ton)		乾繭Dry Cocoon (kg)		乾繭Dry Cocoon (kg)
94/95	16,260	95	82,000	95	101,095
95/96	15,368	96	14,000	96	68,760
96/97	14,811	97	-	97	341,000
97/98	14,594	98	-	98	569,200
98/99	10,305	99	-	99	60,000
99/00	8,473	00	-	00	-
00/01	9,916	01	1,890	01	73,600
01/02	10,238	02	-	02	220,483
02/03	9,966	03	-	03	118,574
03/04	8,005	04	-	04	47,350
04/05	7,146	05	5,000	05	12,326
05/06	8,051	06	-	06	4,030
06/07	8,617	07	-	07	72,000
07/08	6,266	08	-	08	-
08/09	4,835	09	-	09	1,000
09/10	4,439	10*	-	10*	1,000
年次 Year	生糸 Raw Silk (ton)	年次 Year	生糸Raw Silk (kg)	年次 Year	生糸と撚糸 Raw Silk and Twisted Silk (kg)
95	2,468	95	1,700	95	2,321,040
96	2,270	96	6,200	96	2,174,636
97	2,120	97	1,100	97	1,892,930
98	1,821	98	1,080	98	1,678,193
99	1,554	99	863	99	1,742,670
00	1,389	00	43,653	00	1,474,225
01	1,485	01	51,822	01	1,287,693
02	1,607	02	29,524	02	1,415,284
03	1,563	03	27,493	03	1,488,333
04	1,512	04	11,943	04	1,353,551
05	1,285	05	27,571	05	1,129,838
06	1,387	06	47,455	06	1,173,284
07	1,220	07	67,686	07	1,150,297
08	1,177	08	124,831	08	994,801
09	811	09	76,478	09	866,759
10	770	10*	40,000	10*	643,000
年次 Year	絹織物Silk Fabrics (ton)	年次 Year	絹織物Silk Fabrics (kg)	年次 Year	絹織物Silk Fabrics (kg)
95	128	95	168,500	95	8,000
96	53	96	129,900	96	200
97	56	97	119,600	97	550
98	97	98	55,300	98	121
99	74	99	47,900	99	2,472
00	106	00	54,701	00	488
01	106	01	63,241	01	2,699
02	163	02	44,664	02	332
03	167	03	54,282	03	1,068
04	177	04	91,078	04	2,429
05	210	05	182,725	05	9,090
06	146	06	117,426	06	16,405
07	162	07	102,906	07	26,698
08	159	08	150,837	08	4,217
09	112	09	124,192	09	2,773
10*	101	10*	110,000	10*	3,000

資料: ブラジル製糸協会

注: \*印は見込み数値

Source: ABRASEDA

Note: \*Forecast

※「シルクレポート」の主要記事と統計データは、当支援センターのホームページでもご覧になれます。

**<http://www.silk-teikei.jp/index.html>**

シルクレポート 2012年5月号 NO.24 平成24年5月1日発行

編集 / 発行  
(問い合わせ先)

**(財) 大日本蚕糸会 蚕糸・絹業提携支援センター**  
〒100-0006 東京都千代田区有楽町1-9-4 蚕糸会館5階  
TEL : 03-3214-3500  
FAX : 03-3214-3511  
URL:<http://www.silk-teikei.jp/index.html>

製本 / 印刷 株式会社 正大印刷社

無断転載禁ず